

尼崎市男女共同参画に関する市民意識調査 報 告 書

令和8年(2026年)3月

尼 崎 市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収状況	1
4. 回答者の属性	1
5. 調査項目	2
6. 報告書を見る際の注意事項	2
II. 調査結果概要	3
1. 性別役割意識について	3
2. 男女の平等感について	4
3. 子育ての考え方について	6
4. 主な仕事、家事・育児時間、希望する働き方について	7
5. 地域活動における男女の役割分担について	10
6. 男女共同参画に向けて必要な取組	12
7. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について	13
8. 男女共同参画施策の認知度について	15
III. 調査結果	16
1. 回答者の属性	16
（1）性別	16
（2）年代	16
（3）結婚状況	16
（4）同居家族	16
（5）現在の主な仕事	17
（6）家計の状況	21
2. 男女の平等感について	22
（1）男女の平等感に対する現在の状況と理想の状況	22
（2）女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことの有無	36
（3）生きづらさや理不尽さを感じた考え方	37
3. 男女の役割分担について	39
（1）「男は仕事、女は家事・育児」という考え方	39
4. 仕事について	41
（1）仕事に対する考え方	41
（2）育児、介護などの時間の制約	44
（3）希望する働き方	45
5. 地域活動について	47
（1）地域活動での男女の分担の実態と考え	47

6. 子育てについて	52
(1) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきという考え方	52
(2) 子どもに希望する学歴.....	54
7. 男女共同参画施策等について.....	57
(1) 男女共同参画施策等の認知度.....	57
8. 性の多様性について	63
(1) 性的マイノリティの人の生きづらさ.....	63
(2) 性的マイノリティの人の生きづらき理由.....	64
9. 尼崎市女性センタートレピエについて.....	66
(1) 女性センタートレピエの認知度.....	66
(2) 男女共同参画に向けて必要な取組.....	67
10. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について	69
(1) 配偶者やパートナー、恋人からの暴力行為に対する考えや経験	69
(2) 配偶者やパートナー、恋人から受けた行為についての相談状況	84
11. 抱えている困難な問題について.....	88
(1) 生活の中で感じている困難さ.....	88
(2) 生活の中で感じている困難な内容.....	89
 IV. スコア分析	 94
1. 男女共同参画施策等の認知度に関するスコア分析	94
 V. 資料編（調査票）	 98

I. 調査の概要

1. 調査目的

本市における男女共同参画に関する意識の変化等を把握し、「第5次尼崎市男女共同参画計画」及び「第4次尼崎市配偶者等からの暴力（DV）対策基本計画」の策定及び今後の施策展開の基礎資料とするために本調査を実施しました。

2. 調査方法

調査対象	調査期間	調査方法
18歳以上の市民3,000人を 住民基本台帳登録者から 無作為抽出	令和7年(2025年) 10月1日～10月27日	郵送配布、郵送回収及び オンラインによる回答

3. 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000件	1,344件 (前回：1,196件)	44.8% (前回：39.9%)

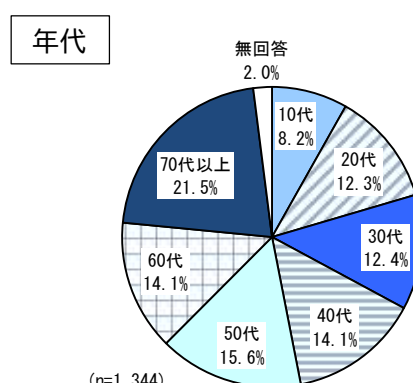
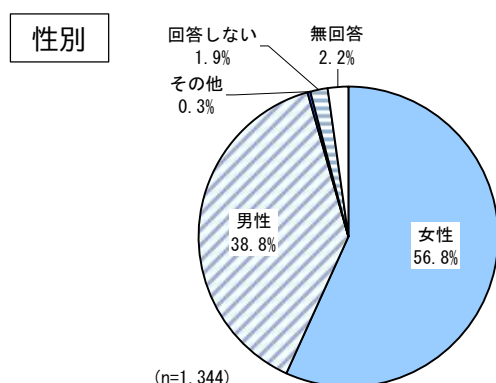
(※令和7年(2025年)11月7日時点までの回収票を反映)

4. 回答者の属性

年齢 区分	女性		男性		その他		回答しない		無回答		合計	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
10代	58	4.3%	48	3.6%	-	-	4	0.3%	-	-	110	8.2%
20代	98	7.3%	61	4.5%	2	0.1%	4	0.3%	-	-	165	12.3%
30代	100	7.4%	61	4.5%	2	0.1%	3	0.2%	-	-	166	12.4%
40代	126	9.4%	56	4.2%	-	-	7	0.5%	-	-	189	14.1%
50代	124	9.2%	81	6.0%	-	-	3	0.2%	1	0.1%	209	15.6%
60代	101	7.5%	85	6.3%	-	-	2	0.1%	1	0.1%	189	14.1%
70代	157	11.7%	129	9.6%	-	-	2	0.1%	1	0.1%	289	21.5%
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	27	2.0%	27	2.0%
合計	764	56.8%	521	38.8%	4	0.3%	25	1.9%	30	2.2%	1,344	100.0%

(※率は全体の回答者数1,344を基数とした百分率です。)

(※小数点以下第2位を四捨五入しているため、一部合計が合わない箇所があります。)



5. 調査項目

- ① 回答者の属性
- ② 男女の平等感について
- ③ 男女の役割分担について
- ④ 仕事について
- ⑤ 地域活動について
- ⑥ 子育てについて
- ⑦ 男女共同参画施策等について
- ⑧ 性の多様性について
- ⑨ 尼崎市女性センタートレピエについて
- ⑩ 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について
- ⑪ 抱えている困難な問題について

6. 報告書を見る際の注意事項

- ・ 回答は各質問の回答者数（n）を基数として百分率（％）で示しています。
- ・ 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100％にならないことがあります。
- ・ 1つの質問に2つ以上答えられる複数回答の質問の場合は、回答比率の合計が100％を超える場合があります。
- ・ グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合があります。
- ・ サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛しています。
- ・ 選択肢「その他」については比較の対象から除外しています。
- ・ 「前回調査」とは令和2年(2020年)10月に実施した「尼崎市 男女共同参画に関する市民意識調査」のことです。

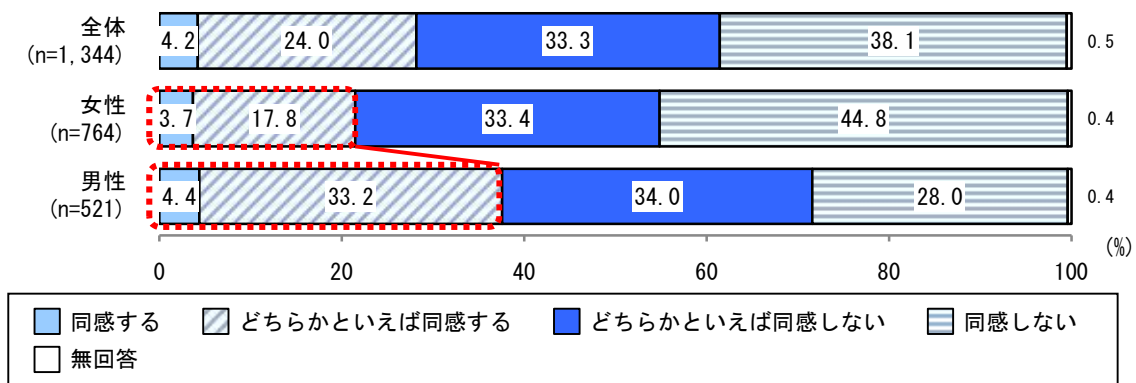
Ⅱ. 調査結果概要

1. 性別役割意識について（39～40頁） ※頁数は調査結果本編での該当頁を示しています。

- 前回調査（R2 実施）より、「男は仕事、女は家事・育児」に『不同意』（「どちらかといえば同感しない」+「同感しない」）の割合が30代以上の年代で増加している。
- 「男は仕事、女は家事・育児」に『同意』（「同感する」+「どちらかといえば同感する」）割合は男性のほうが高くなっている。

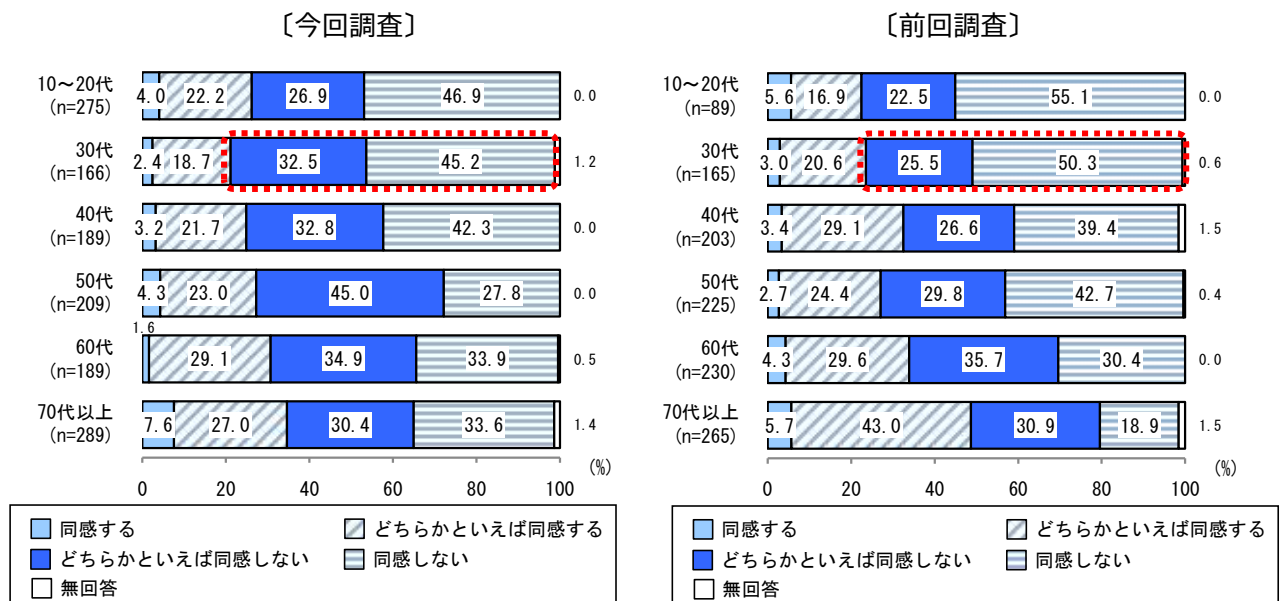
○「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、男性で『同意』の割合が37.6%と、女性（21.5%）より16.1ポイント高くなっています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方】

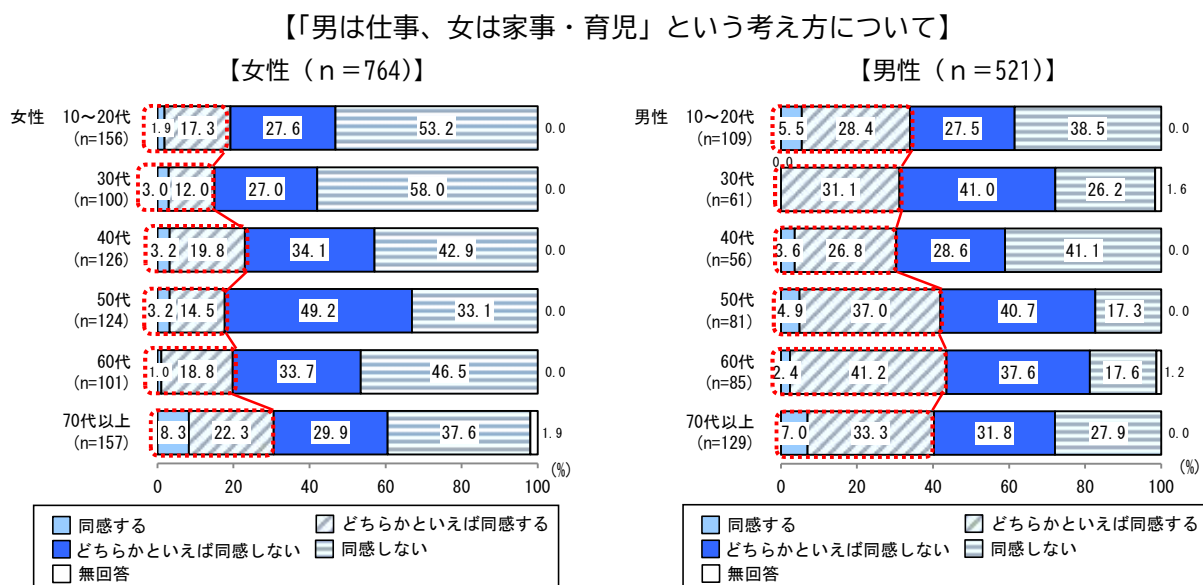


○また、年代別で前回調査と比較すると、『不同意』の割合が30代以上の年代では前回より高くなっています。特に、前回調査では70代以上で『同意』が半数近くを占めていたのが、今回調査では『不同意』が6割を超えて高くなっており、すべての年代で『不同意』が『同意』を大きく上回っています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方 前回調査との比較】



○性年代別にみると、女性は30代では『同意』の割合が40代と比べて少なく、30代と40代の差が大きくなっています。一方で、男性は30代と40代でほぼ差がみられません。

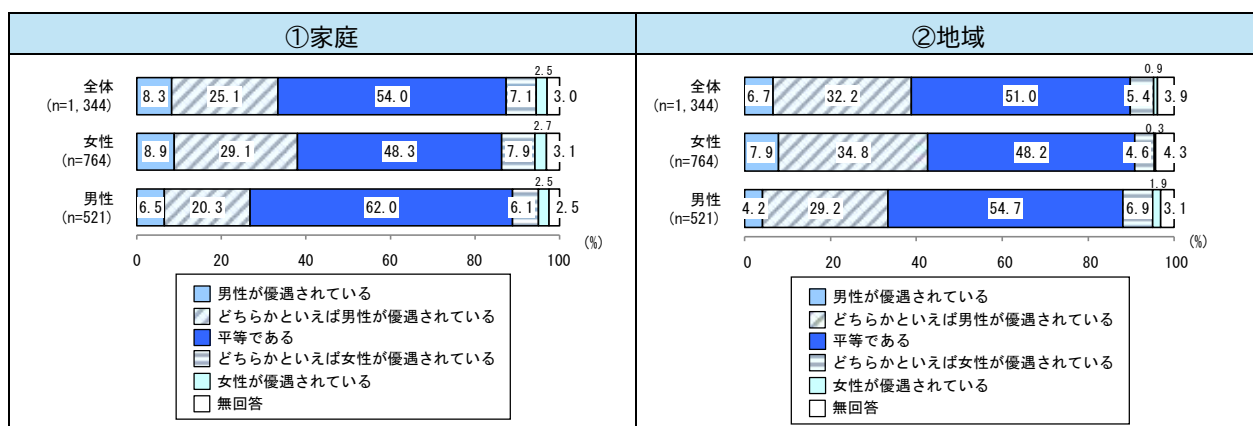


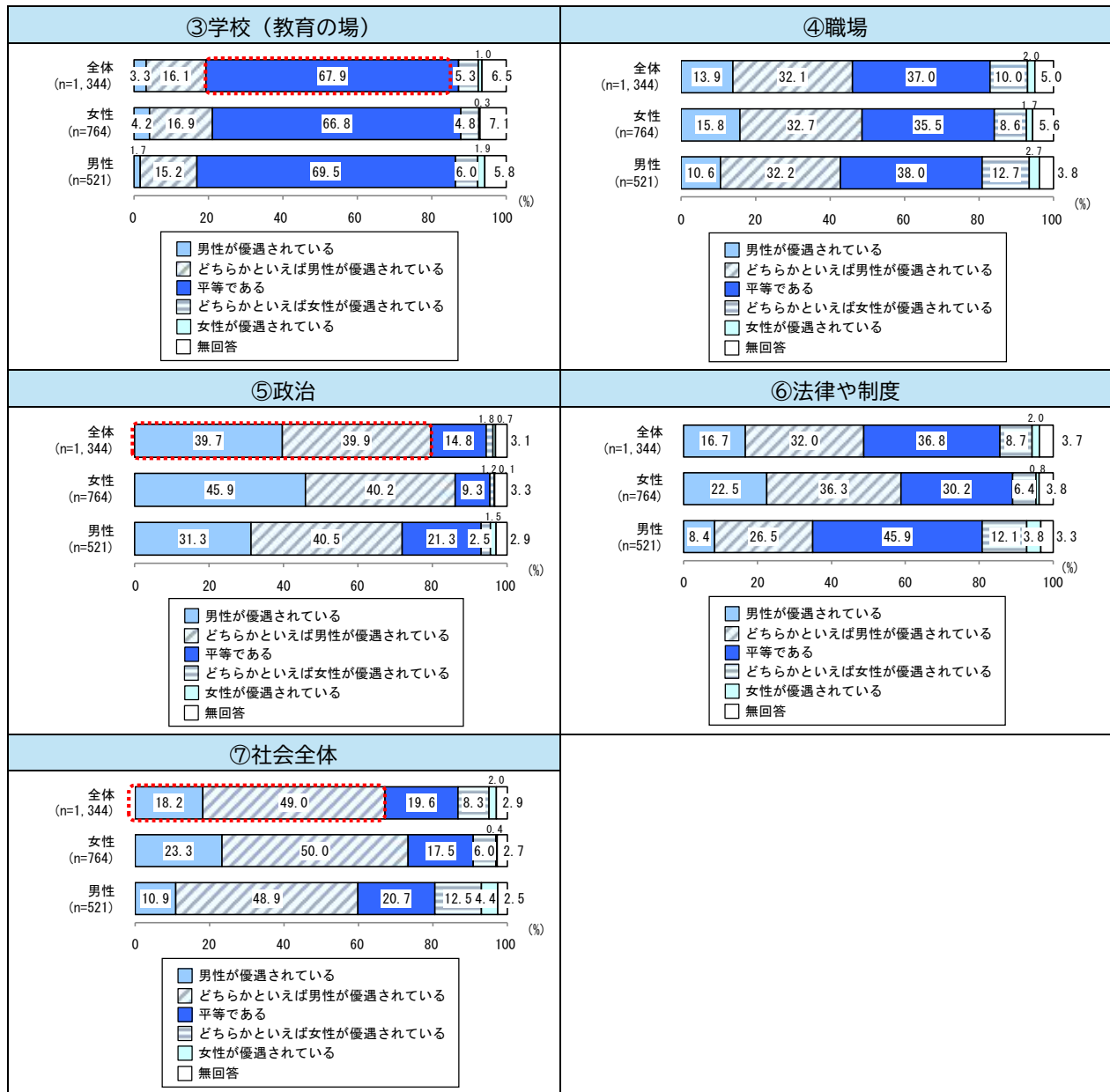
2. 男女の平等感について (22～35頁)

- いずれの分野においても、女性で『男性優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」）と感じる割合が男性より高くなっている。
- 特に「政治」において、『男性優遇』と感じる割合が最も高くなっている。
- 「学校（教育の場）」において、「平等である」と感じる割合が最も高くなっている。

○「⑤政治」、「⑦社会全体」において、『男性優遇』と感じる割合が全体で6割以上を占めており、「⑤政治」で最も高くなっています。

○「③学校（教育の場）」においては、「平等である」が全体で67.9%と7割近くを占めています。



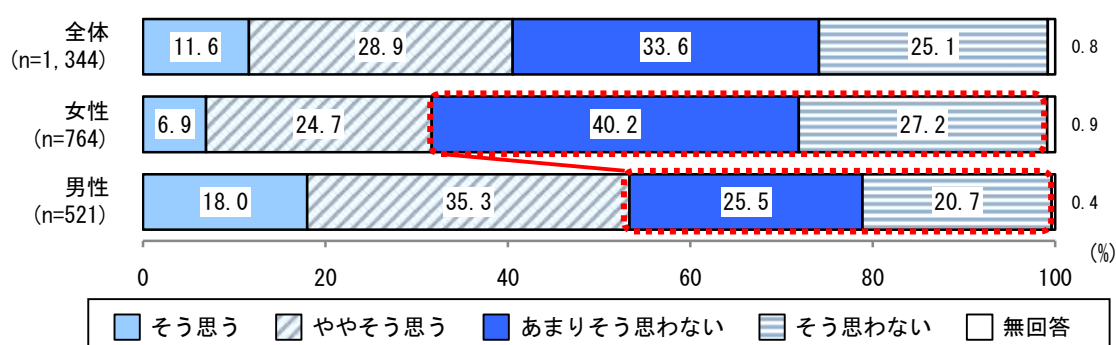


3. 子育ての考え方について（52～53頁）

- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について、女性では『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）の割合が高い一方で、男性では『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合が高くなっている。

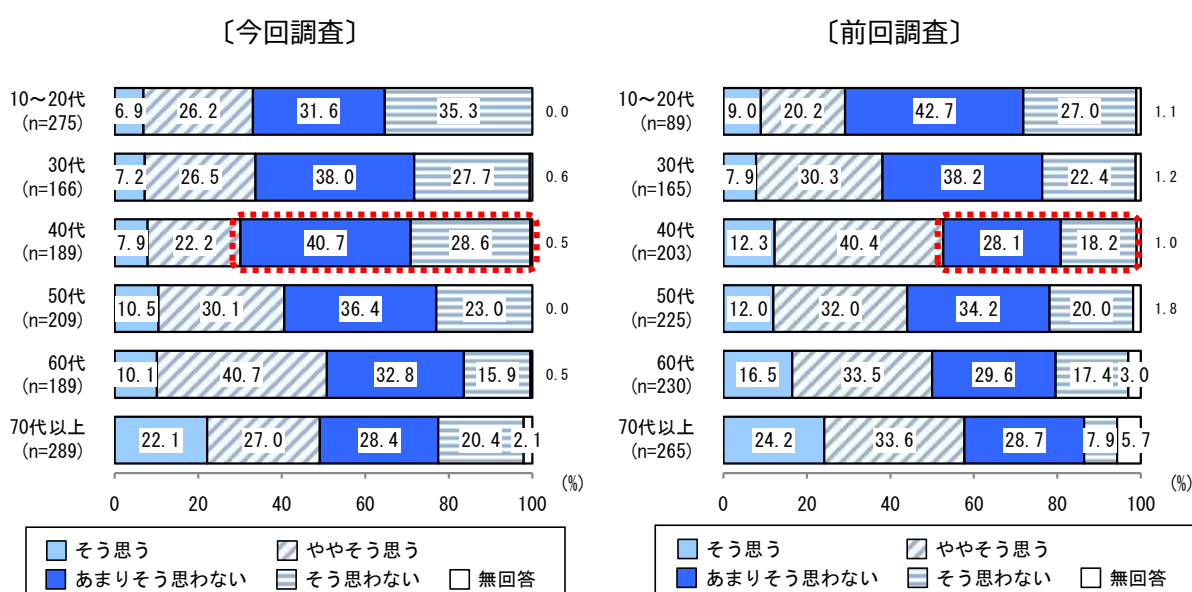
○「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき」という考え方については、女性で『そう思わない』が67.4%と、男性（46.2%）より21.2ポイント高くなっています。一方で、男性では『そう思う』が53.3%と5割以上となっています。

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について】



○年代別で前回調査と比較すると、『そう思わない』と感じる割合が40代（69.3%）では前回調査（46.3%）より23.0ポイント高くなっています。

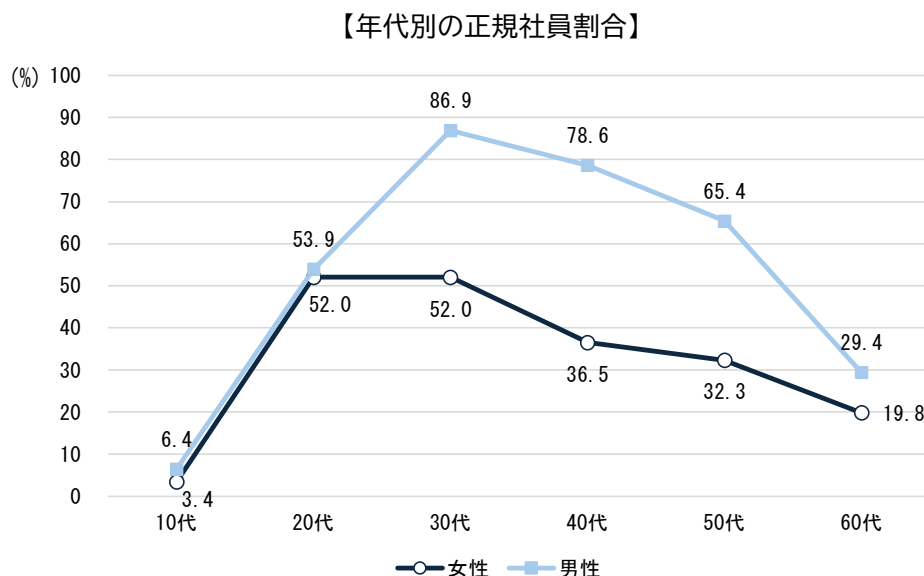
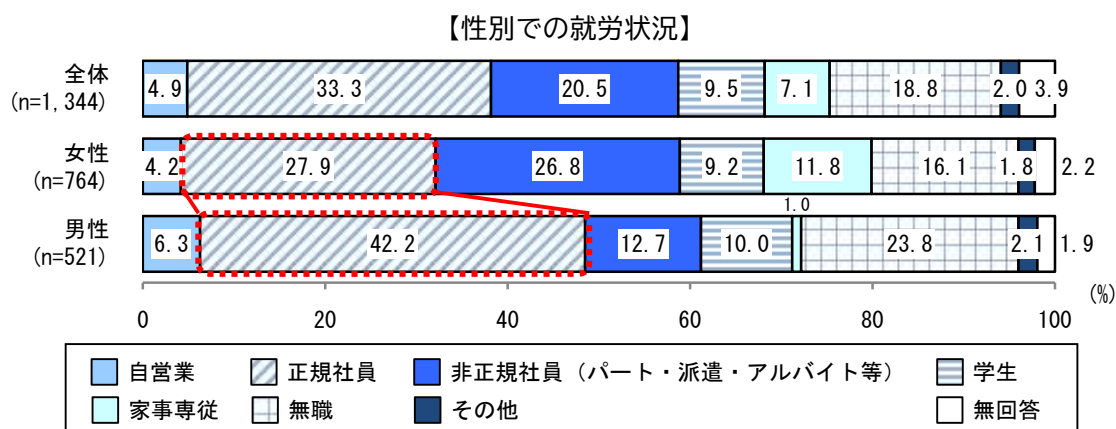
【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について 前回調査との比較】



4. 主な仕事、家事・育児時間、希望する働き方について（17～19頁・44～46頁）

- 主な仕事は男女とも「正規社員」が多く、女性は「非正規社員」の割合が男性より高くなっている。
- 正規職員の割合を年代別にみると、女性では 30 代の 52.0%をピークに減少傾向となっており、「L字カーブ」を描いている。性別で比較すると、30～50 代で 30 ポイント以上の差がみられる。
- 育児、介護などで時間の『制約がある』（「ある」+「どちらかといえばある」）の割合は男性より女性のほうが高くなっている。
- 年代別でみると、『制約がある』割合は 30 代が 53.1%で最も高く、次いで 40 代が 49.2%となっている。
- 制約の要因がなくなった場合の希望する働き方について、性別でみると、「このままでよい」の割合は女性のほうが低く、「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」、「今よりもっと長い時間働きたい」の割合は、女性のほうが高くなっている。

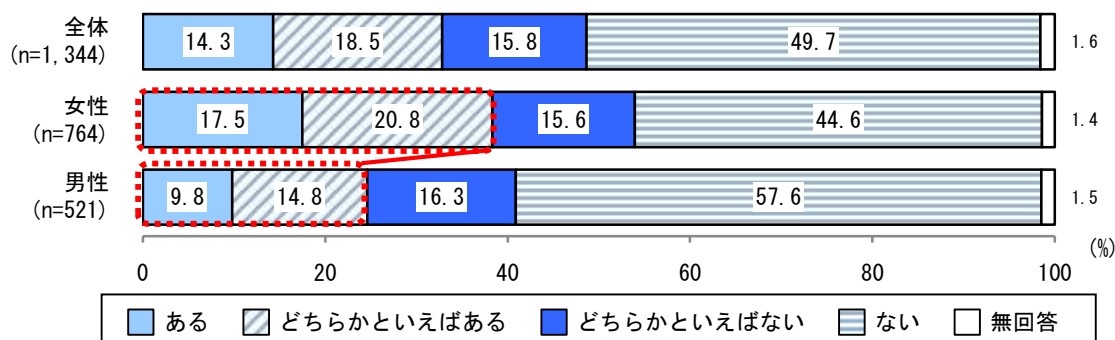
○現在の主な仕事について、性別にみると、男女ともに「正規社員」が最も高くなっているものの、男性が42.2%と、女性（27.9%）より14.3ポイント高くなっています。また、女性では「非正規社員」が26.8%、「家事専従」が11.8%と、ともに男性より10ポイント以上高くなっています。



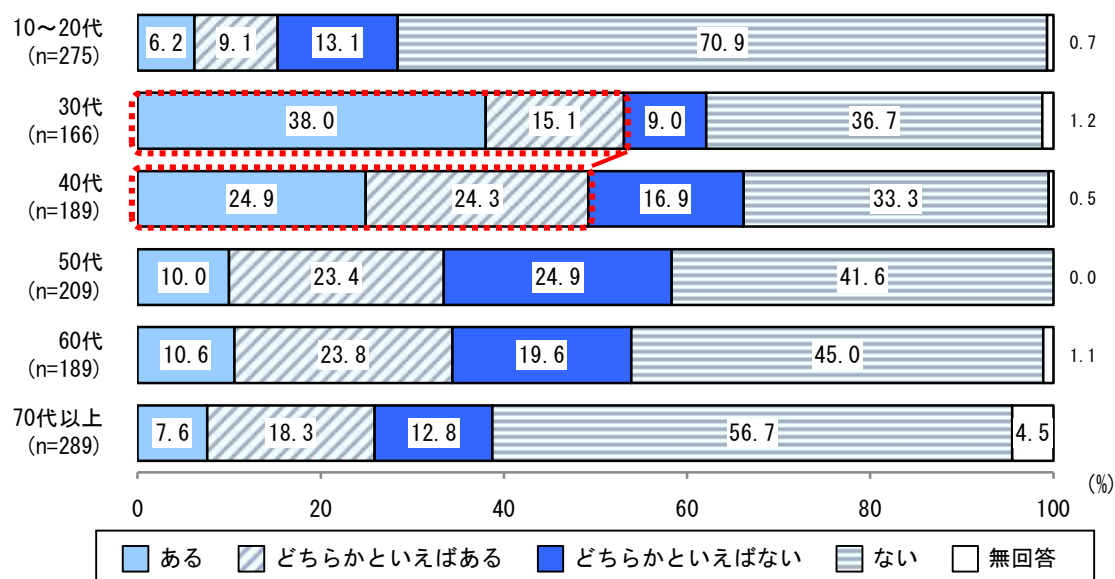
○育児、介護などで時間の制約があるかについては、「ない」が約半数を占めていますが、性別でみると、『制約がある』割合は、男性（24.6%）より女性（38.3%）のほうが13.7ポイント高くなっています。

○年代別でみると、『制約がある』割合は30代が53.1%で最も高く、次いで40代が49.2%となっています。

【育児、介護などの時間の制約】

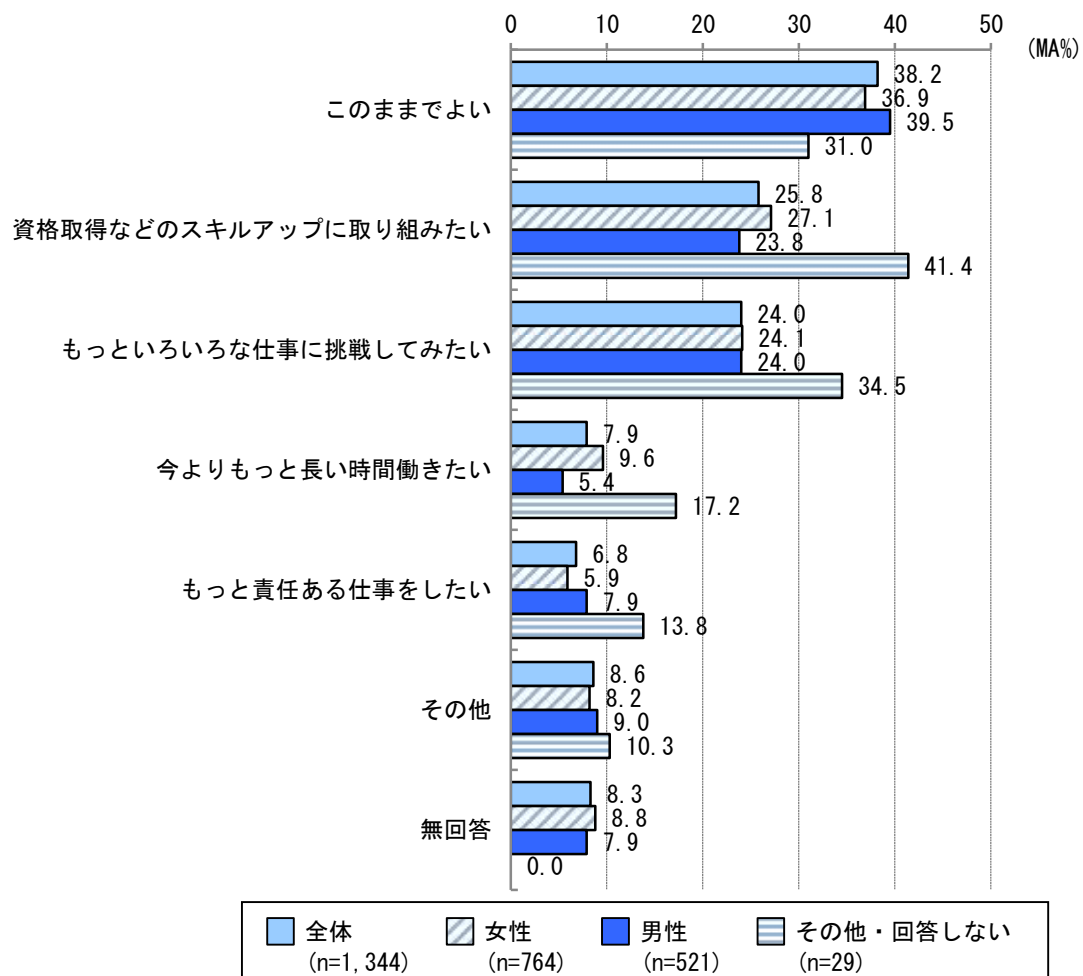


【育児、介護などの時間の制約】



○希望する働き方については、「このままでよい」が38.2%、「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」が25.8%、「もっといろいろな仕事に挑戦してみたい」が24.0%となっています。

○性別でみると、「今よりもっと長い時間働きたい」の割合は男性（5.4%）より女性（9.6%）のほうが4.2ポイント高くなっています。

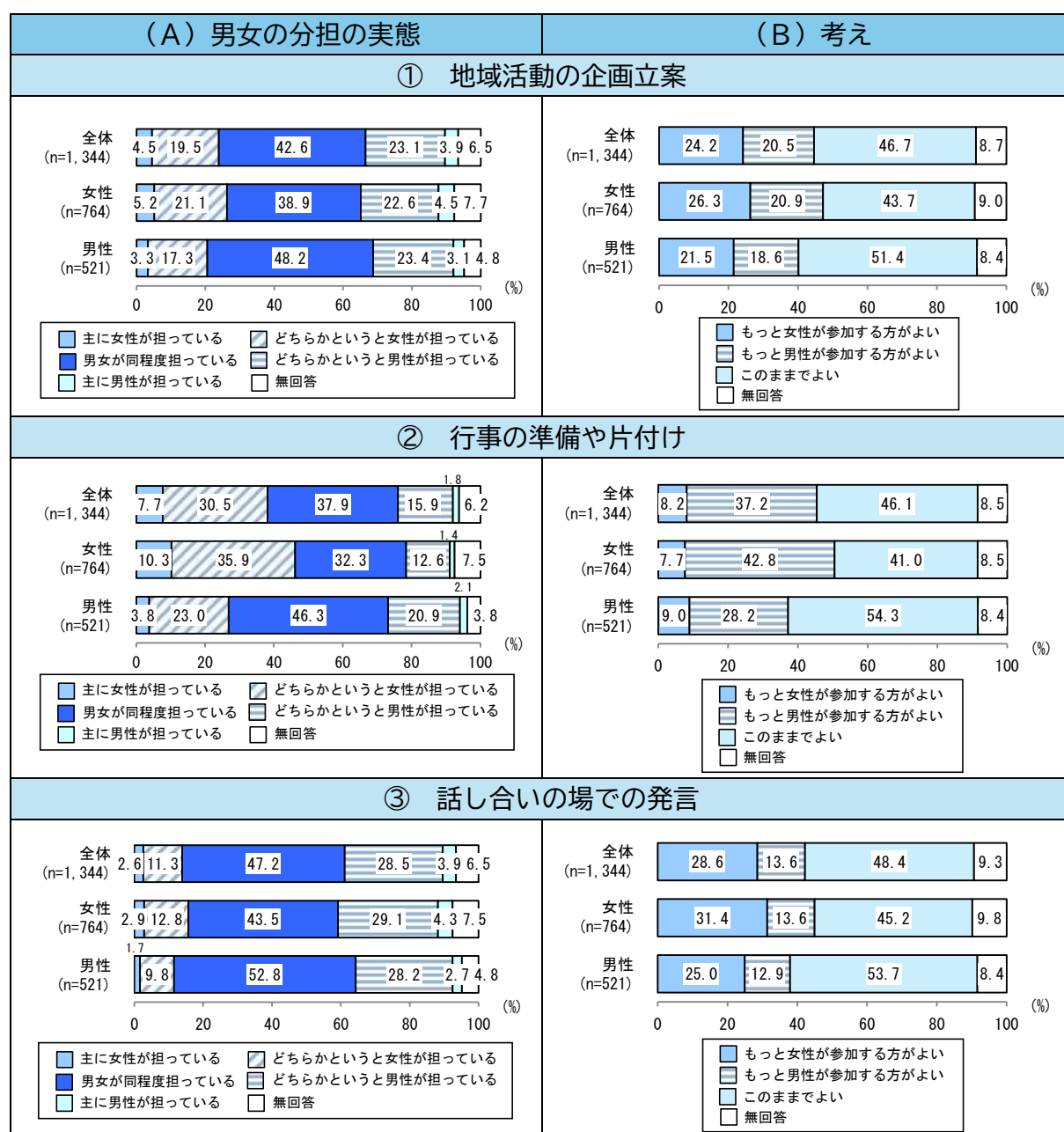


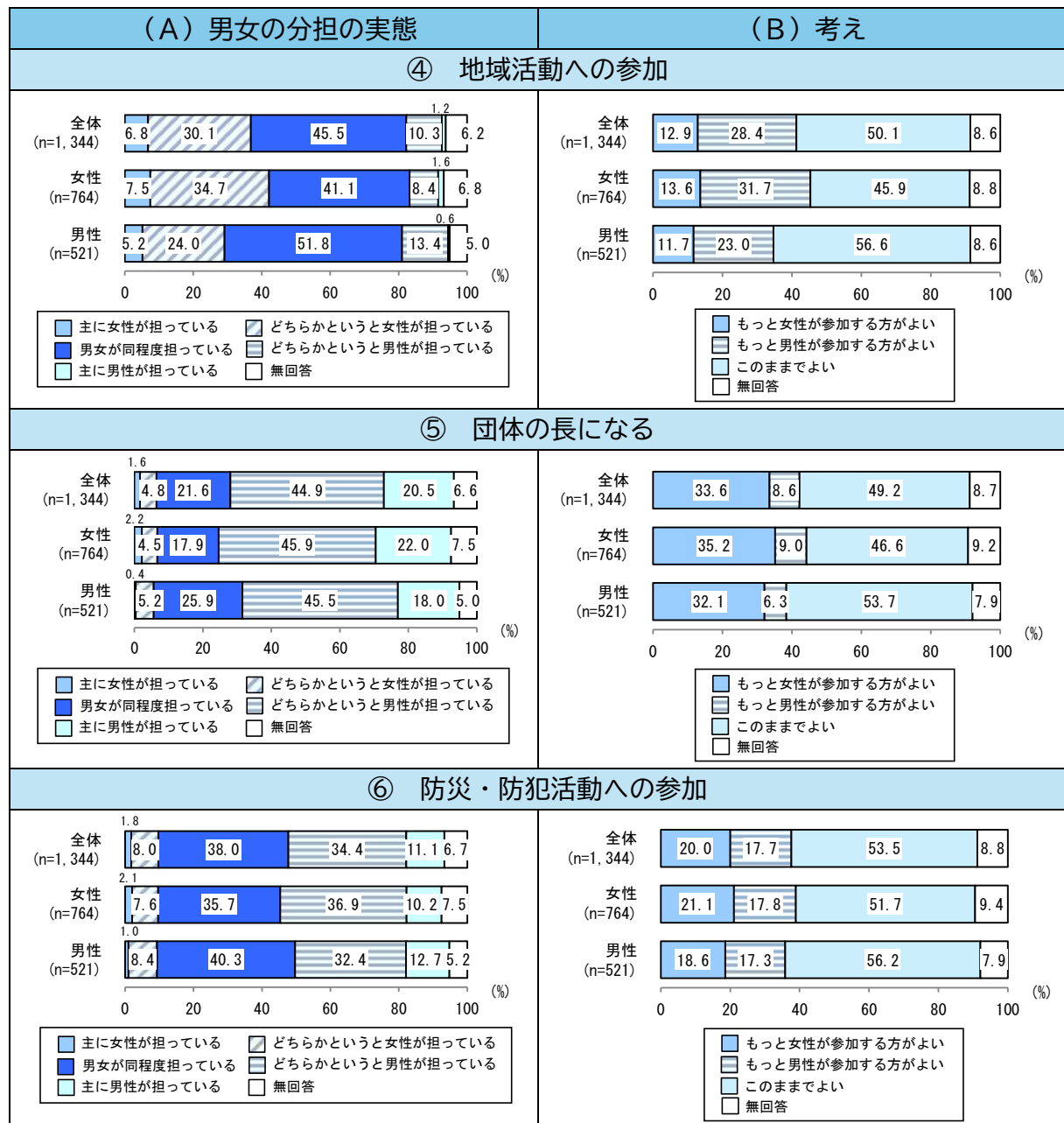
5. 地域活動における男女の役割分担について（47～51頁）

- 地域活動の役割分担の実態については、「行事の準備や片付け」「地域活動への参加」において女性が担うことが多い一方で、特に「団体の長になる」において、男性が担うことが多くなっている。

○地域活動の男女の役割分担の実態については、「⑤団体の長になる」において、「どちらか」というと男性」が最も高く、その他では「男女同程度」が最も高くなっています。

○地域活動の男女の役割分担への考えについては、「①地域活動の企画立案」・「③話し合いの場での発言」・「⑤団体の長になる」・「⑥防災・防犯活動への参加」において、「もっと女性が参加する方がよい」が2割以上を占めています。また、「②行事の準備や片付け」において、「もっと男性が参加する方がよい」が3～4割程度を占めています。



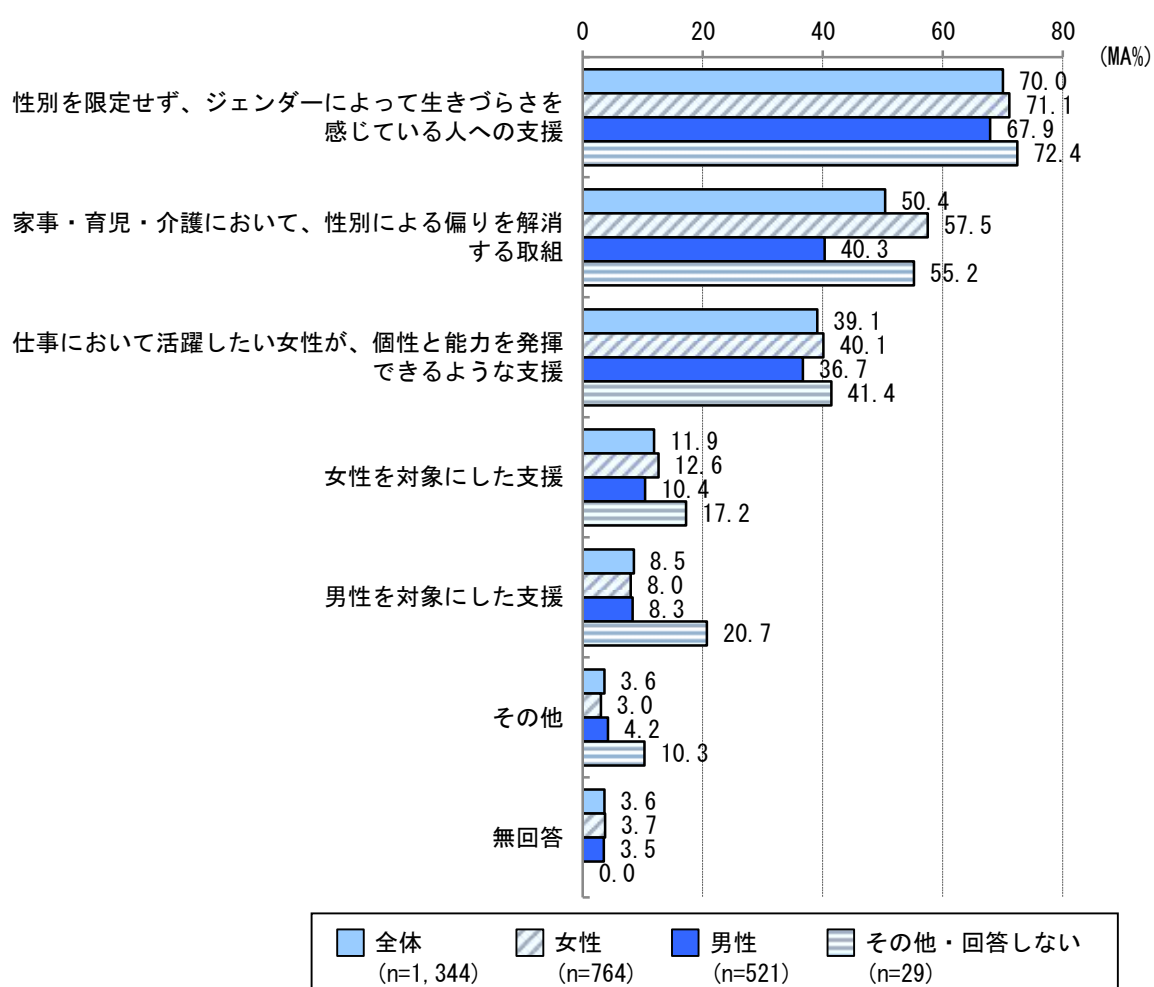


6. 男女共同参画に向けて必要な取組（67～68頁）

- 性別でみると、「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」の割合は男性（40.3%）より女性（57.5%）のほうが17.2ポイント高くなっている。

○男女共同参画に必要な取組については、「性別を限定せず、ジェンダーによって生きづらさを感じている人への支援」が70.0%で最も多く、次いで「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」が50.4%、「仕事において活躍したい女性が、個性と能力を発揮できるような支援」が39.1%となっています。

○性別でみると、「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」の割合は男性（40.3%）より女性（57.5%）のほうが17.2ポイント高くなっています。



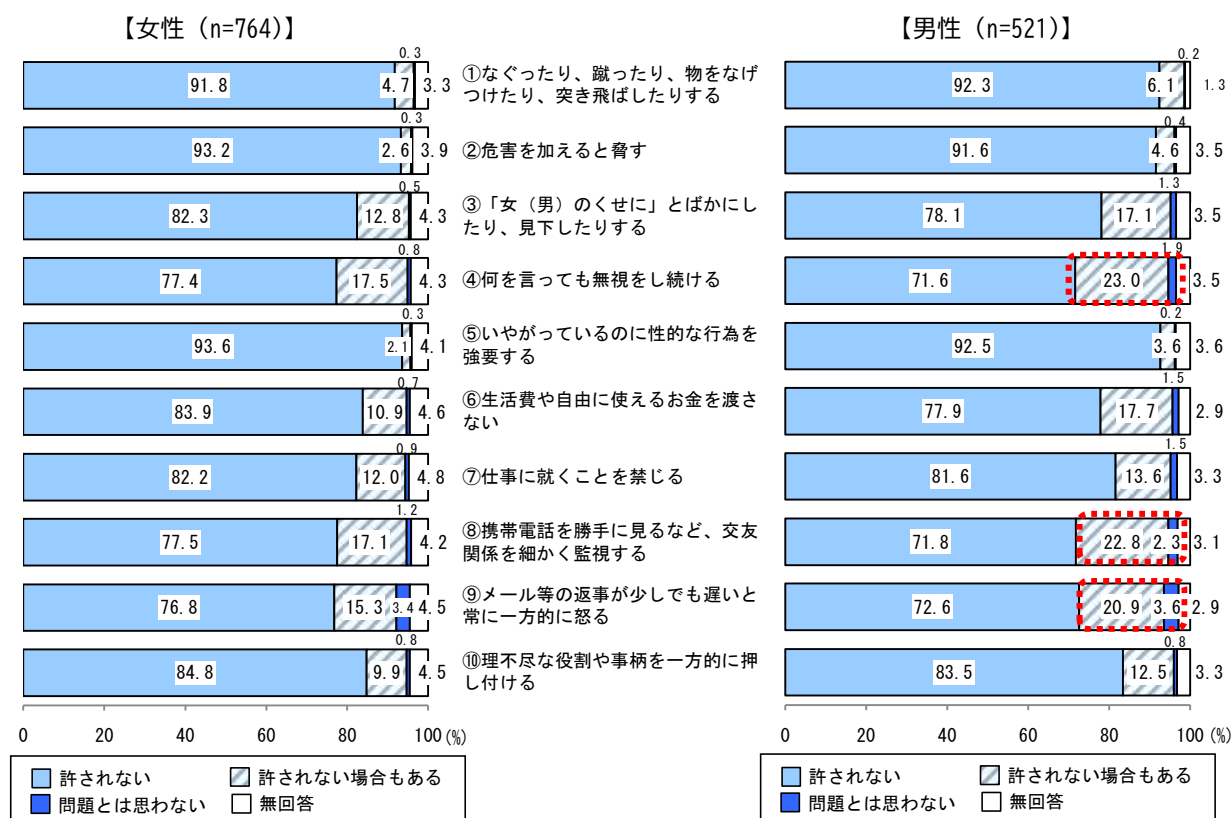
7. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について（69～83頁）

- 身体的・性的暴力などに比べ、精神的・経済的・社会的暴力での問題意識が薄い傾向がみられる。
- 暴力の被害経験のある割合は、ほとんどの項目で女性が男性より高い結果となっている。
- 子ども時代に暴力を目撃した人では、暴力の加害・被害経験のある割合が高い結果となっている。

【暴力の考えについて】

○暴力の考えについては、男性は「④何を言っても無視をし続ける」・「⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する」・「⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る」で、「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が2割以上となっています。

○性別にみると、すべての項目において、「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が男性のほうがやや高くなっています。

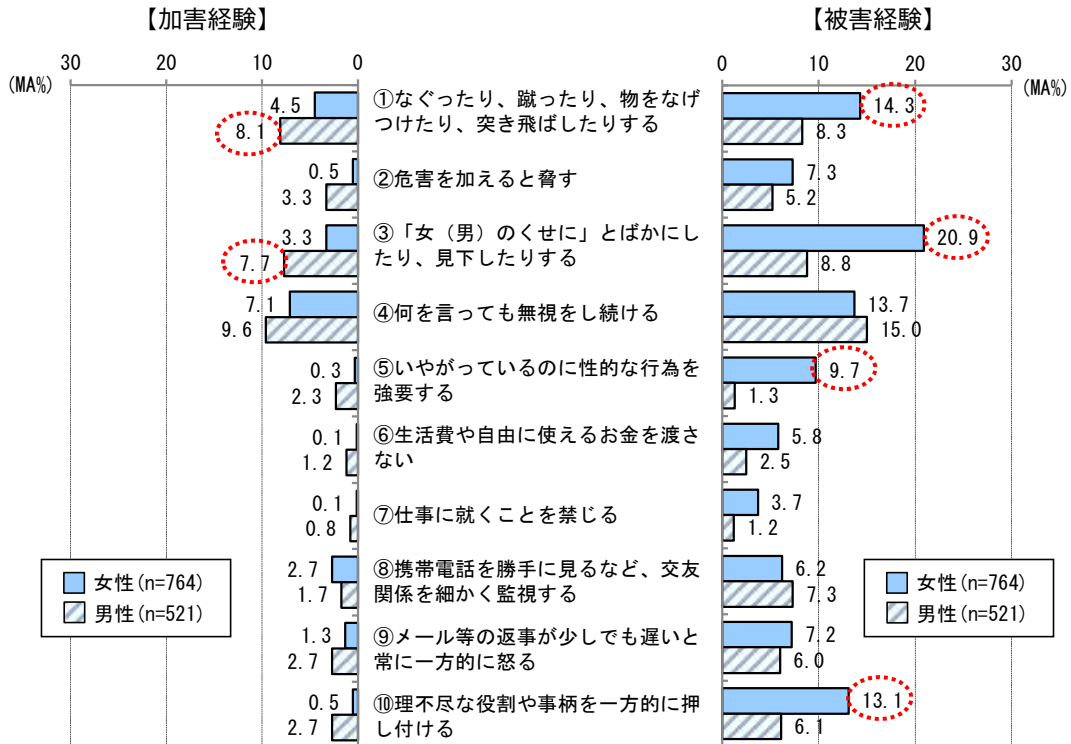


暴力の分類	内容	対応する調査項目
身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつけるなど、直接相手の身体を傷つける暴力	①
性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しないなど、同意のない性行為を相手に強要する暴力	⑤
精神的暴力	大声でどなる、ばかにするなど、心無い言動で相手の心を傷つける暴力	②・③・④・⑨・⑩
経済的暴力	生活費を渡さない、仕事を制限するなど相手を経済的に苦しめる暴力	⑥・⑦
社会的暴力	携帯をチェックする、交友関係を監視するなど、相手を社会的に孤立させる暴力	⑧

【暴力の経験について】

○暴力の経験については、加害経験において、男性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」が女性より3ポイント以上高くなっています。

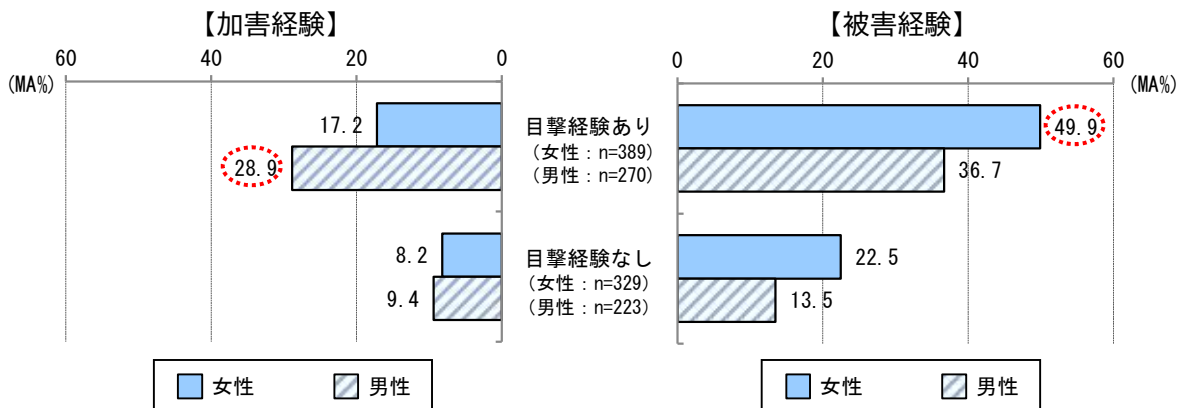
○被害経験では、女性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」・「⑤いやがっているのに性的な行為を強要する」・「⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける」が、男性より5ポイント以上高くなっています。



【子ども時代の目撃経験と加害・被害経験について】

○子ども時代に暴力の目撃経験がある人では、暴力の加害経験、被害経験のある割合が、目撃経験のない人よりも高くなっています。

○性別にみると、加害経験については、目撃経験のある男性で28.9%と、目撃経験のある女性（17.2%）より11.7ポイント高くなっている一方で、被害経験については、目撃経験のある女性で49.9%と、目撃経験のある男性（36.7%）より13.2ポイント高くなっています。

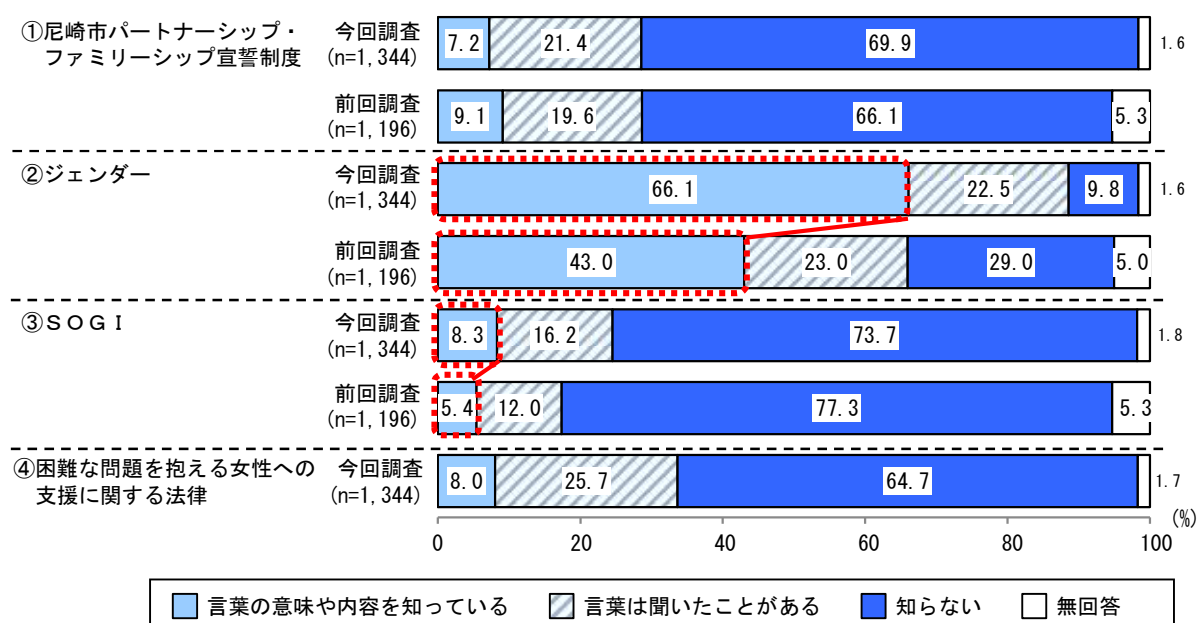


8. 男女共同参画施策の認知度について（57～62頁）

- 前回調査（R2 実施）より、「ジェンダー」・「SOGI」についての認知度が高くなっている。

○男女共同参画施策等の認知度については、前回調査より、「②ジェンダー」・「③SOGI」で「言葉の意味や内容を知っている」割合が高くなっています。特に、「②ジェンダー」については前回調査から23.1ポイント高くなっており、認知度が大きく向上しています。

【男女共同施策等の認知度について】



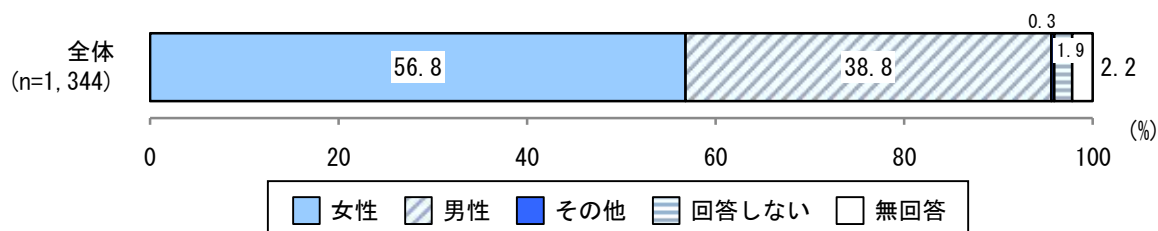
※前回調査と比較すると、①の「知らない」の割合が高くなっている理由として、令和7年(2025年)6月より、制度内容を拡充したことで、制度名称が“パートナーシップ宣誓制度”から“パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”に変更になったことが要因の一つとして考えられる。

Ⅲ. 調査結果

1. 回答者の属性

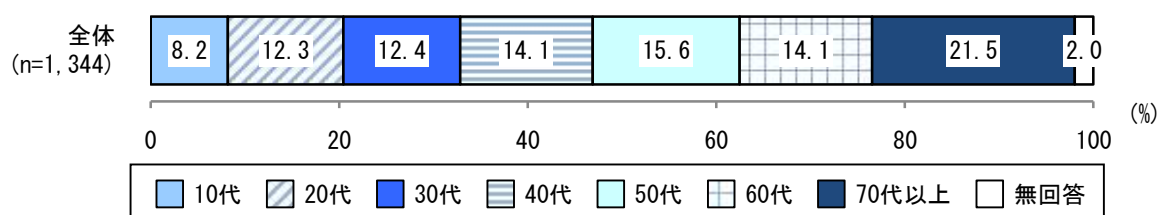
(1) 性別

・性別は、「女性」が56.8%、「男性」が38.8%、「その他」が0.3%、「回答しない」が1.9%となっています。



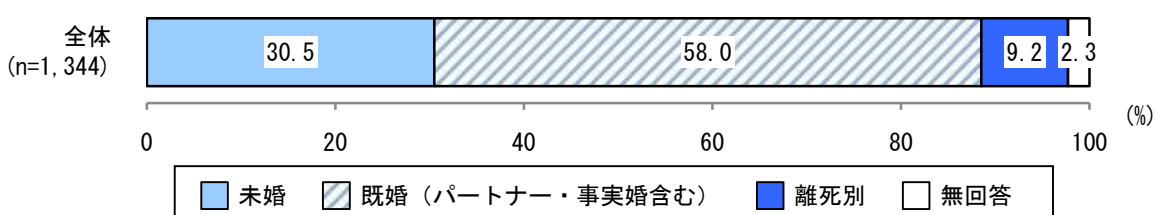
(2) 年代

・年代は、「70代以上」が21.5%で最も多く、次いで「50代」が15.6%、「40代」と「60代」がそれぞれ14.1%となっています。



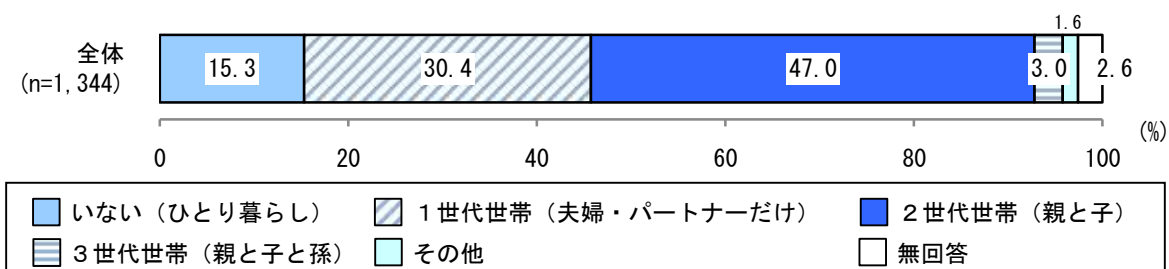
(3) 結婚状況

・結婚状況は、「既婚（パートナー・事実婚含む）」が58.0%で最も多く、次いで「未婚」が30.5%、「離死別」が9.2%となっています。



(4) 同居家族

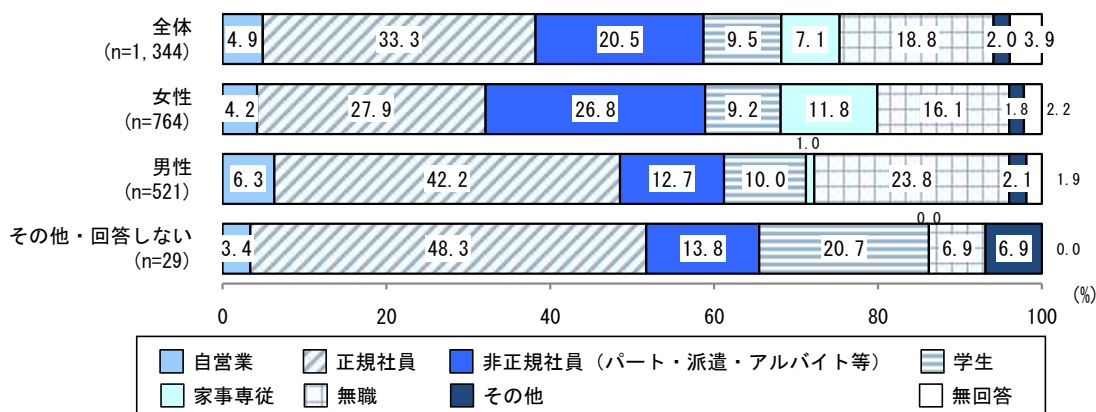
・同居家族は、「2世代世帯（親と子）」が47.0%で最も多く、次いで「1世代世帯（夫婦・パートナーだけ）」が30.4%、「いない（ひとり暮らし）」が15.3%となっています。



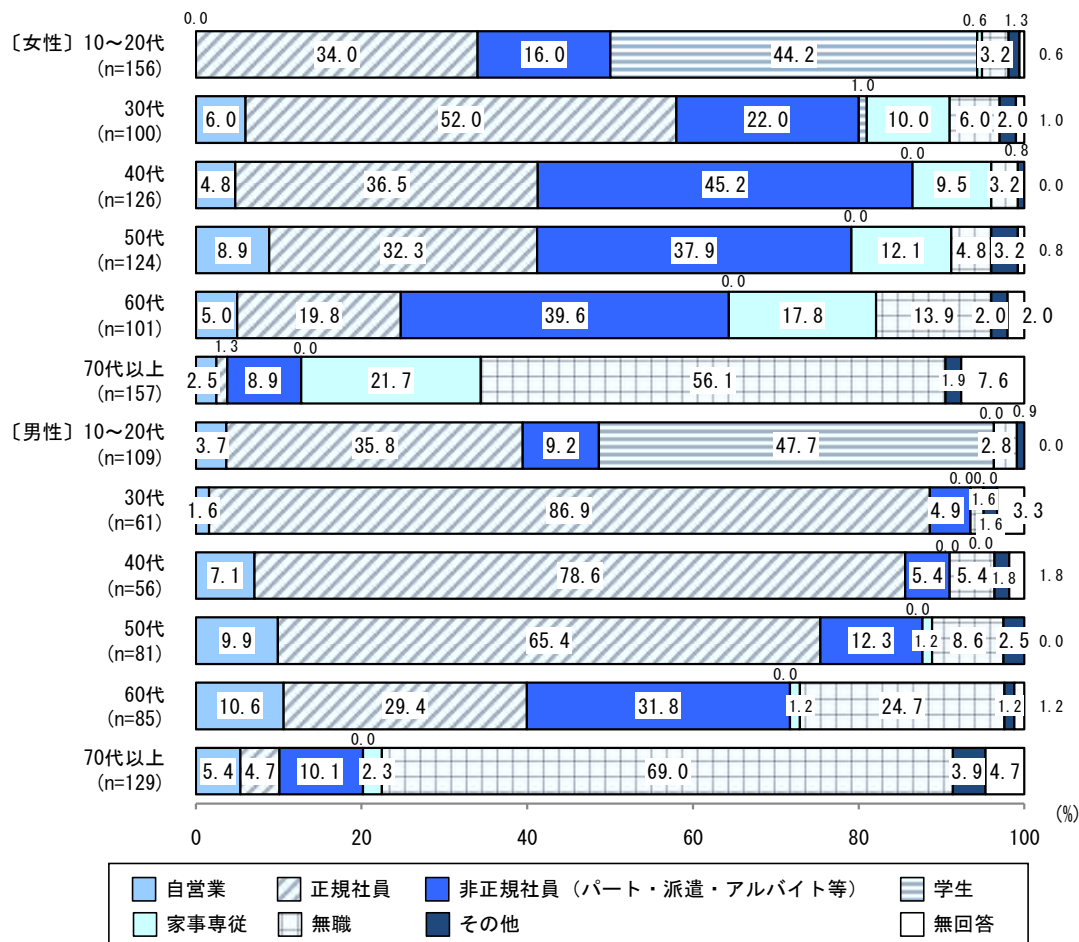
(5) 現在の主な仕事

①回答者自身の主な仕事

- ・回答者自身の主な仕事は、「正規社員」が33.3%で最も多く、次いで「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」が20.5%、「無職」が18.8%となっています。
- ・性別でみると、女性では「正規社員」が27.9%で最も多く、次いで「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」が26.8%となっています。男性では「正規社員」が42.2%で最も多く、次いで「無職」が23.8%となっています。

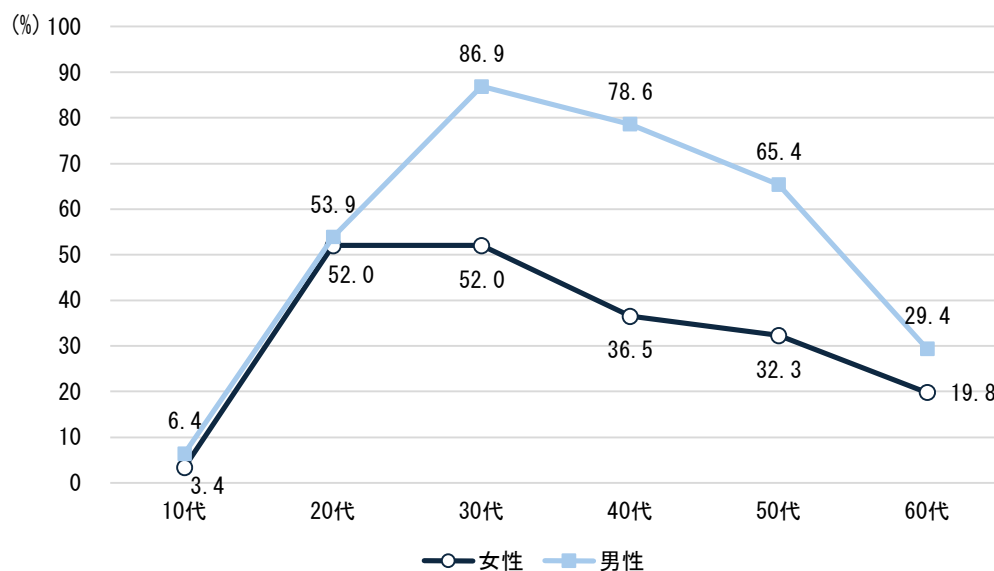


- ・性年代別でみると、女性は40代で「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」の割合が最も高くなっています。30代は「正規社員」が52.0%と高くなっており、「自営業」、「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」をあわせた『有職者』の割合が80.0%を占めています。



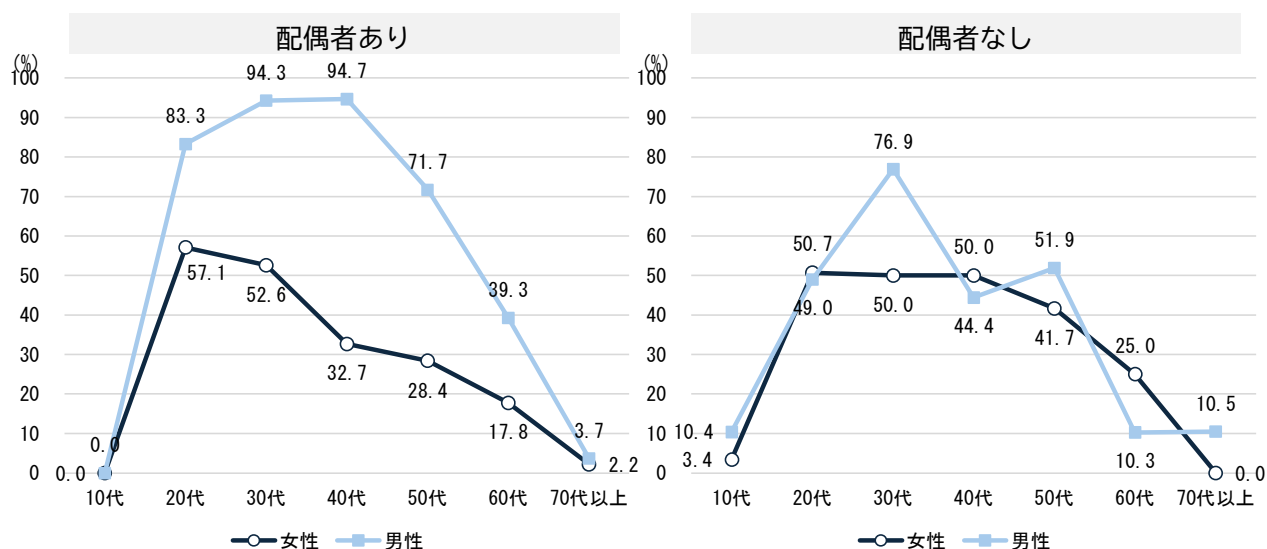
【年代別の正規社員割合】

- ・ 正規職員の割合を年代別にみると、女性では30代の52.0%をピークに減少傾向となっており、出産を契機に女性が非正規雇用化すること等によって、正規雇用比率が年代とともに低下する「L字カーブ」を描いています。
- ・ 性別で比較すると、30～50代で30ポイント以上の差がみられます。



【配偶者の有無別にみた年代別の正規社員割合】

- ・ 配偶者の有無別にみると、“配偶者あり”で、より顕著に女性は「L字カーブ」を描いており、性別で比較すると、20代で25ポイント以上、30代で40ポイント以上、40代では60ポイント以上の差がみられます。



【前回調査との比較（年代別）】

- ・前回調査と比較すると、60代以上の「正規社員」の割合が高く、40～60代で「非正規社員」の割合が高くなっています。

(単位：%)

		n	自営業	正規社員	派遣・正規社員 アルバイト等	学生	家事専従	無職	その他	無回答
今回調査	10～20代	275	1.5	34.9	12.7	46.2	0.4	2.9	1.1	0.4
	30代	166	4.2	64.5	15.7	0.6	6.0	4.2	3.0	1.8
	40代	189	5.3	50.3	32.8	—	6.3	3.7	1.1	0.5
	50代	209	9.1	45.5	28.2	—	7.7	6.2	2.9	0.5
	60代	189	7.9	24.3	35.4	—	10.1	19.0	1.6	1.6
	70代以上	289	3.8	2.8	9.3	—	12.8	62.3	2.8	6.2
前回調査	10～20代	89	2.2	75.3	6.7		1.1		1.1	3.4
	30代	165	2.4	68.5	18.2		4.2		1.8	0.6
	40代	203	5.9	61.6	22.2		3.0		1.5	1.0
	50代	225	7.6	53.3	23.1		8.4		0.9	0.9
	60代	230	8.3	16.5	30.0		11.3		2.6	0.9
	70代以上	265	7.9	2.3	11.3		23.8		2.6	6.4

※前回調査では「学生」に該当する項目は「就労している学生」「就労していない学生」、「無職」に該当する項目は「無職・退職」「失業中・求職中」と分かれていたため、今回調査の「学生」・「無職」においては比較対象としていない。

【前回調査との比較（性年代別）】

- ・性年代別に前回調査と比較すると、女性の40代で「正規社員」の割合が低く、「非正規社員」が高くなっています。また、男性では50～60代で「非正規社員」の割合が前回調査より高くなっています。

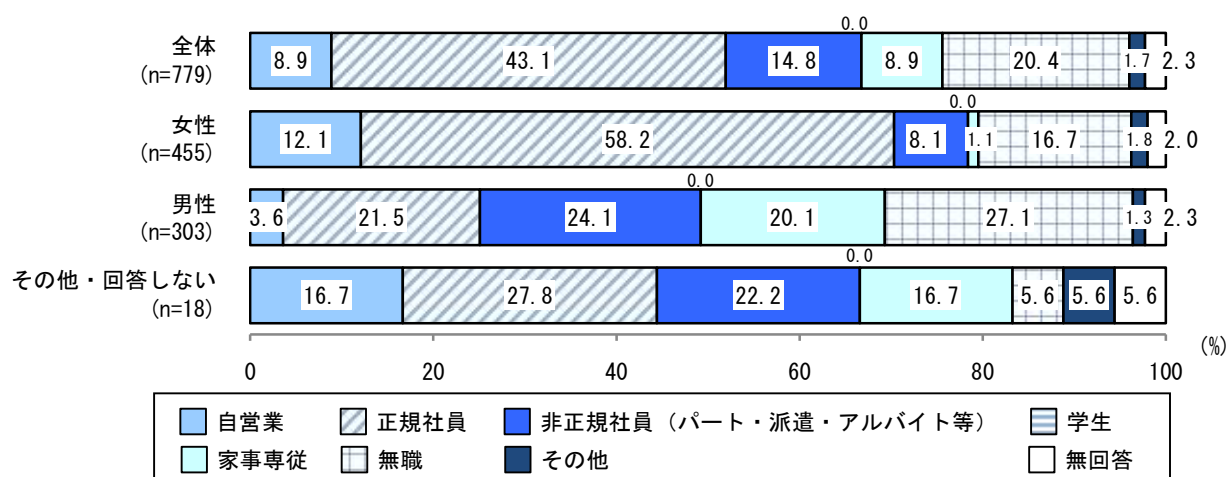
(単位：%)

		女性									男性								
		n	自営業	正規社員	派遣・正規社員 アルバイト等	学生	家事専従	無職	その他	無回答	n	自営業	正規社員	派遣・正規社員 アルバイト等	学生	家事専従	無職	その他	無回答
今回調査	10～20代	156	—	34.0	16.0	44.2	0.6	3.2	1.3	0.6	109	3.7	35.8	9.2	47.7	—	2.8	0.9	—
	30代	100	6.0	52.0	22.0	1.0	10.0	6.0	2.0	1.0	61	1.6	86.9	4.9	—	—	1.6	1.6	3.3
	40代	126	4.8	36.5	45.2	—	9.5	3.2	0.8	—	56	7.1	78.6	5.4	—	—	5.4	1.8	1.8
	50代	124	8.9	32.3	37.9	—	12.1	4.8	3.2	0.8	81	9.9	65.4	12.3	—	1.2	8.6	2.5	—
	60代	101	5.0	19.8	39.6	—	17.8	13.9	2.0	2.0	85	10.6	29.4	31.8	—	1.2	24.7	1.2	1.2
	70代以上	157	2.5	1.3	8.9	—	21.7	56.1	1.9	7.6	129	5.4	4.7	10.1	—	2.3	69.0	3.9	4.7
前回調査	10～20代	58	—	69.0	10.3		1.7		1.7	5.2	29	6.9	89.7	—		—		—	—
	30代	105	1.0	57.1	26.7		6.7		2.9	1.0	59	5.1	88.1	3.4		—		—	—
	40代	121	3.3	50.4	33.1		5.0		1.7	1.7	79	10.1	78.5	6.3		—		1.3	—
	50代	129	4.7	32.6	37.2		14.0		0.8	1.6	93	10.8	81.7	4.3		1.1		1.1	—
	60代	137	6.6	10.9	35.8		19.0		3.6	1.5	92	10.9	25.0	21.7		—		1.1	—
	70代以上	153	5.9	0.7	11.1		40.5		2.6	8.5	110	10.9	4.5	11.8		0.9		2.7	3.6

※前回調査では「学生」に該当する項目は「就労している学生」「就労していない学生」、「無職」に該当する項目は「無職・退職」「失業中・求職中」と分かれていたため、今回調査の「学生」・「無職」においては比較対象としていない。

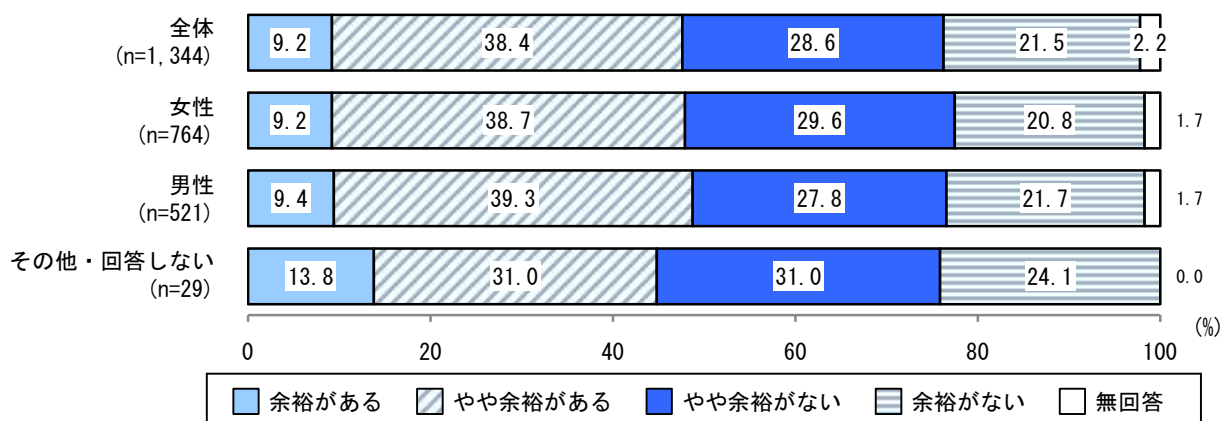
②配偶者・パートナーの主な仕事

- ・配偶者・パートナーの主な仕事については、「正規社員」が43.1%で最も多く、次いで「無職」が20.4%、「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」が14.8%、「自営業」と「家事専従」がそれぞれ8.9%となっています。
- ・性別でみると、女性では「正規職員」が58.2%で最も多く、次いで「無職」が16.7%となっています。男性では「無職」が27.1%で最も多く、次いで「非正規社員（パート・派遣・アルバイト等）」が24.1%となっています。



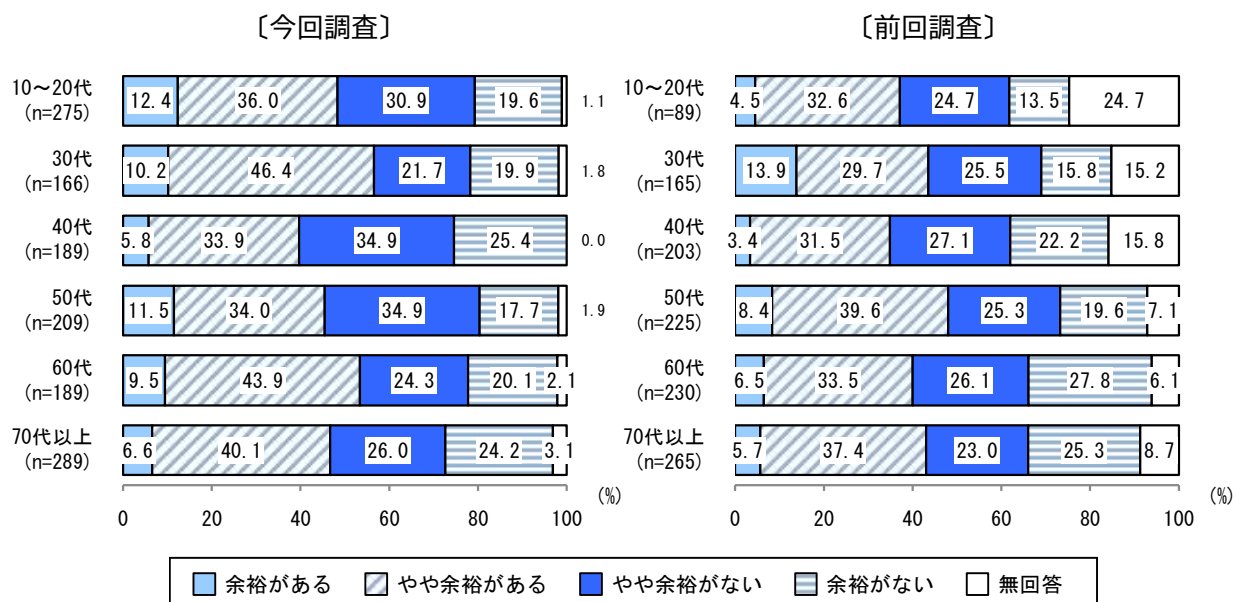
(6) 家計の状況

- ・家計の状況は、「やや余裕がある」が38.4%で最も多く、次いで「やや余裕がない」が28.6%、「余裕がない」が21.5%となっており、「余裕がある」と「やや余裕がある」をあわせた『余裕がある』割合は47.6%、「やや余裕がない」と「余裕がない」をあわせた『余裕がない』割合は50.1%となっています。
- ・性別による大きな差はみられません。



【前回調査との比較（年代別）】

- ・前回調査と比較すると、『余裕がある』割合は60代（53.4%）は前回調査（40.0%）より13.4ポイント、30代（56.6%）は前回調査（43.6%）より13.0ポイント、10～20代（48.4%）は前回調査（37.1%）より11.3ポイント、それぞれ高くなっています。



2. 男女の平等感について

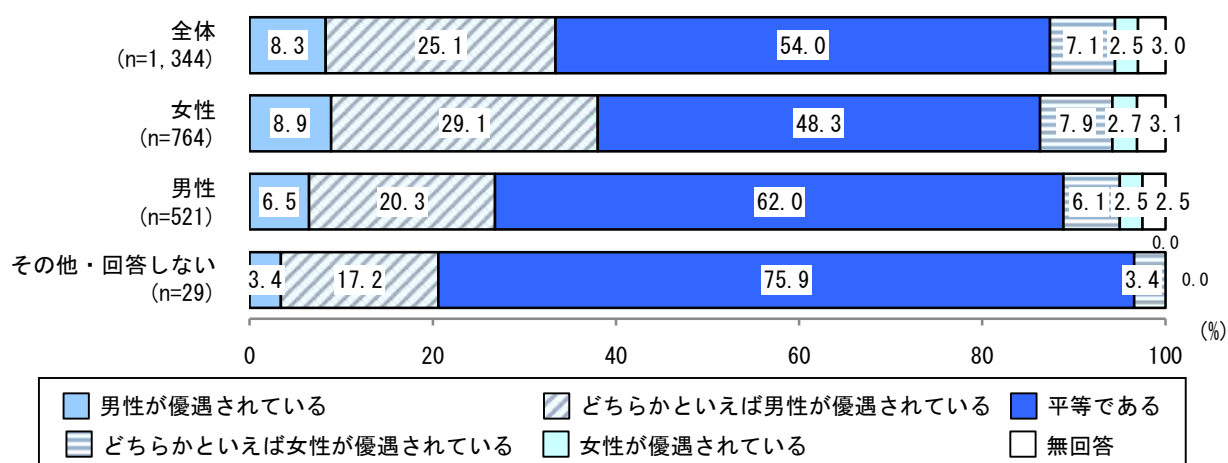
(1) 男女の平等感に対する現在の状況と理想の状況

問1 次の①～⑦の各分野における男女の平等感について、(A) 現在の状況と、(B) 理想の状況について教えてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

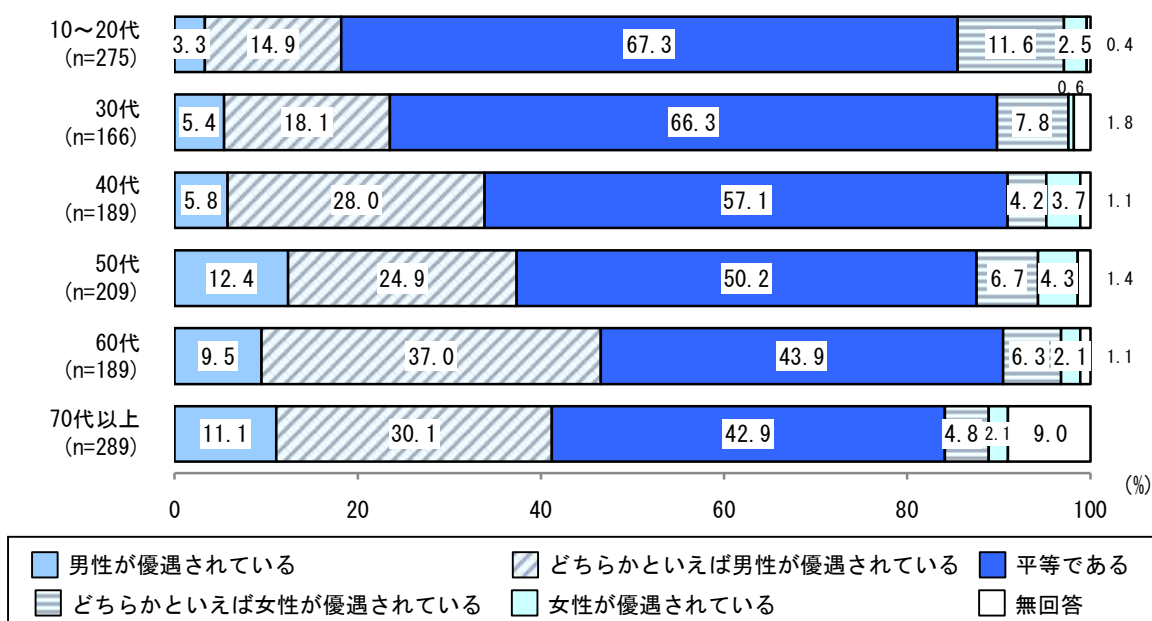
(A) 現在の状況

① 家庭では

- ・家庭では、「平等である」が54.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が25.1%、「男性が優遇されている」が8.3%となっています。「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性優遇』の割合は33.4%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（26.8%）より女性（38.0%）のほうが11.2ポイント高くなっています。

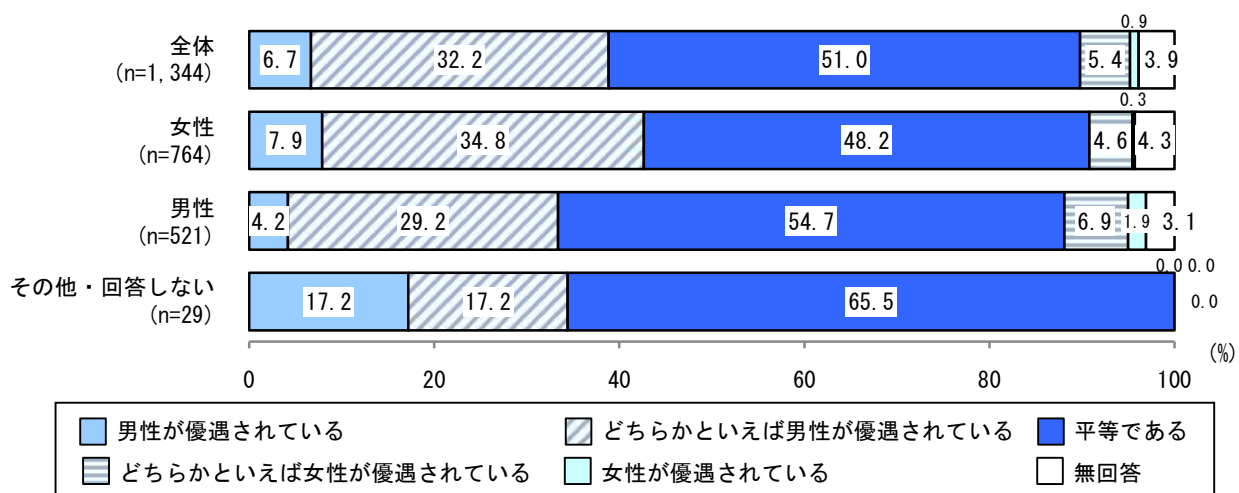


- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合は60代が46.5%で最も高く、次いで70代以上が41.2%で、40代以上の年代で3割以上を占めています。

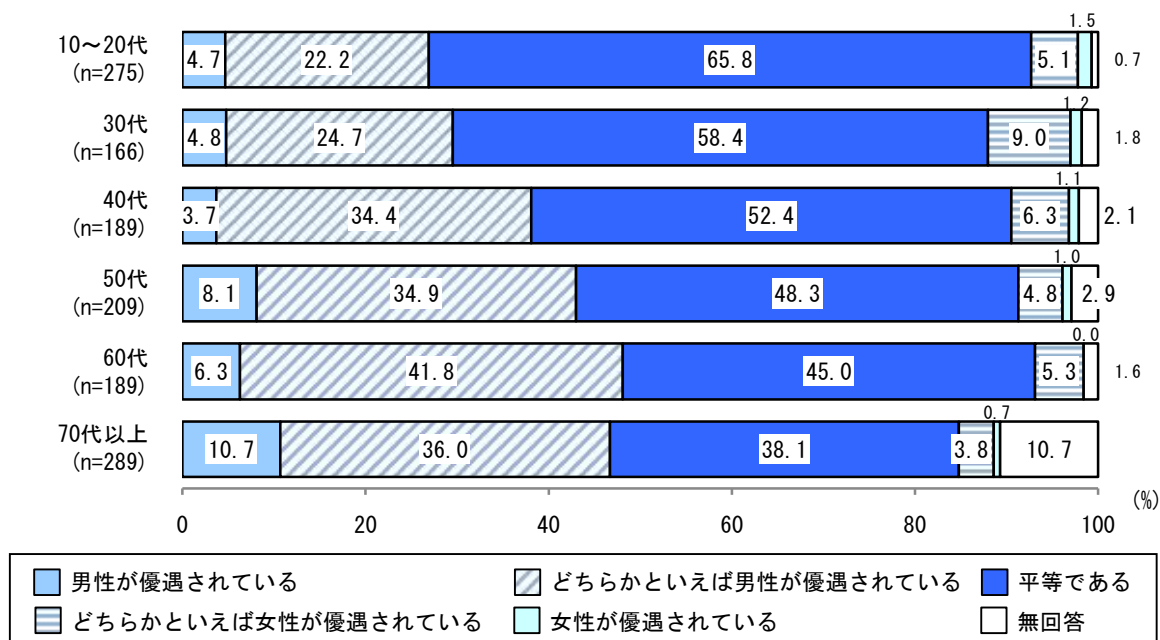


② 地域では

- ・地域では、「平等である」が51.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.2%、「男性が優遇されている」が6.7%となっており、『男性優遇』の割合は38.9%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（33.4%）より女性（42.7%）のほうが9.3ポイント高くなっています。

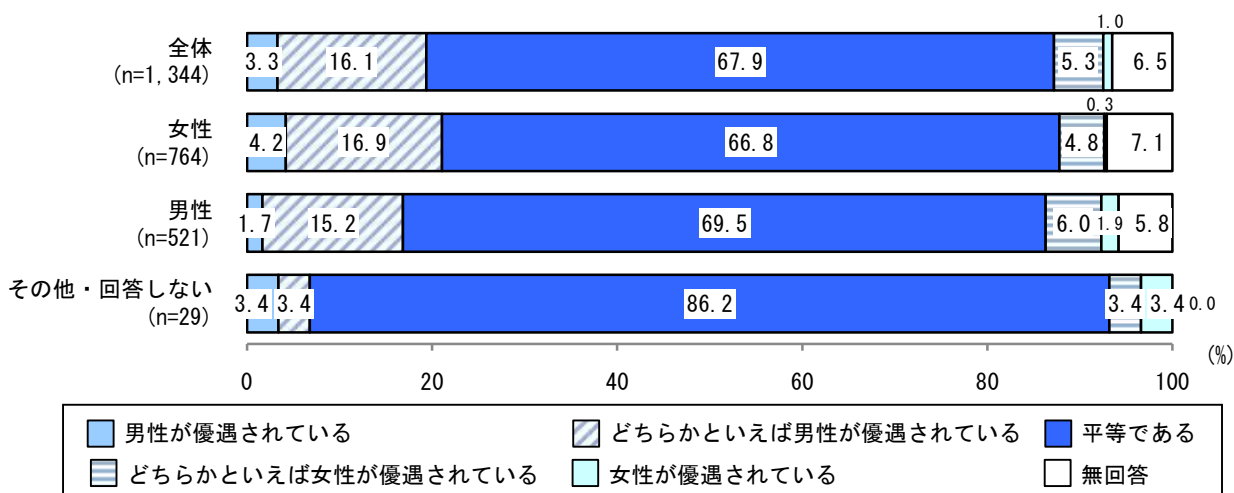


- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合は60代が48.1%で最も高く、次いで70代以上が46.7%で、50代以上の年代で4割以上を占めています。

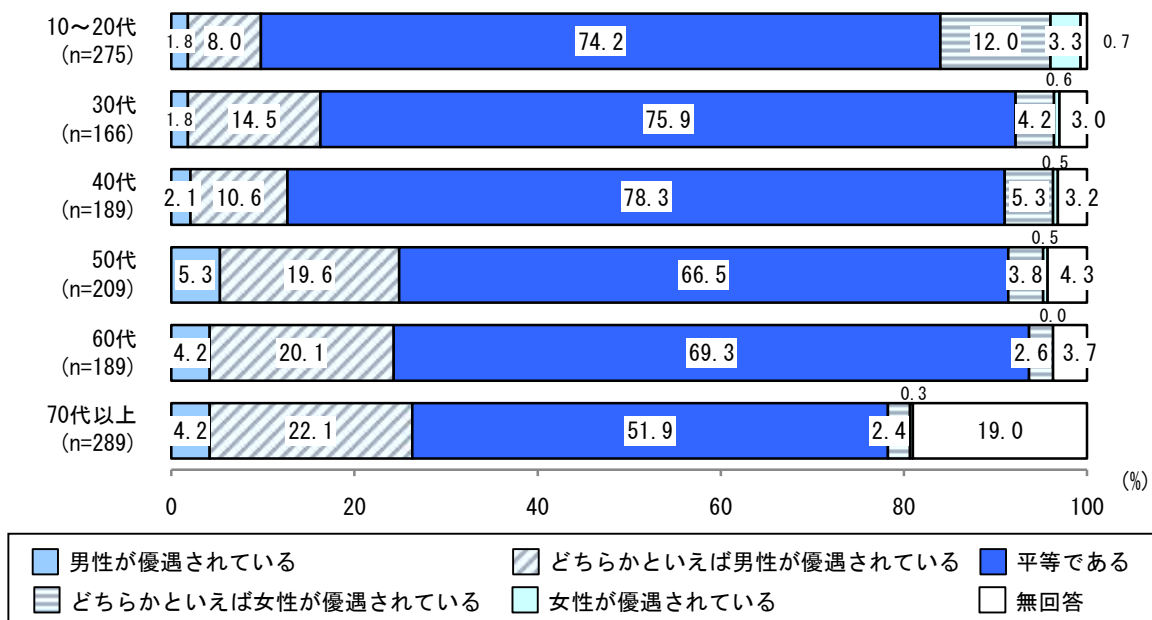


③ 学校（教育の場）では

- ・学校（教育の場）では、「平等である」が67.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が16.1%、「どちらかといえば女性が優遇されている」が5.3%となっており、『男性優遇』の割合は19.4%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（16.9%）より女性（21.1%）のほうが4.2ポイント高くなっています。

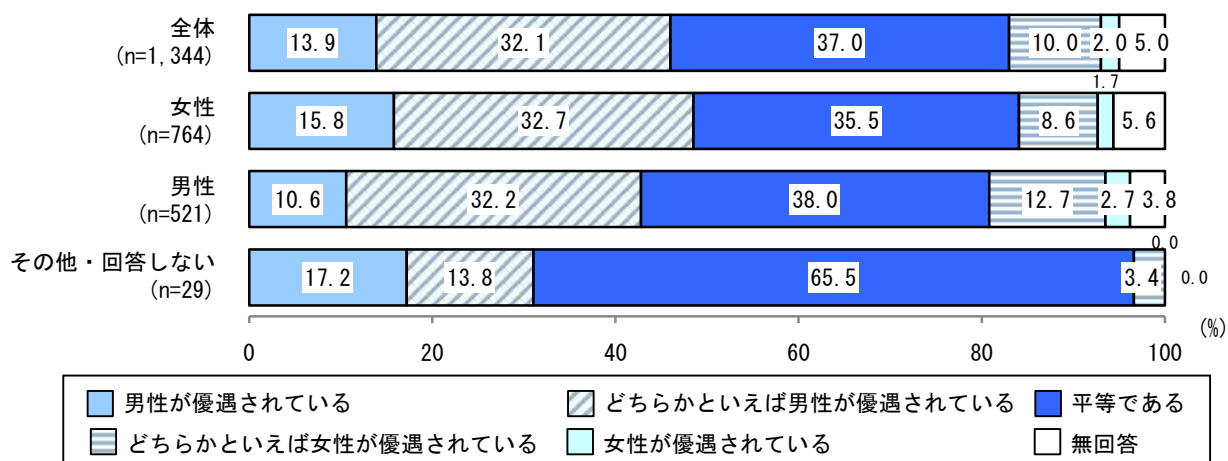


- ・年代別でみると、「平等である」の割合は40代が78.3%で最も高く、次いで30代が75.9%となっており、いずれの年代も過半数を占めています。

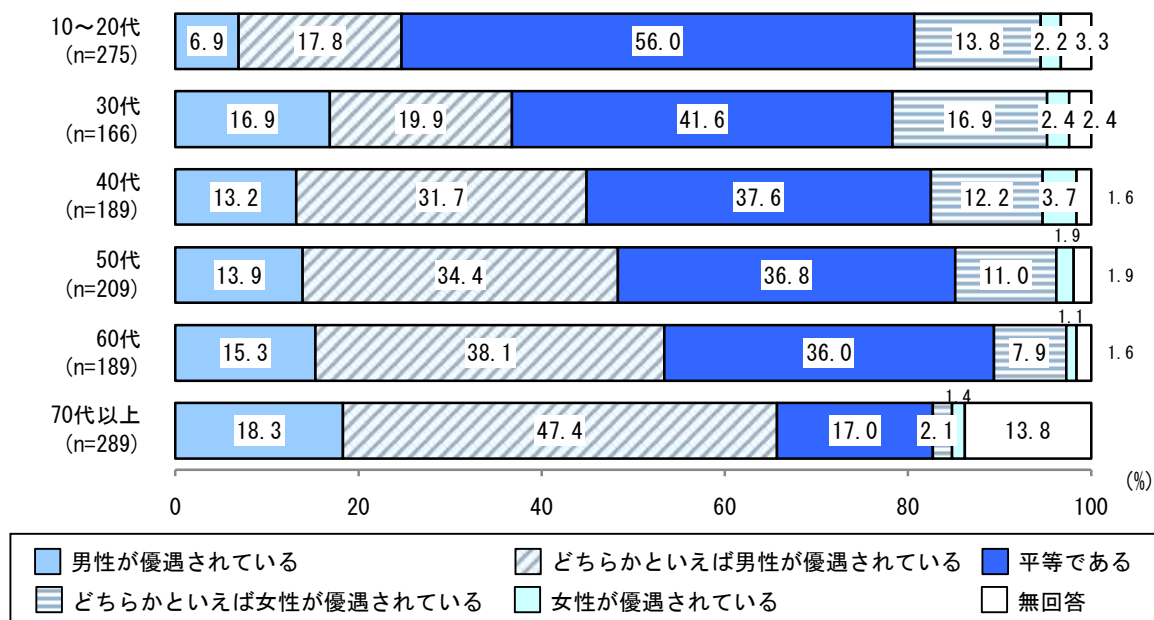


④ 職場では

- ・職場では、「平等である」が37.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.1%、「男性が優遇されている」が13.9%となっており、『男性優遇』の割合は46.0%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（42.8%）より女性（48.5%）のほうが5.7ポイント高くなっています。

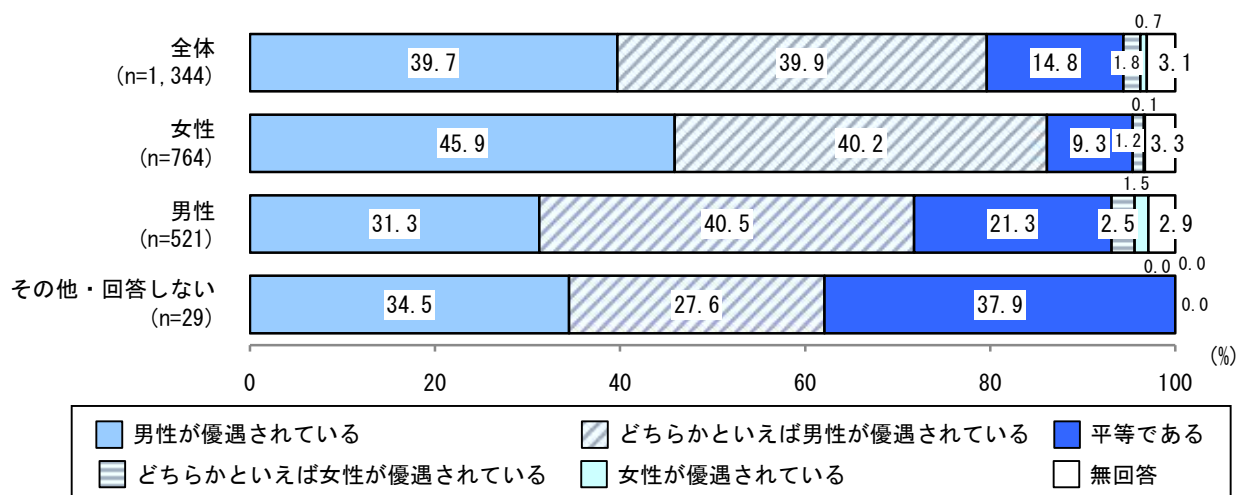


- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合は高齢になるほど割合が高くなり、70代以上が65.7%で最も高くなっています。

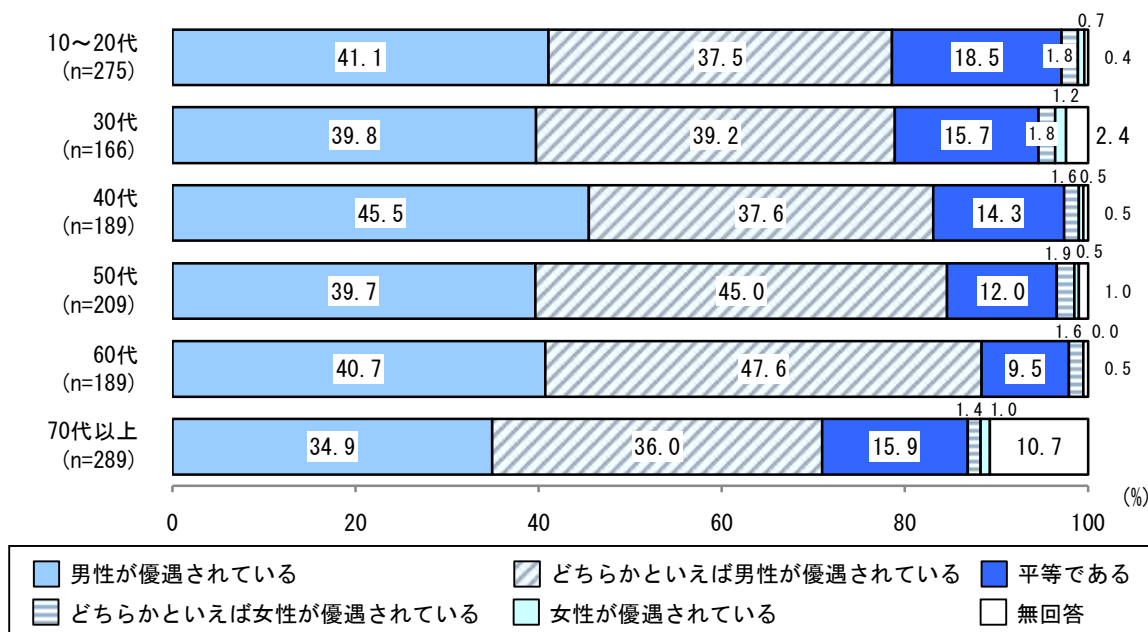


⑤ 政治では

- ・政治では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が39.9%で最も多く、次いで「男性が優遇されている」が39.7%、「平等である」が14.8%となっており、『男性優遇』の割合は79.6%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（71.8%）より女性（86.1%）のほうが14.3ポイント高くなっています。

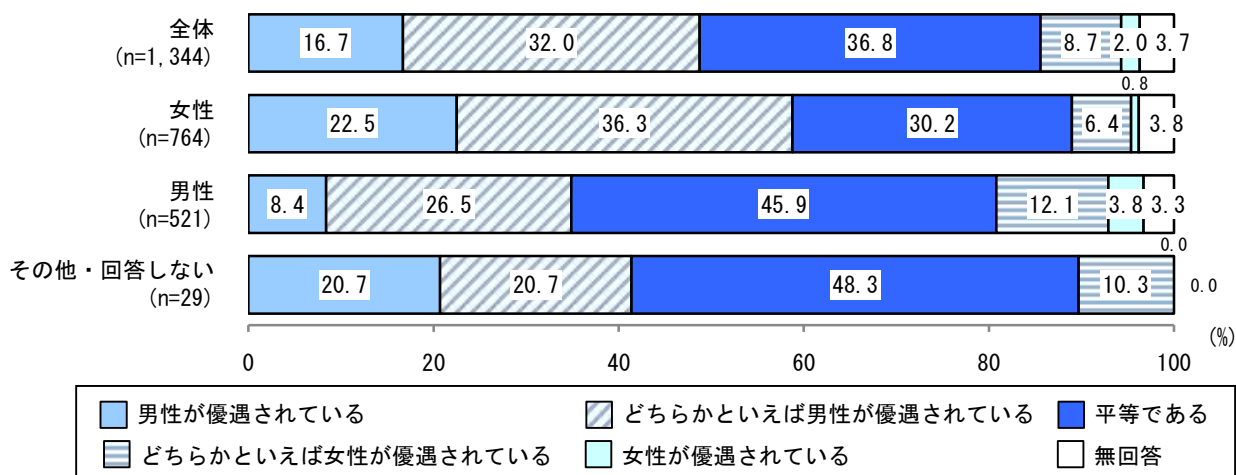


- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合はいずれの年代も7割を超えており、60代が88.3%で最も高く、70代以上が70.9%で最も低くなっています。

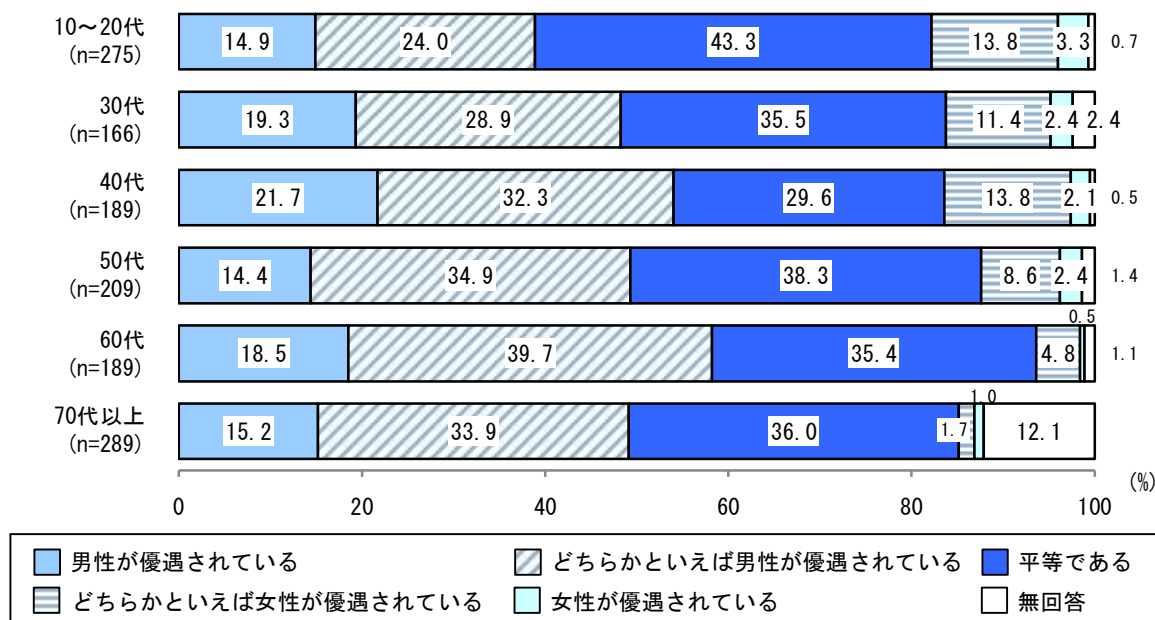


⑥ 法律や制度では

- ・法律や制度では、「平等である」が36.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.0%、「男性が優遇されている」が16.7%となっており、『男性優遇』の割合は48.7%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（34.9%）より女性（58.8%）のほうが23.9ポイント高くなっています。

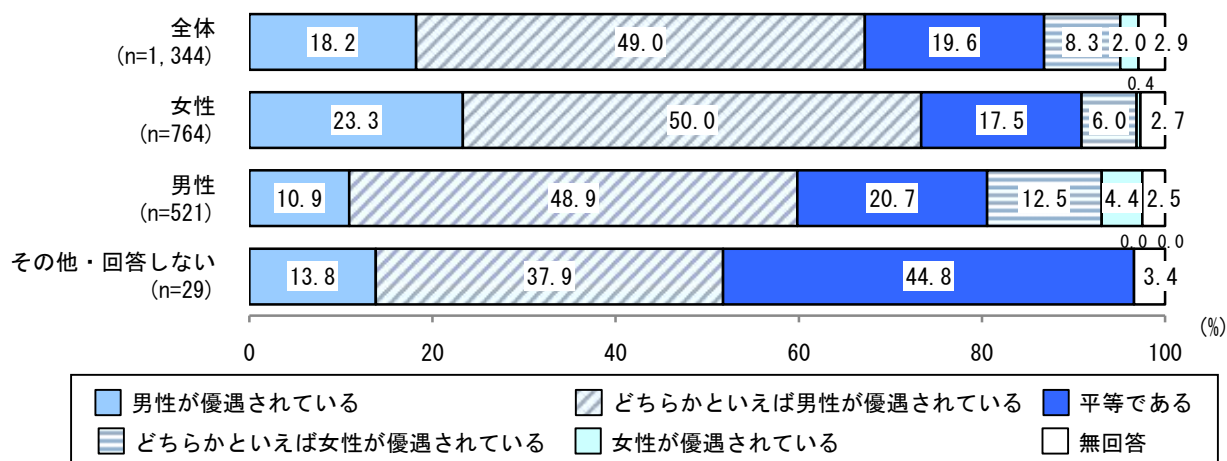


- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合は60代が58.2%で最も高く、次いで40代が54.0%となっています。

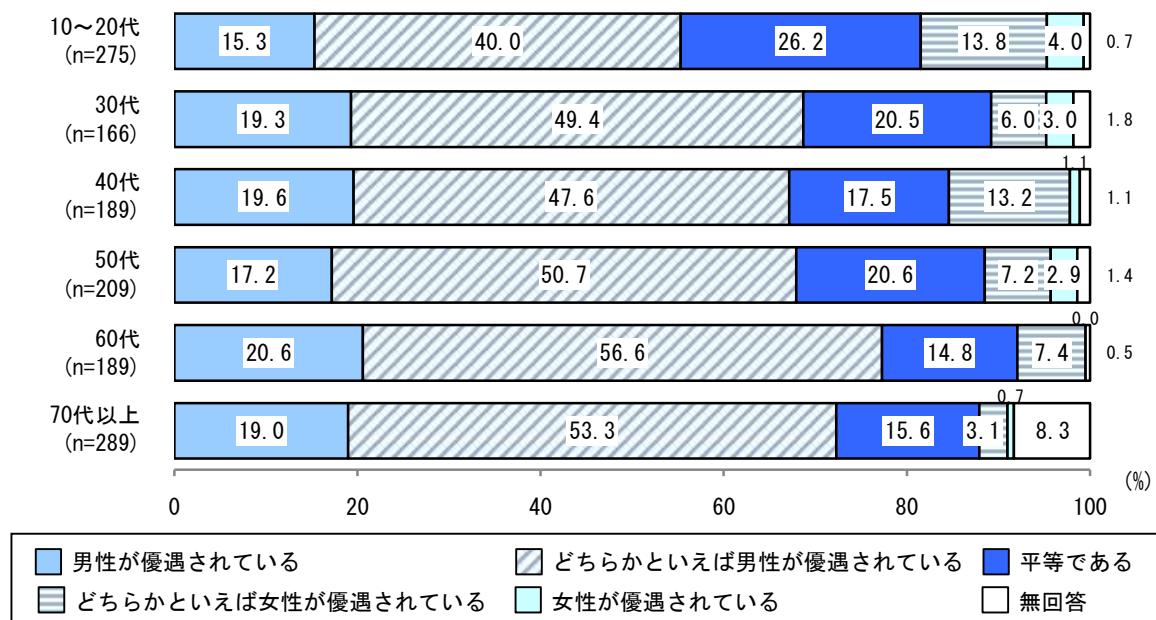


⑦ 社会全体では

- ・社会全体では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が49.0%で最も多く、次いで「平等である」が19.6%、「男性が優遇されている」が18.2%となっており、『男性優遇』の割合は67.2%となっています。
- ・性別でみると、『男性優遇』の割合は男性（59.8%）より女性（73.3%）のほうが13.5ポイント高くなっています。



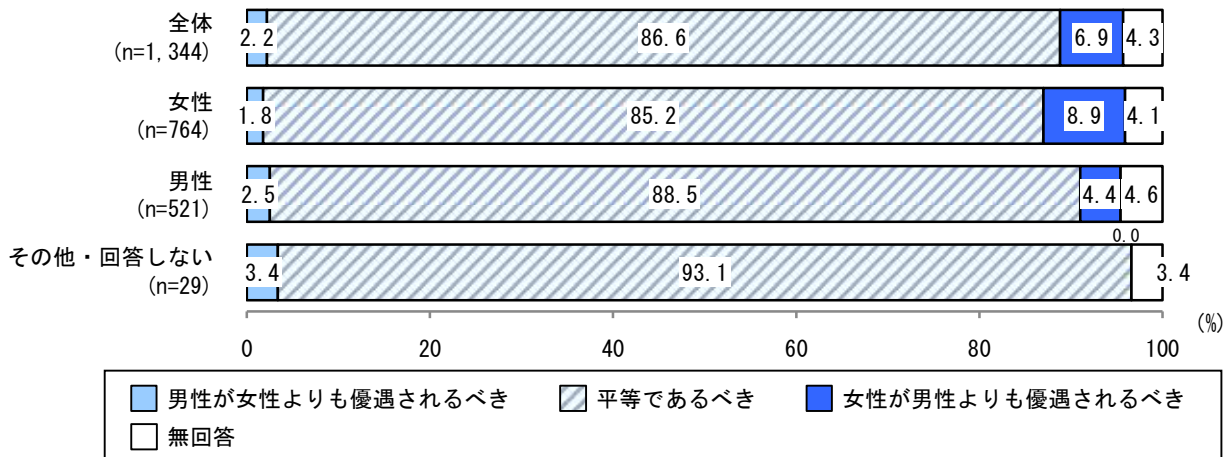
- ・年代別でみると、『男性優遇』の割合はいずれの年代も過半数を占めており、60代が77.2%で最も高く、次いで70代以上が72.3%となっています。



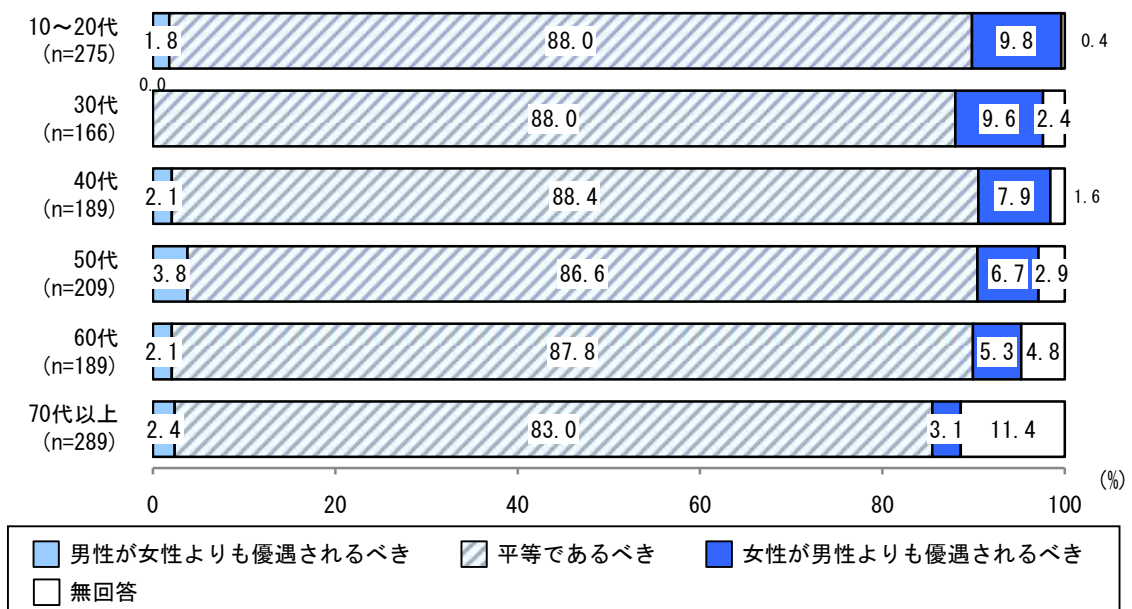
(B) 理想の状況

① 家庭では

- ・家庭では、「平等であるべき」が86.6%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が6.9%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が2.2%となっています。
- ・性別でみると、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合が男性(4.4%)より女性(8.9%)のほうが4.5ポイント高くなっています。

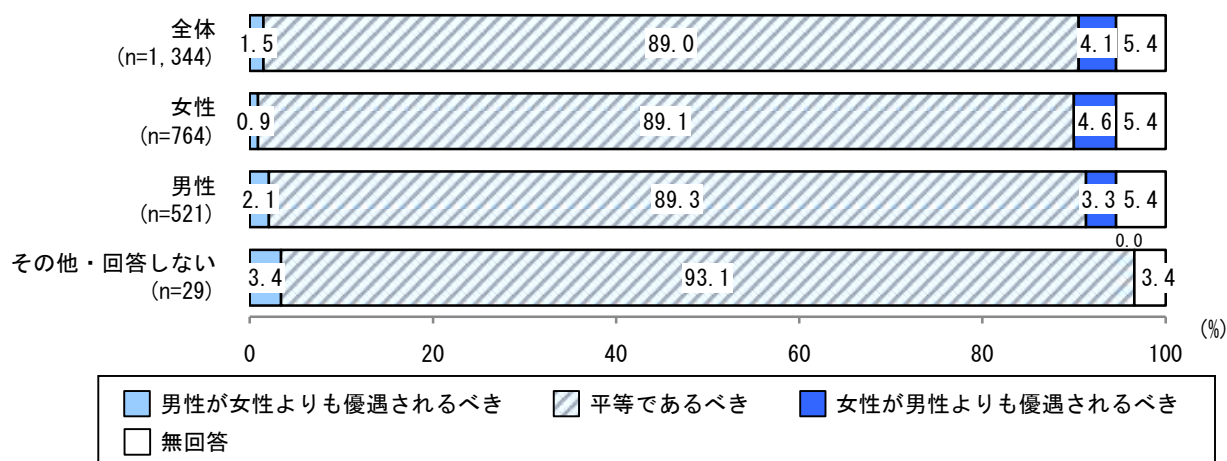


- ・年代別でみると、いずれの年代も「平等であるべき」が8割台と高く、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は10～20代が9.8%で最も高くなっています。

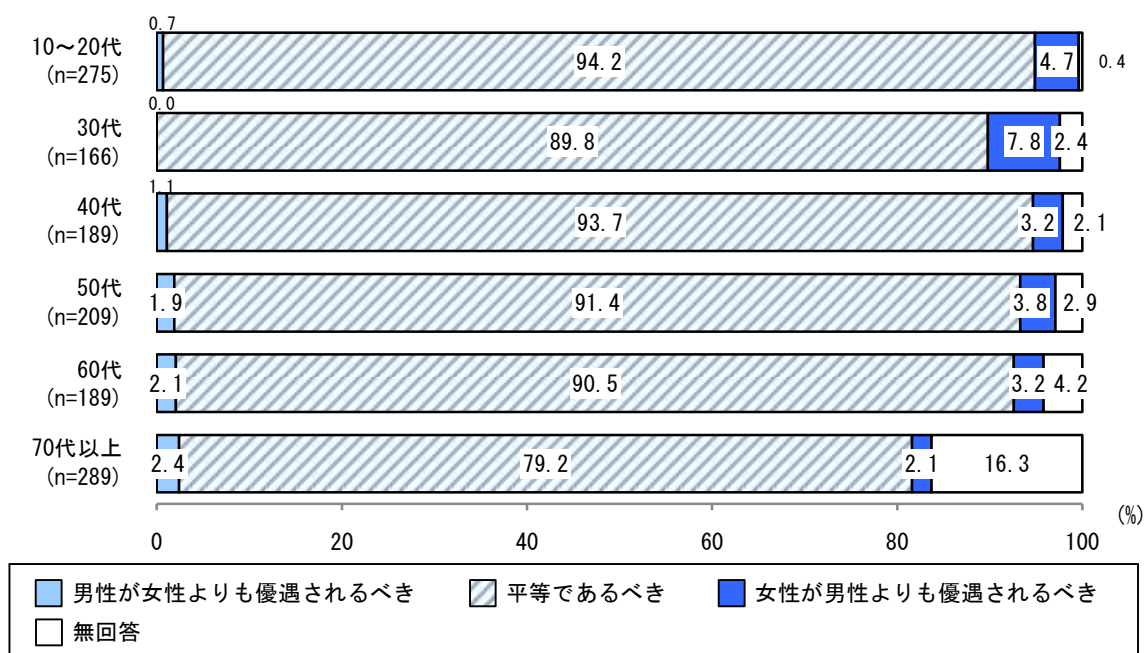


② 地域では

- ・地域では、「平等であるべき」が89.0%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が4.1%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が1.5%となっています。
- ・性別による大きな差はみられません。

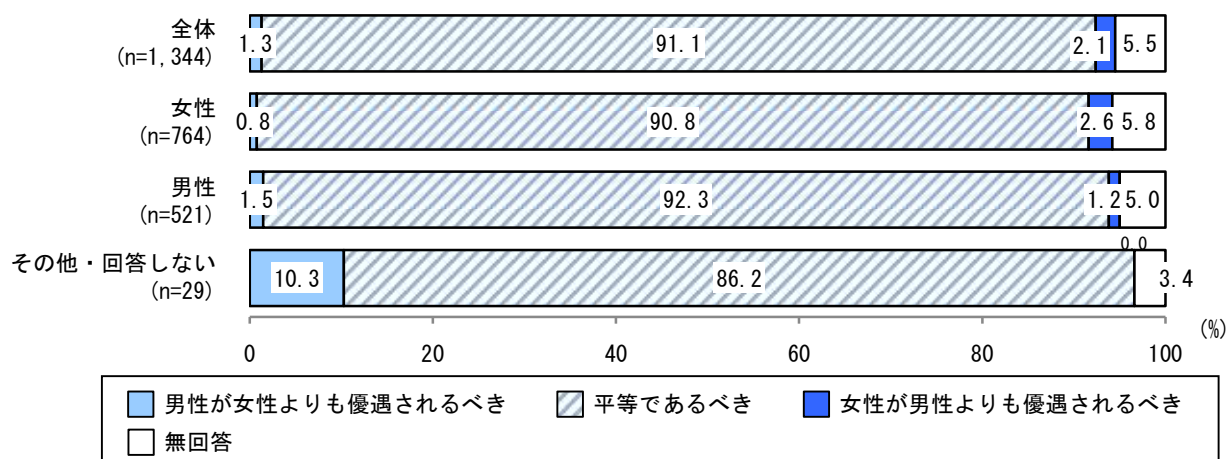


- ・年代別でみると、「平等であるべき」の割合は10～20代、40～60代で9割台と高く、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は30代が7.8%で最も高くなっています。

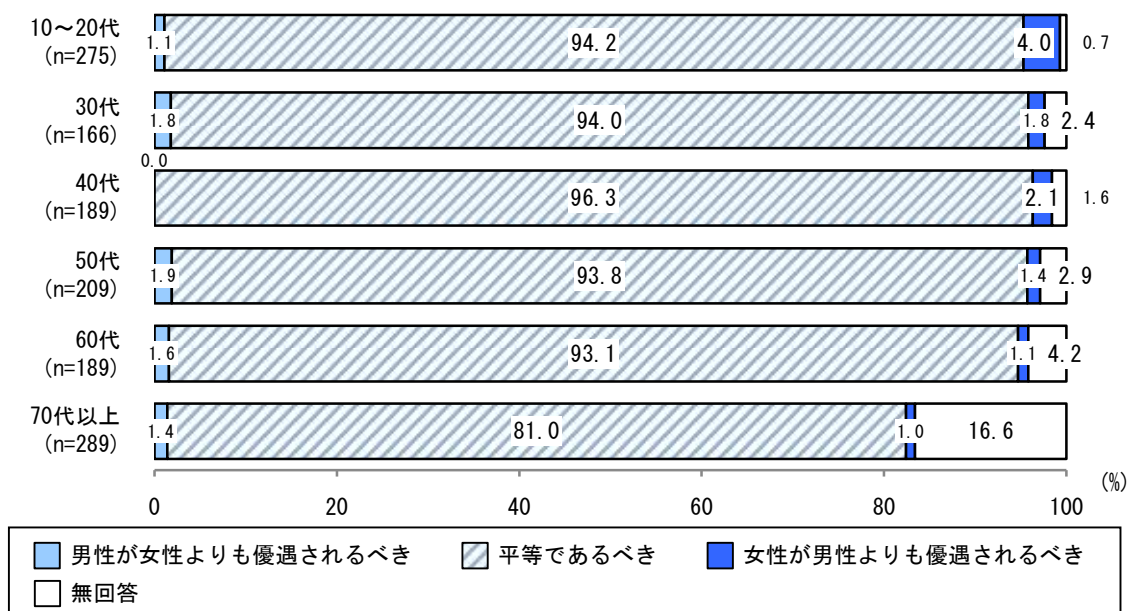


③ 学校（教育の場）では

- ・学校（教育の場）では、「平等であるべき」が91.1%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が2.1%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が1.3%となっています。
- ・性別による大きな差はみられません。

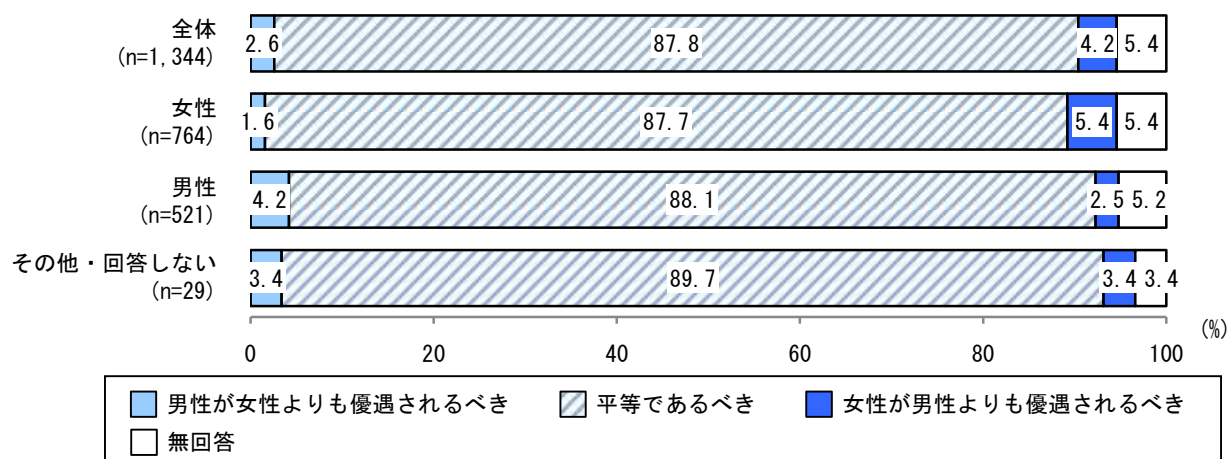


- ・年代別でみると、「平等であるべき」の割合は70代以上は81.0%で最も低いですが、それ以外の年代は9割台となっています。また、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は10～20代が4.0%で最も高くなっています。

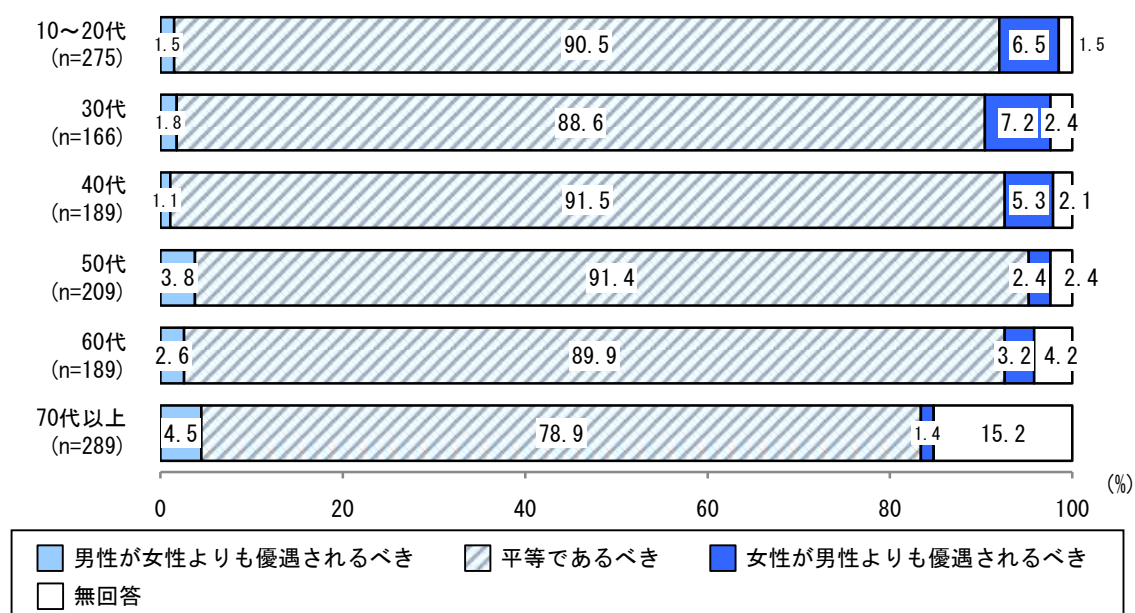


④ 職場では

- ・職場では「平等であるべき」が87.8%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が4.2%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が2.6%となっています。
- ・性別でみると、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合が男性(2.5%)より女性(5.4%)のほうが2.9ポイント高くなっています。

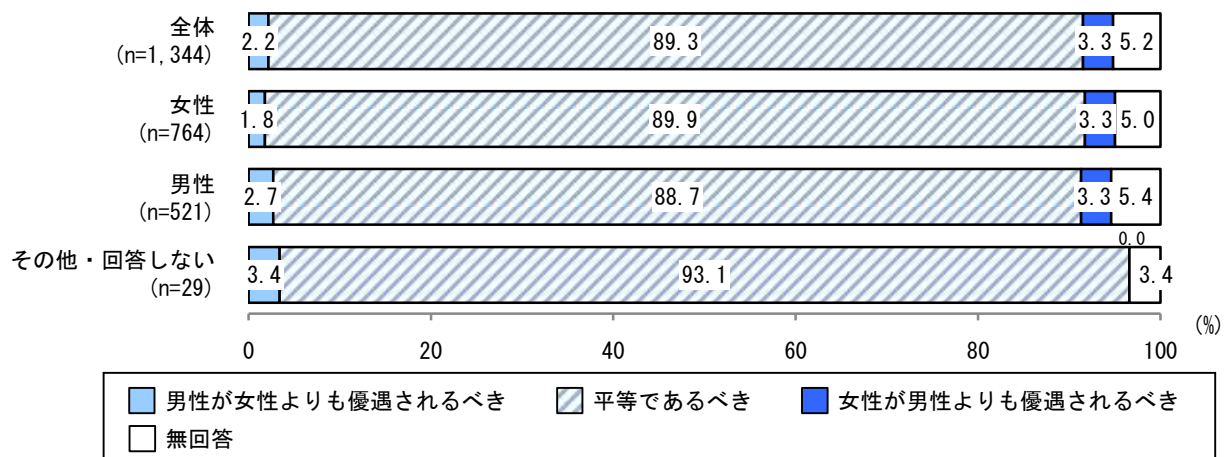


- ・年代別でみると、「平等であるべき」の割合は70代以上は78.9%で最も低いですが、それ以外の年代では9割前後を占めています。また、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は30代が7.2%で最も高くなっています。

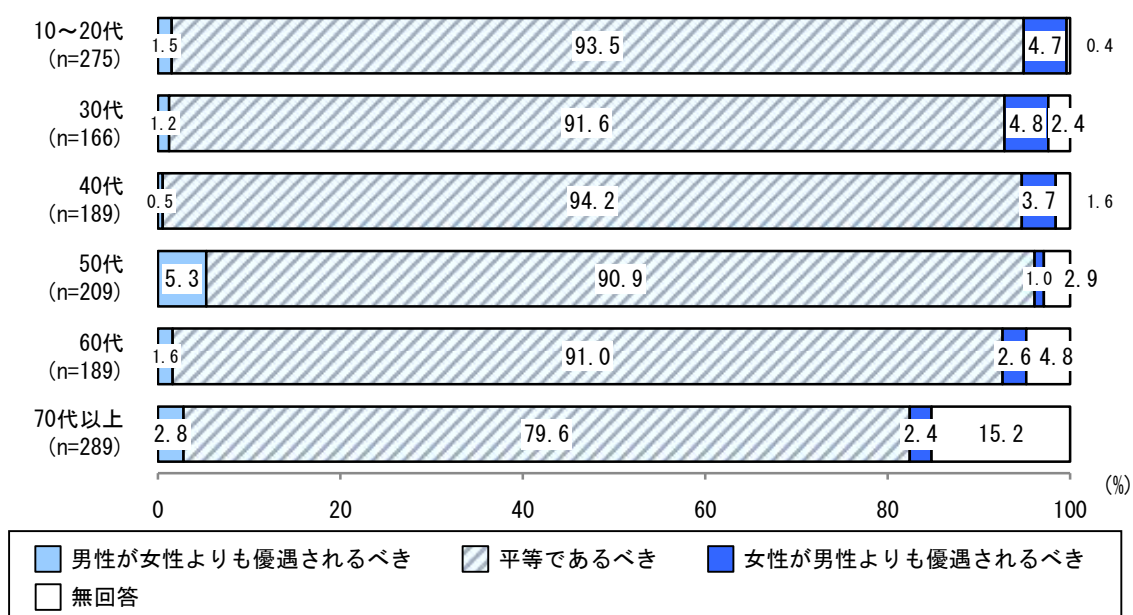


⑤ 政治では

- ・政治では、「平等であるべき」が89.3%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が3.3%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が2.2%となっています。
- ・性別による大きな差はみられません。

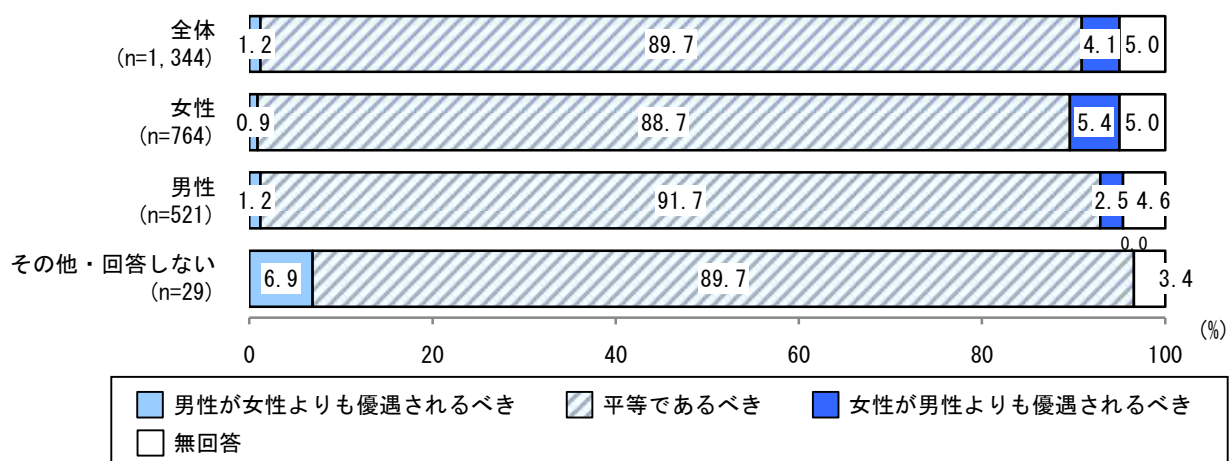


- ・年代別でみると、「平等であるべき」の割合は70代以上は79.6%で最も低いですが、それ以外の年代では9割台となっています。また、「男性が女性よりも優遇されるべき」の割合は50代が5.3%で最も高くなっています。

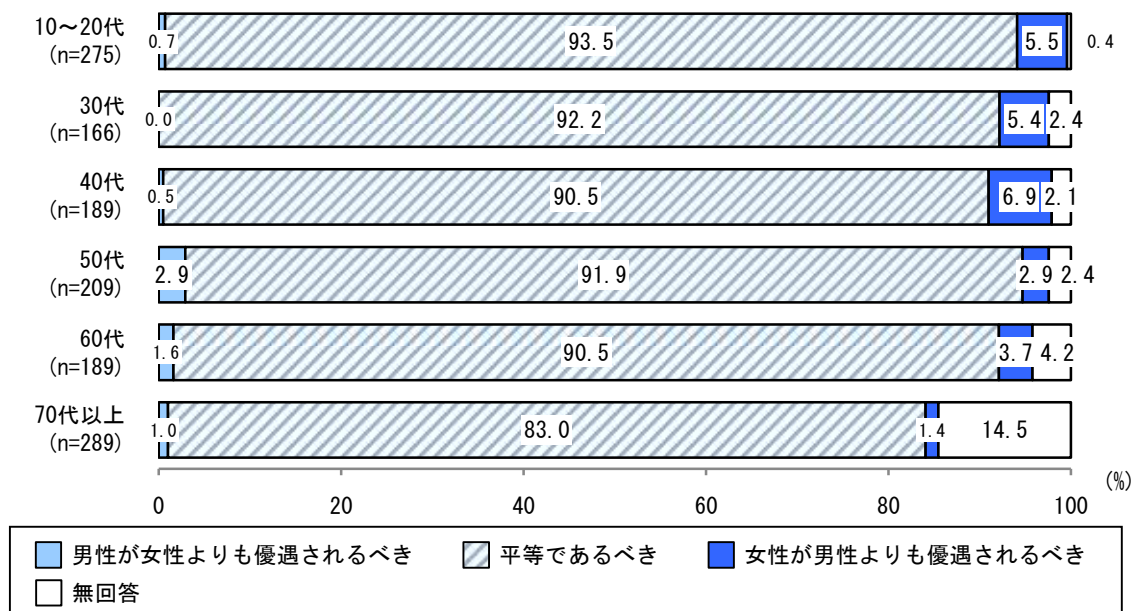


⑥ 法律や制度では

- ・法律や制度では、「平等であるべき」が89.7%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が4.1%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が1.2%となっています。
- ・性別でみると、「平等であるべき」の割合が女性（88.7%）より男性（91.7%）のほうが3.0ポイント高くなっています。

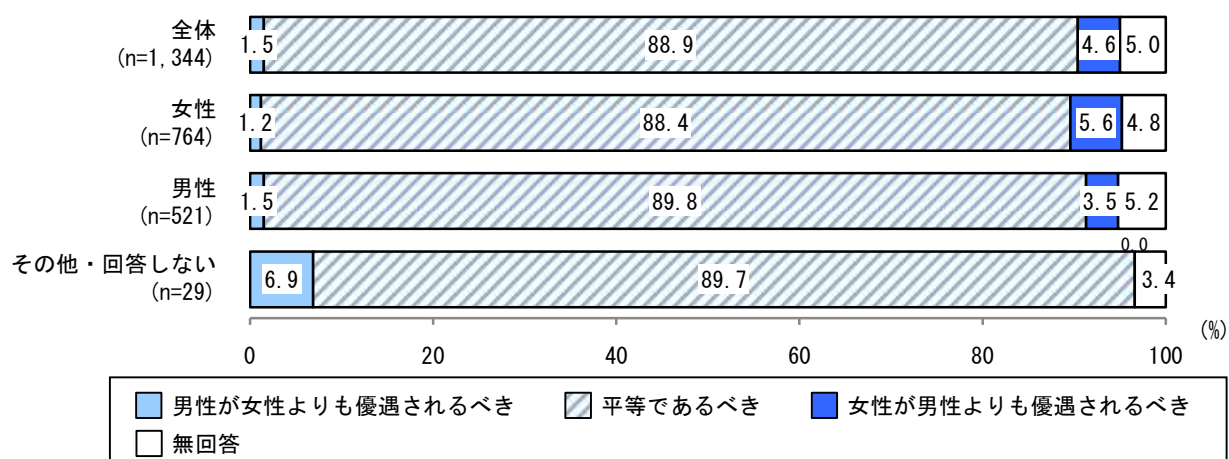


- ・年代別でみると、「平等であるべき」の割合は70代以上は83.0%で最も低いですが、それ以外の年代では9割台となっています。また、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は40代が6.9%で最も高くなっています。

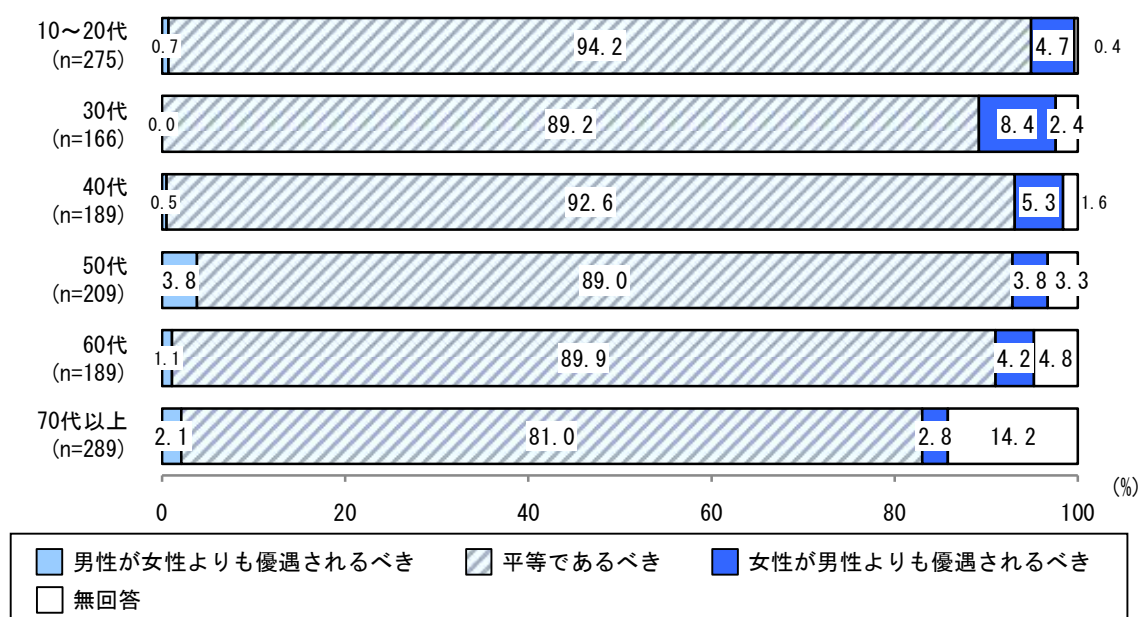


⑦ 社会全体では

- ・社会全体では、「平等であるべき」が88.9%で最も多く、次いで「女性が男性よりも優遇されるべき」が4.6%、「男性が女性よりも優遇されるべき」が1.5%となっています。
- ・性別でみると、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合が男性(3.5%)より女性(5.6%)のほうが2.1ポイント高くなっています。



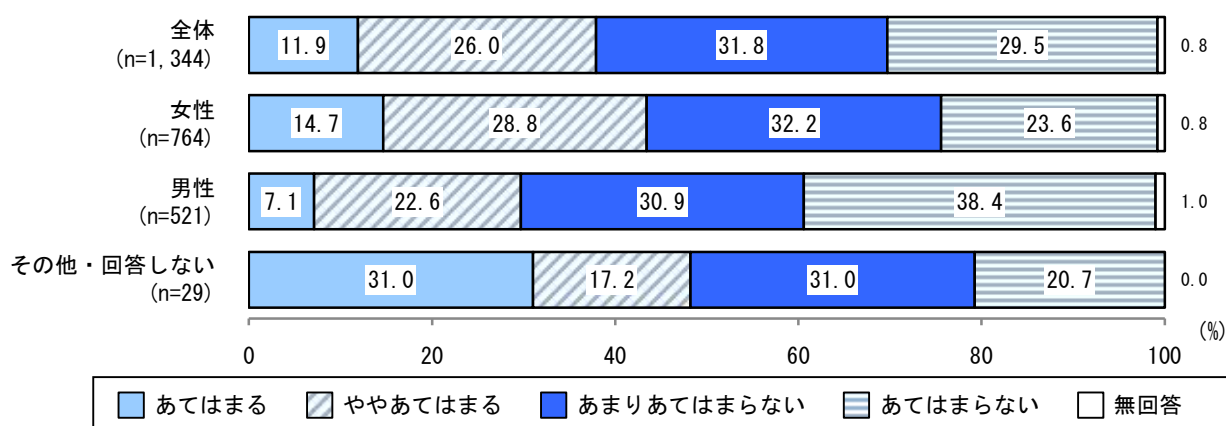
- ・年代別でみると、「女性が男性よりも優遇されるべき」の割合は30代が8.4%で最も高く、次いで40代が5.3%となっています。



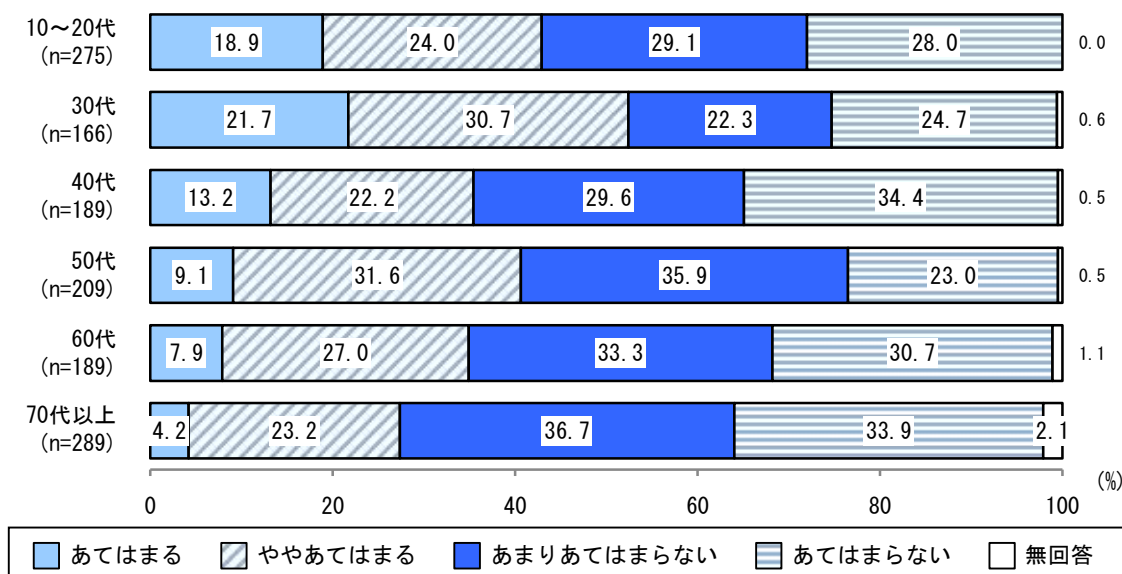
(2) 女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことの有無

問2 直近5年の間に、女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことがありますか。(1つに○)

- ・女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことの有無については、「あまりあてはまらない」が31.8%で最も多く、次いで「あてはまらない」が29.5%、「ややあてはまる」が26.0%となっており、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた『感じたことがある』割合が37.9%、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」をあわせた『感じたことがない』割合は61.3%となっています。
- ・性別でみると、『感じたことがある』割合は男性（29.7%）より女性（43.5%）のほうが13.8ポイント高くなっています。



- ・年代別でみると、『感じたことがある』割合は30代が52.4%で最も高く、次いで10～20代が42.9%となっています。

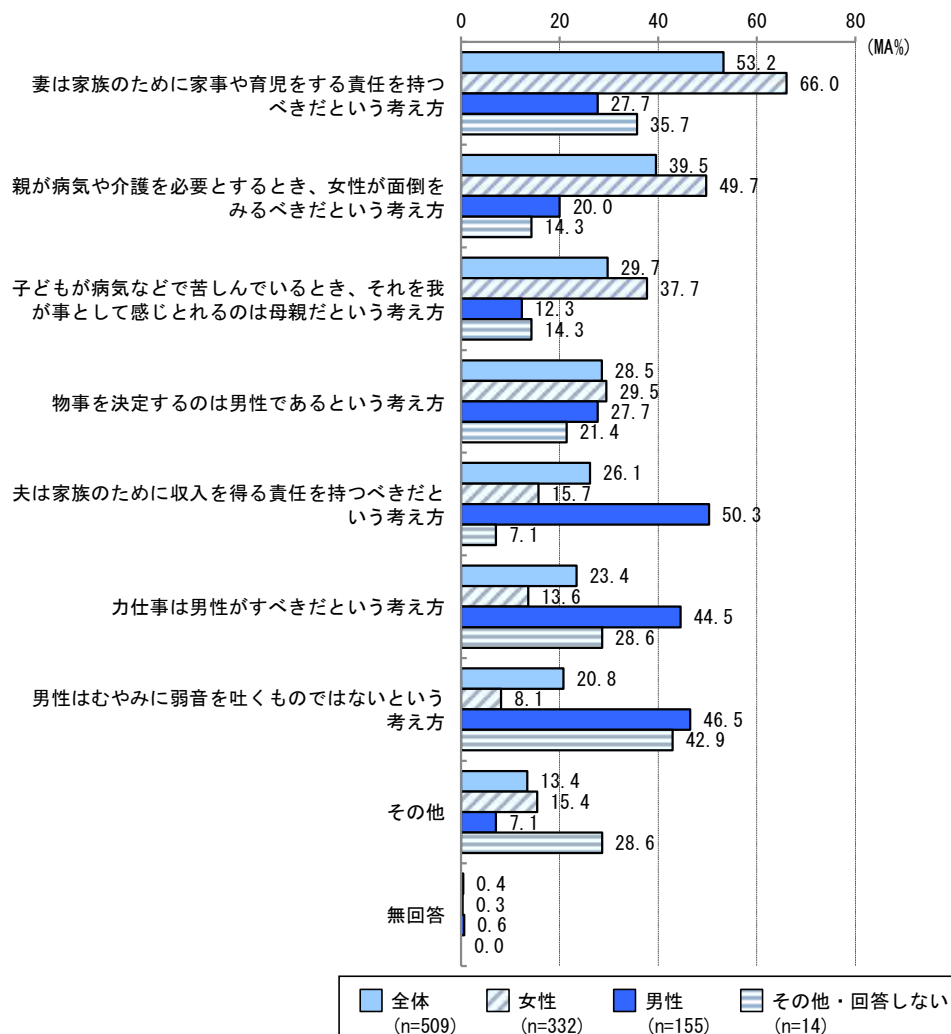


(3) 生きづらさや理不尽さを感じた考え方

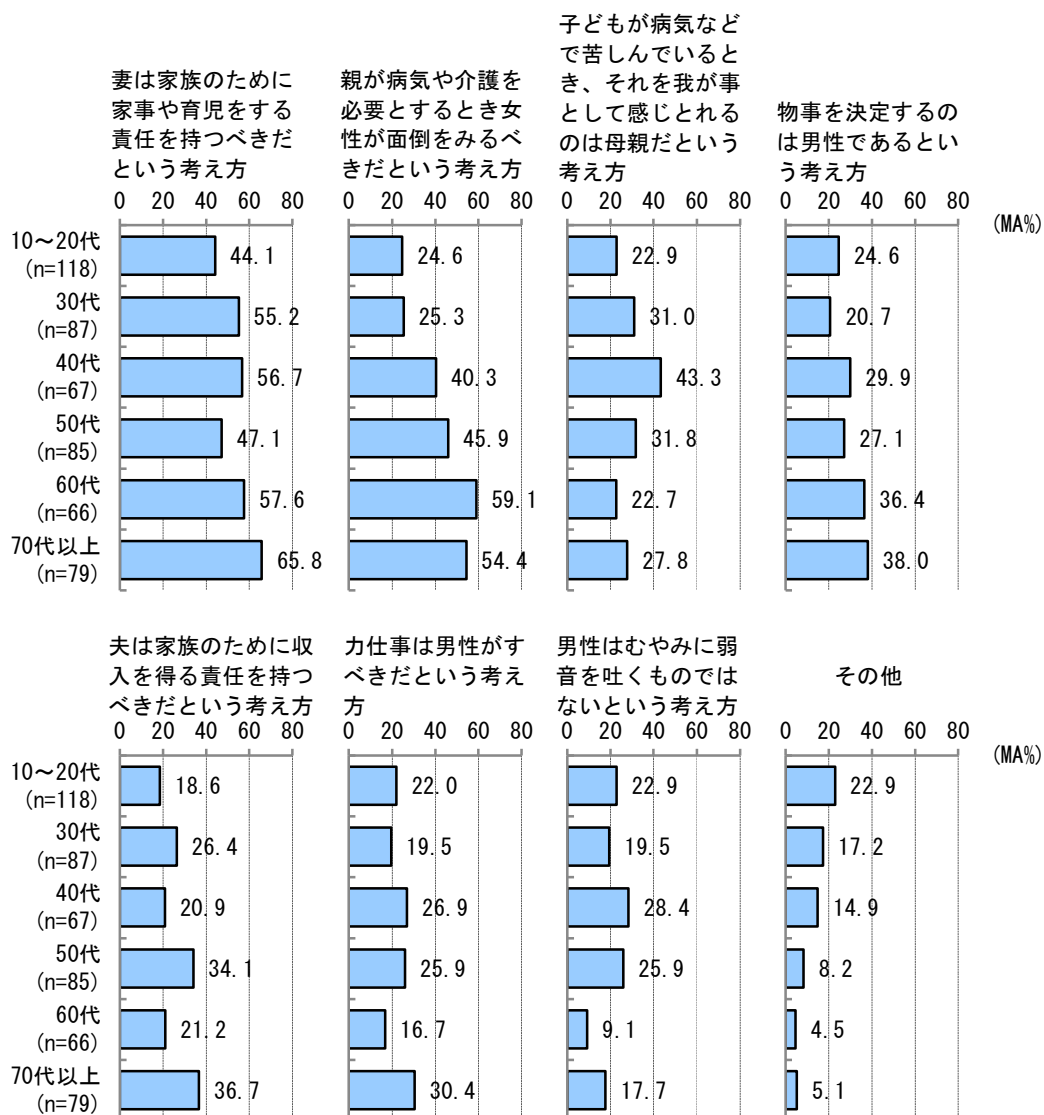
問2で「あてはまる」「ややあてはまる」に○をつけた方にうかがいます

問3 直近5年の間に、理不尽さや生きづらさを感じた考え方は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- ・生きづらさや理不尽さを感じたことがあると回答した人に、生きづらさや理不尽さを感じた考え方についてたずねると、「妻は家族のために家事や育児をする責任を持つべきだという考え方」が53.2%で最も多く、次いで「親が病気や介護を必要とするとき、女性が面倒をみるべきだという考え方」が39.5%、「子どもが病気などで苦しんでいるとき、それを我が事として感じとれるのは母親だという考え方」が29.7%となっています。
- ・性別でみると、男性より女性のほうが高い項目は、「妻は家族のために家事や育児をする責任を持つべきだという考え方」が38.3ポイント、「親が病気や介護を必要とするとき、女性が面倒をみるべきだという考え方」が29.7ポイント、「子どもが病気などで苦しんでいるとき、それを我が事として感じとれるのは母親だという考え方」が25.4ポイント、それぞれ女性のほうが高くなっています。一方、女性より男性のほうが高い項目は、「男性はむやみに弱音を吐くものではないという考え方」が38.4ポイント、「夫は家族のために収入を得る責任を持つべきだという考え方」が34.6ポイント、「力仕事は男性がすべきだという考え方」が30.9ポイント、それぞれ男性のほうが高くなっています。



- ・年代別でみると、60代は「親が病気や介護を必要とするとき、女性が面倒をみるべきだ」という考え方が59.1%で最も多くなっています。それ以外の年代では「妻は家族のために家事や育児をする責任を持つべきだ」という考え方が最も多く、70代以上が65.8%で最も高くなっています。

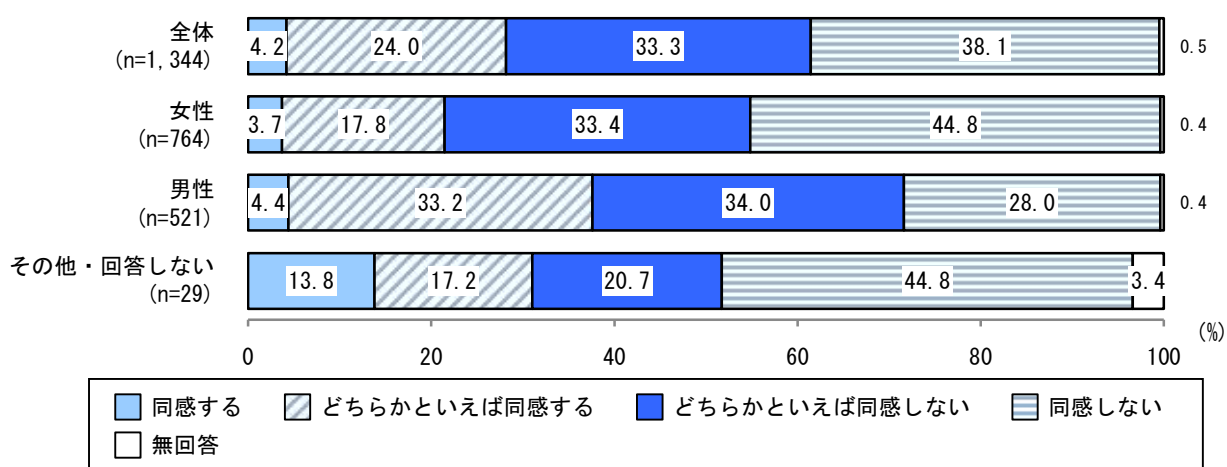


3. 男女の役割分担について

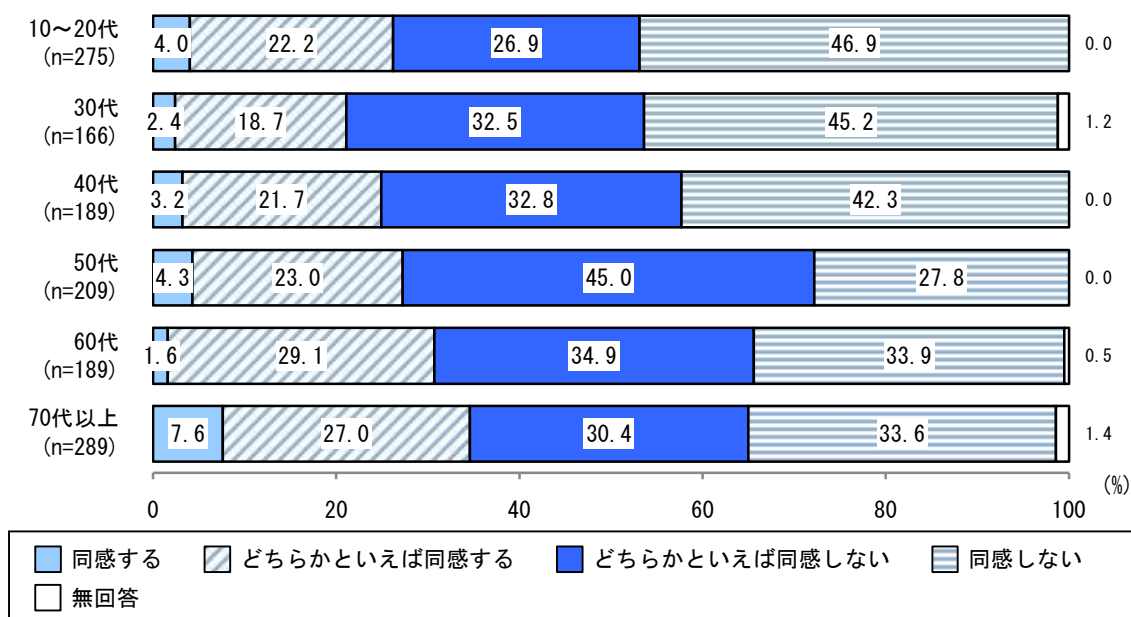
(1)「男は仕事、女は家事・育児」という考え方

問4 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、「同感しない」が38.1%で最も多く、次いで「どちらかといえば同感しない」が33.3%、「どちらかといえば同感する」が24.0%となっており、「同感する」と「どちらかといえば同感する」をあわせた『同意』の割合は28.2%、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」をあわせた『不同意』の割合は71.4%となっています。
- ・性別でみると、『同意』の割合は女性（21.5%）より男性（37.6%）のほうが16.1ポイント高くなっています。

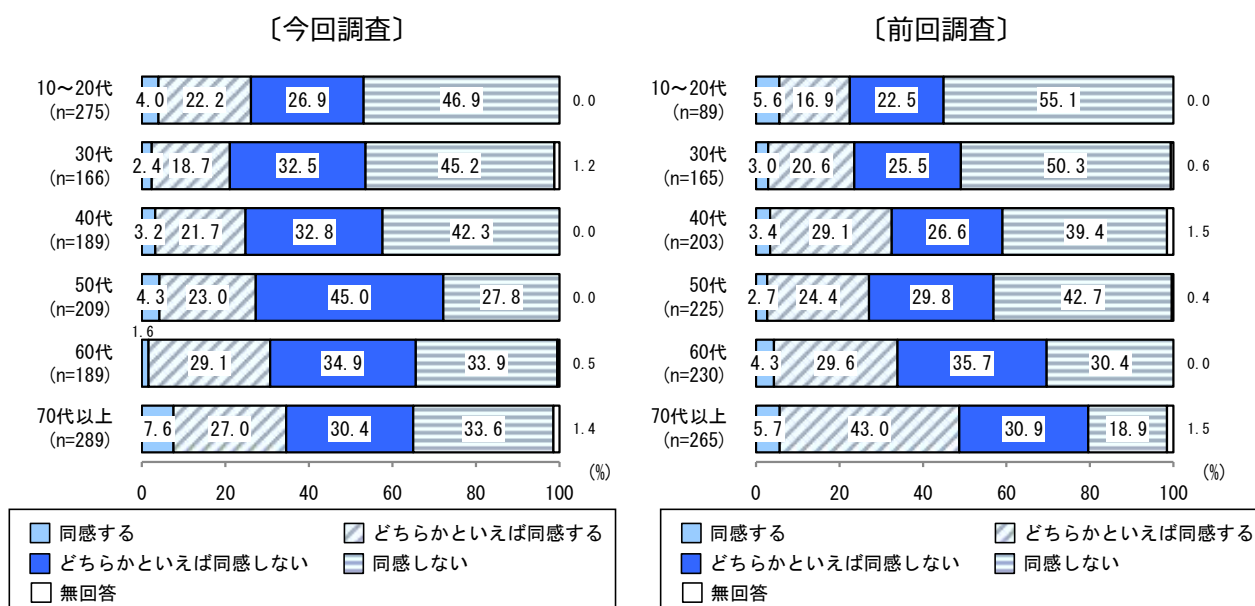


- ・年代別でみると、『同意』の割合は30代が21.1%で最も低くなっていますが、それ以上の年代では高齢になるほど割合が高くなり、70代以上が34.6%で最も高くなっています。



【前回調査との比較（年代別）】

- ・ 前回調査と比較すると、『同意』の割合は70代以上（34.6%）が前回（48.7%）より14.1ポイント低くなっています。『不同意』の割合は30代以上の年代では前回より高くなっています。特に、前回調査では70代以上で『同意』が半数近くを占めていたのが、今回調査では『不同意』が6割を超えて高くなっており、すべての年代で『不同意』が『同意』を大きく上回っています。

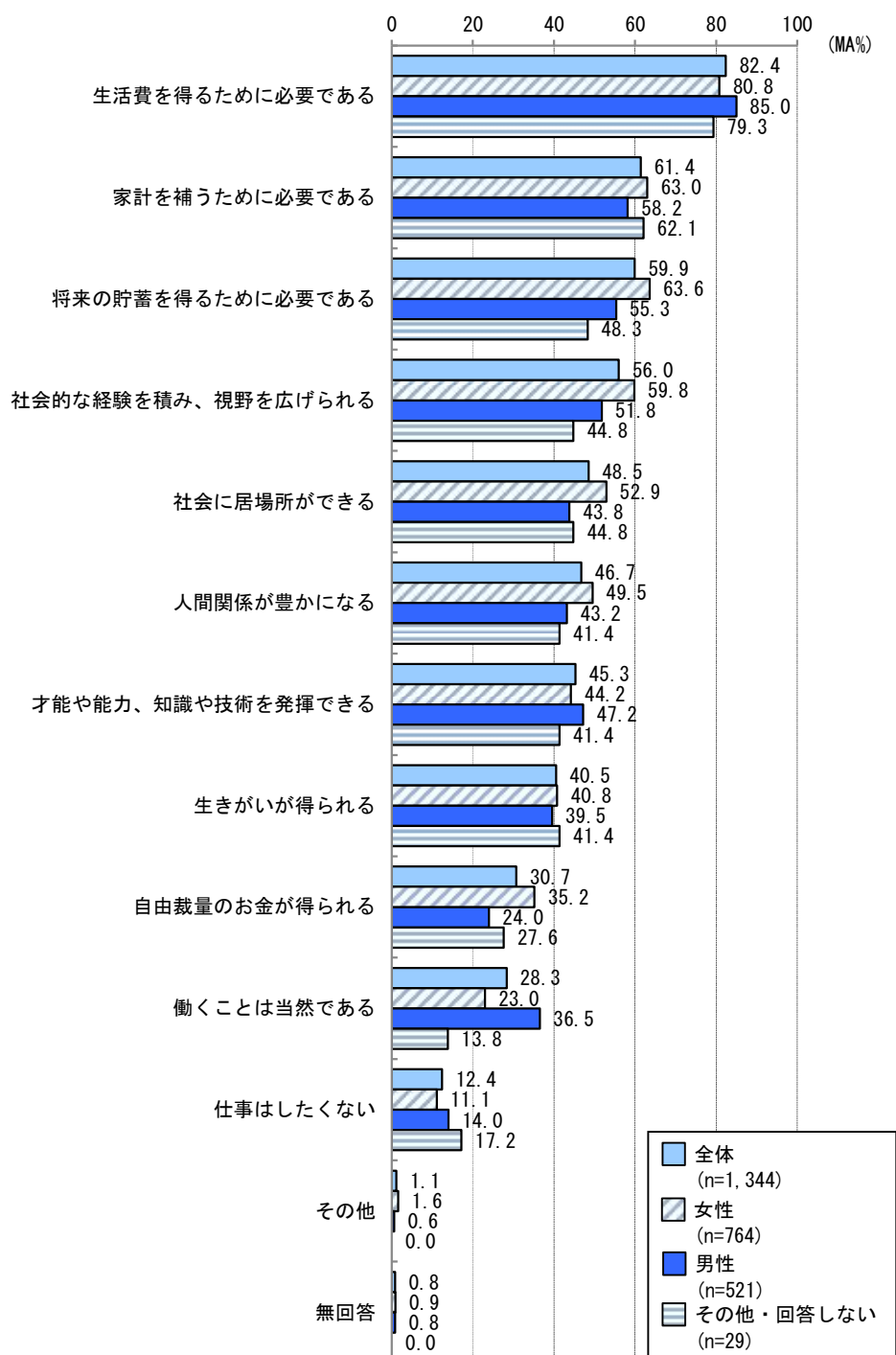


4. 仕事について

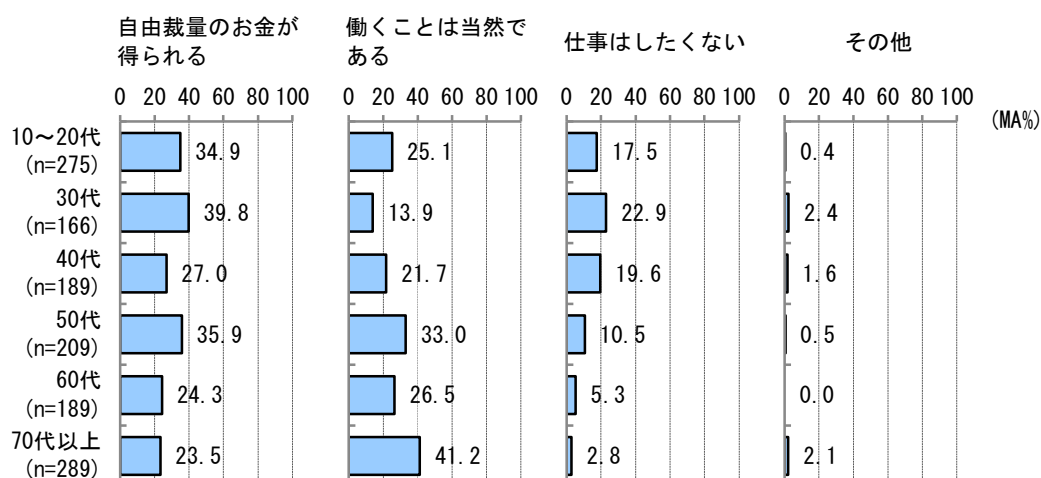
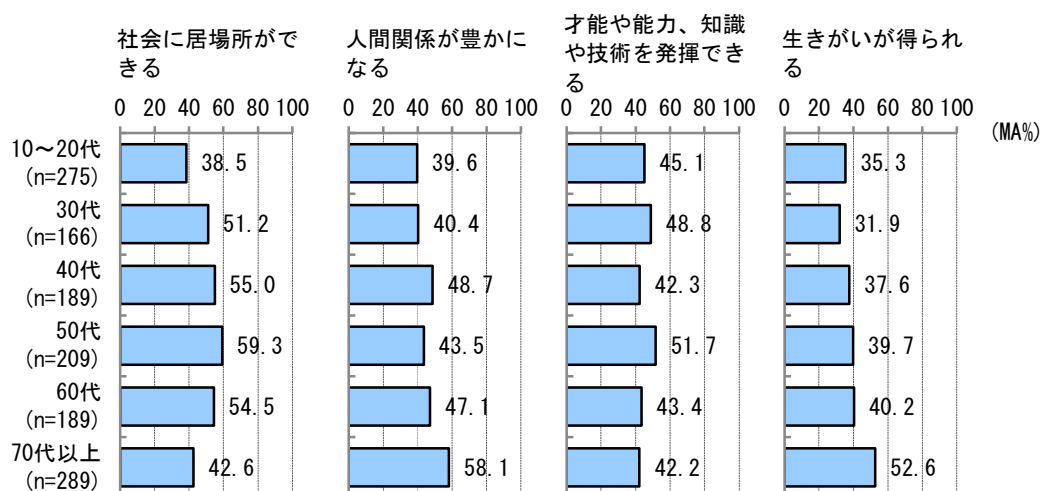
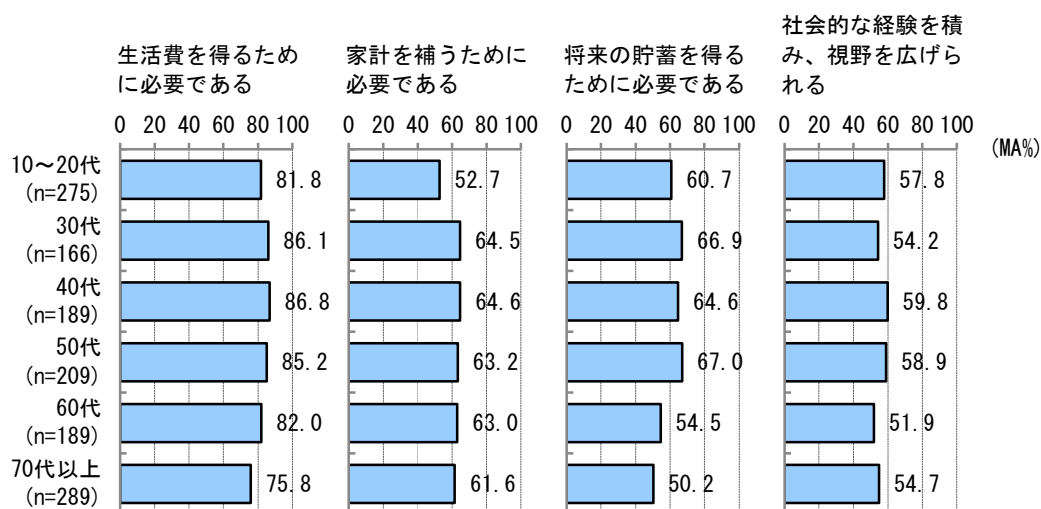
(1) 仕事に対する考え方

問5 あなたは、仕事についてどのようにお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- ・仕事に対する考え方については、「生活費を得るために必要である」が82.4%で最も多く、次いで「家計を補うために必要である」が61.4%、「将来の貯蓄を得るために必要である」が59.9%となっています。
- ・性別でみると、「働くことは当然である」の割合は女性（23.0%）より男性（36.5%）のほうが13.5ポイント高く、「自由裁量のお金が得られる」の割合は男性（24.0%）より女性（35.2%）のほうが11.2ポイント高くなっています。



- ・年代別でみると、「自由裁量のお金が得られる」、「仕事はしたくない」の割合は30代が最も高く、「生活費を得るために必要である」、「家計を補うために必要である」、「社会的な経験を積み、視野を広げられる」の割合は40代が最も高くなっています。



【前回調査との比較（年代別）】

- ・前回調査と比較すると、「家計を補うために必要である」、「将来の貯蓄を得るために必要である」、「才能や能力、知識や技術を発揮できる」の割合は10～20代で前回調査より10ポイント以上低くなっています。一方、「社会に居場所ができる」の割合はいずれの年代も前回調査より高く、50代では10.0ポイント高くなっています。

（単位：MA%）

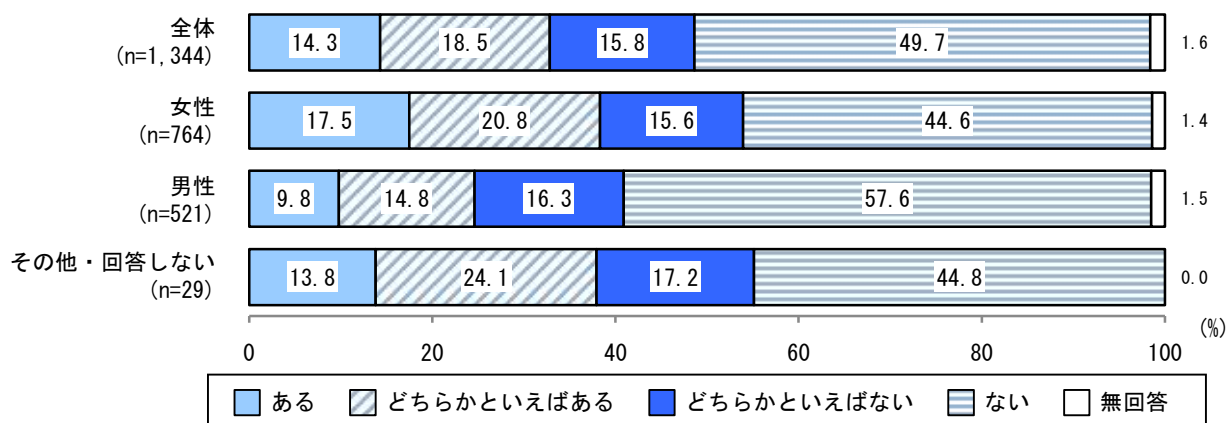
		n	生活費を得るために必要である	家計を補うために必要である	将来の貯蓄を得るために必要である	社会的な経験を積み、視野を広げられる	社会に居場所ができる	人間関係が豊かになる	才能や能力、知識や技術を発揮できる	生きがいを得られる	自由裁量のお金を得られる	働くことは当然である	仕事はしたくない	その他	無回答
今回調査	10～20代	275	81.8	52.7	60.7	57.8	38.5	39.6	45.1	35.3	34.9	25.1	17.5	0.4	－
	30代	166	86.1	64.5	66.9	54.2	51.2	40.4	48.8	31.9	39.8	13.9	22.9	2.4	0.6
	40代	189	86.8	64.6	64.6	59.8	55.0	48.7	42.3	37.6	27.0	21.7	19.6	1.6	－
	50代	209	85.2	63.2	67.0	58.9	59.3	43.5	51.7	39.7	35.9	33.0	10.5	0.5	－
	60代	189	82.0	63.0	54.5	51.9	54.5	47.1	43.4	40.2	24.3	26.5	5.3	－	0.5
	70代以上	289	75.8	61.6	50.2	54.7	42.6	58.1	42.2	52.6	23.5	41.2	2.8	2.1	3.1
前回調査	10～20代	89	87.6	68.5	73.0	58.4	38.2	38.2	57.3	36.0	33.7	20.2		1.1	－
	30代	165	92.1	64.2	72.1	65.5	50.3	48.5	55.8	32.1	32.1	26.7		3.6	－
	40代	203	89.7	66.0	64.5	55.2	46.8	42.4	47.3	27.1	27.1	32.0		1.5	0.5
	50代	225	86.7	64.9	56.9	56.4	49.3	44.4	48.0	39.6	25.3	33.3		0.4	0.4
	60代	230	82.2	67.8	59.6	54.3	50.9	54.3	51.3	43.9	30.4	41.7		3.5	0.4
	70代以上	265	75.1	63.0	52.5	57.0	38.9	54.3	40.4	58.5	25.3	46.0		3.0	1.9

※「仕事はしたくない」は今回調査の新規項目です。

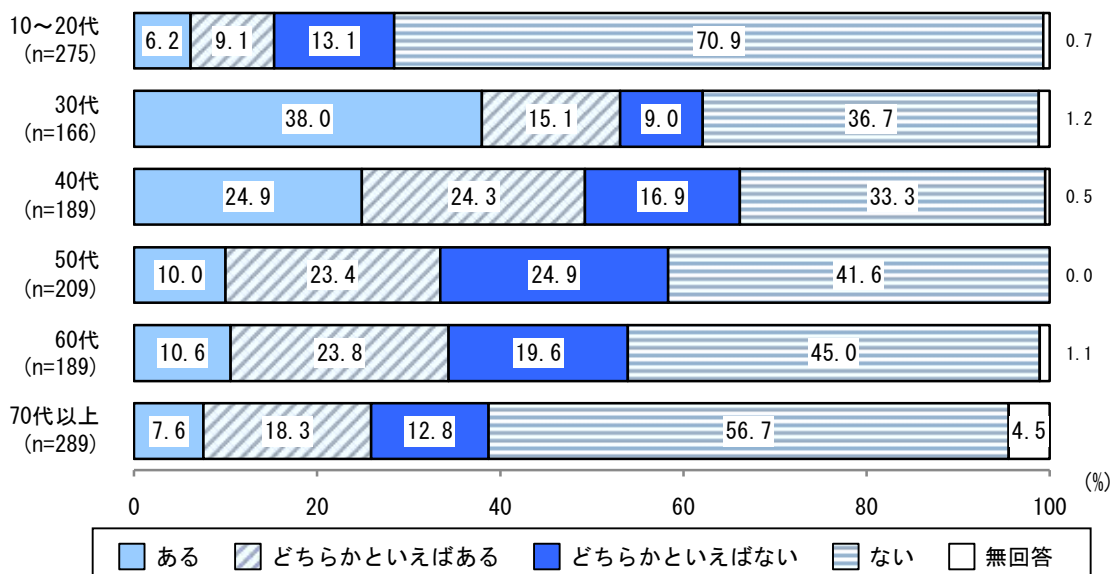
(2) 育児、介護などの時間の制約

問6 あなたは育児、介護などで時間に制約がありますか。(1つに○)

- ・育児、介護などの時間の制約については、「ない」が49.7%で最も多く、次いで「どちらかといえばある」が18.5%、「どちらかといえばない」が15.8%となっており、「ある」と「どちらかといえばある」をあわせた『制約がある』割合は32.8%となっています。
- ・性別でみると、『制約がある』割合は男性（24.6%）より女性（38.3%）のほうが13.7ポイント高くなっています。



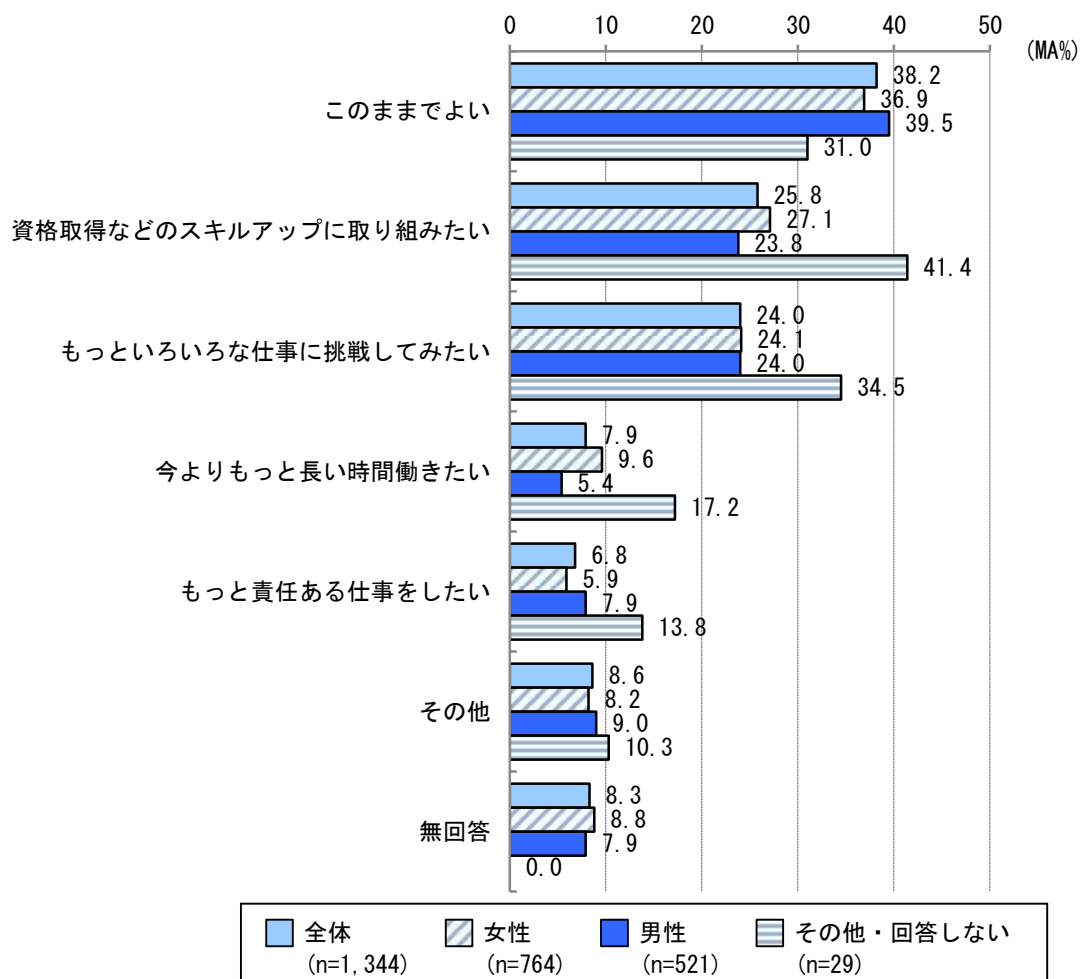
- ・年代別でみると、『制約がある』割合は30代が53.1%で最も高く、次いで40代が49.2%となっています。



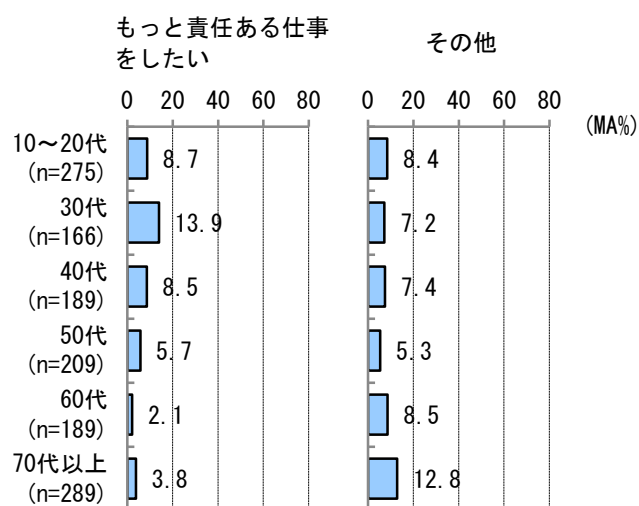
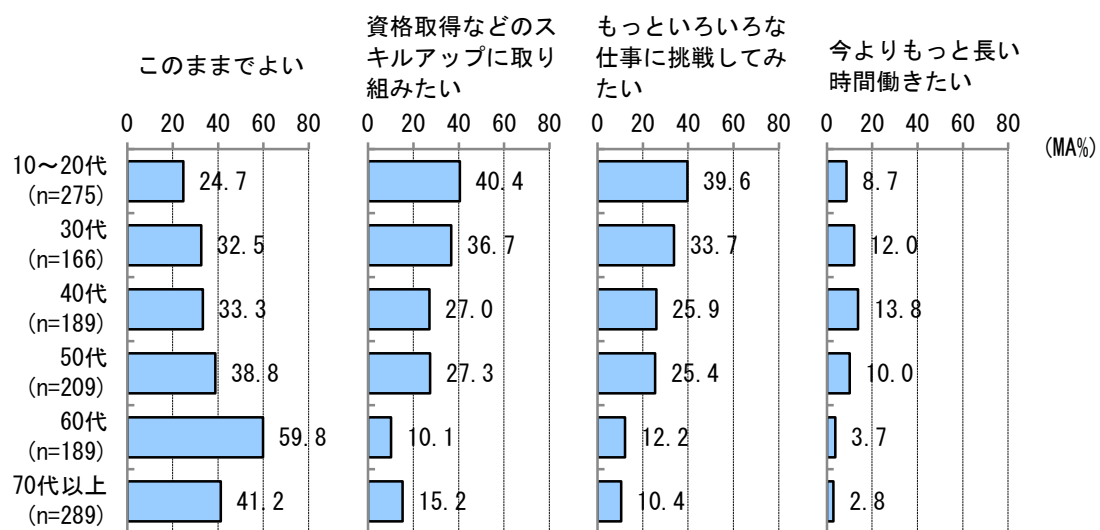
(3) 希望する働き方

問7 今後どのように働きたいですか。(問6で制約があると答えた方は、制約の要因がなくなったと想定してお答えください。)(あてはまるものすべてに○)

- ・希望する働き方については、「このままでよい」が38.2%、「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」が25.8%、「もっといろいろな仕事に挑戦してみたい」が24.0%となっています。
- ・性別でみると、「今よりもっと長い時間働きたい」の割合は男性(5.4%)より女性(9.6%)のほうが4.2ポイント高くなっています。



- ・年代別でみると、10～30代では「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」が最も多く、40～60代では「このままでよい」が最も多くなっています。

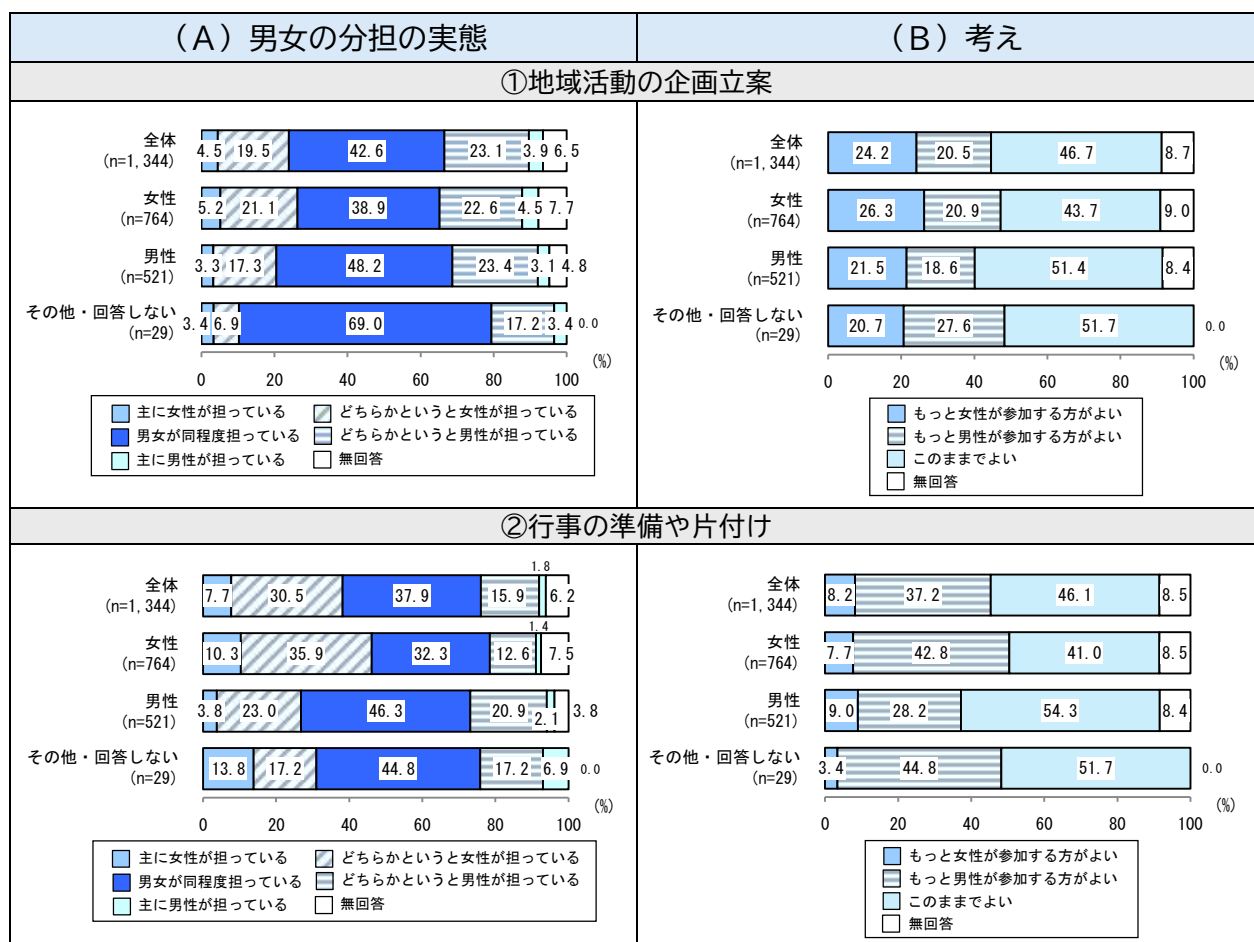


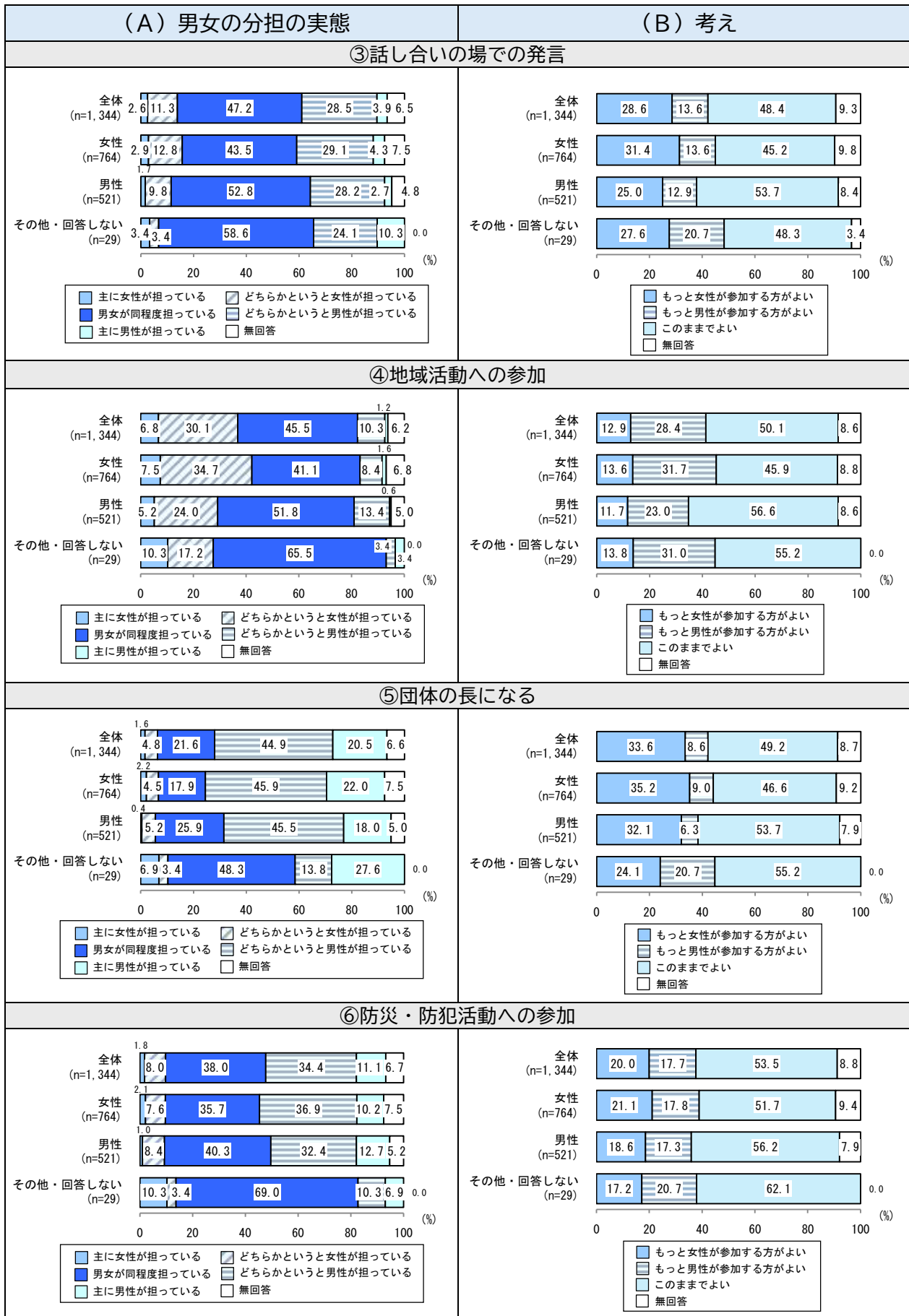
5. 地域活動について

(1) 地域活動での男女の分担の実態と考え

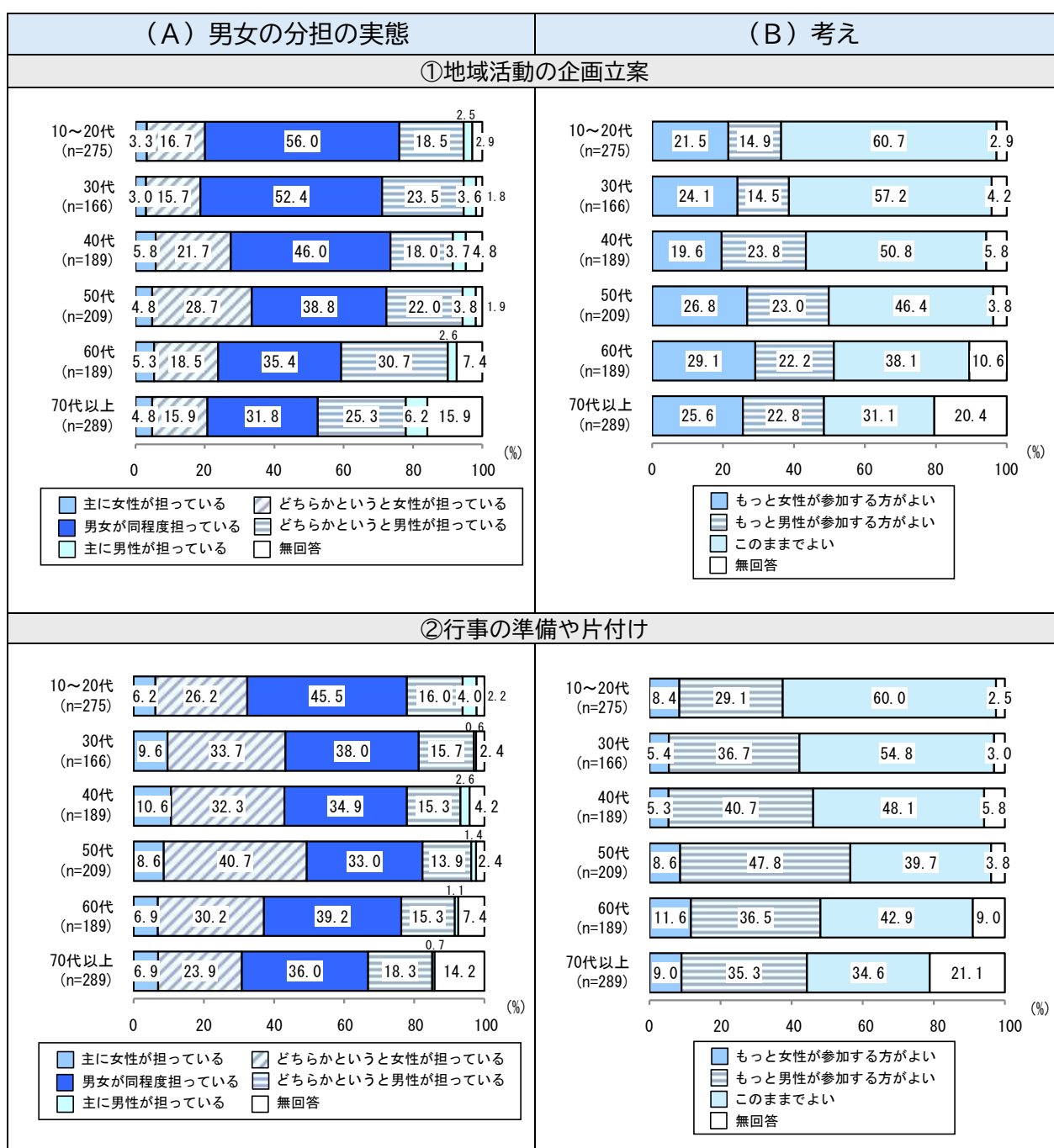
問8 単位福祉協会（自治会）、ボランティアなどの地域活動に関する①～⑥の項目について、(A) 男女の分担の実態と、(B) それについてのあなたの考えを教えてください。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

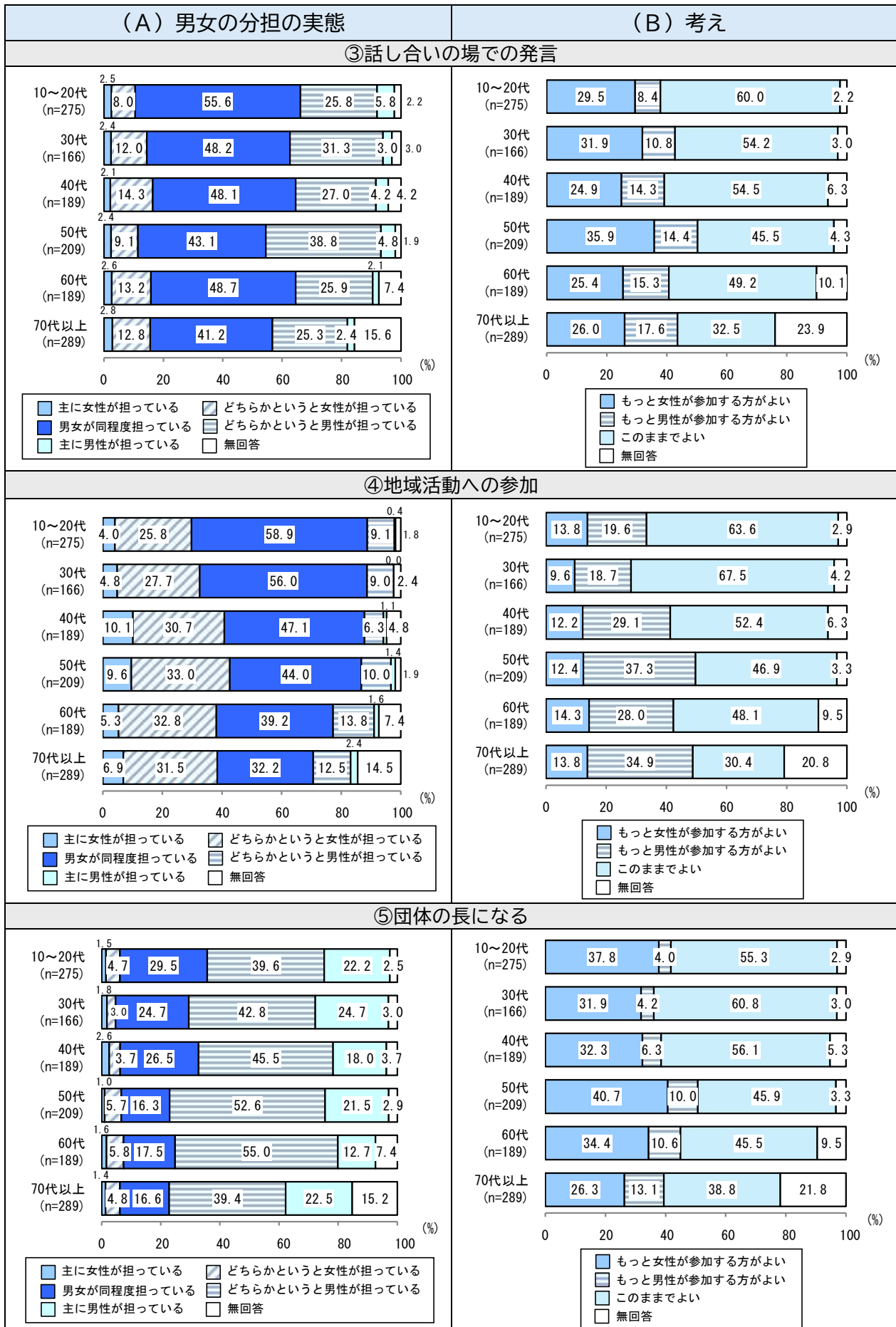
- ・男女の分担の実態については、“⑤団体の長になる”を除いて「男女が同程度担っている」が最も多いものの、“①地域活動の企画立案”“③話し合いの場での発言”“⑤団体の長になる”“⑥防災・防犯活動への参加”では、『男性』（「どちらかというと男性が担っている」と「主に男性が担っている」をあわせた割合）が高くなっています。
- ・性別でみると、「男女が同程度担っている」の割合はいずれの項目も女性より男性のほうが高くなっています。特に、“②行事の準備や片付け”、“④地域活動への参加”において男女の認識の差が大きくなっています。
- ・それについての考えについては、いずれの項目も「このままでよい」が最も多いものの、実態で『男性』のほうが多かった“①地域活動の企画立案”“③話し合いの場での発言”“⑤団体の長になる”“⑥防災・防犯活動への参加”については「もっと男性が参加する方がよい」より「もっと女性が参加する方がよい」の割合が高くなっています。
- ・性別でみると、「もっと女性が参加する方がよい」の割合は、“②行事の準備や片付け”を除いて男性より女性のほうが高くなっています。

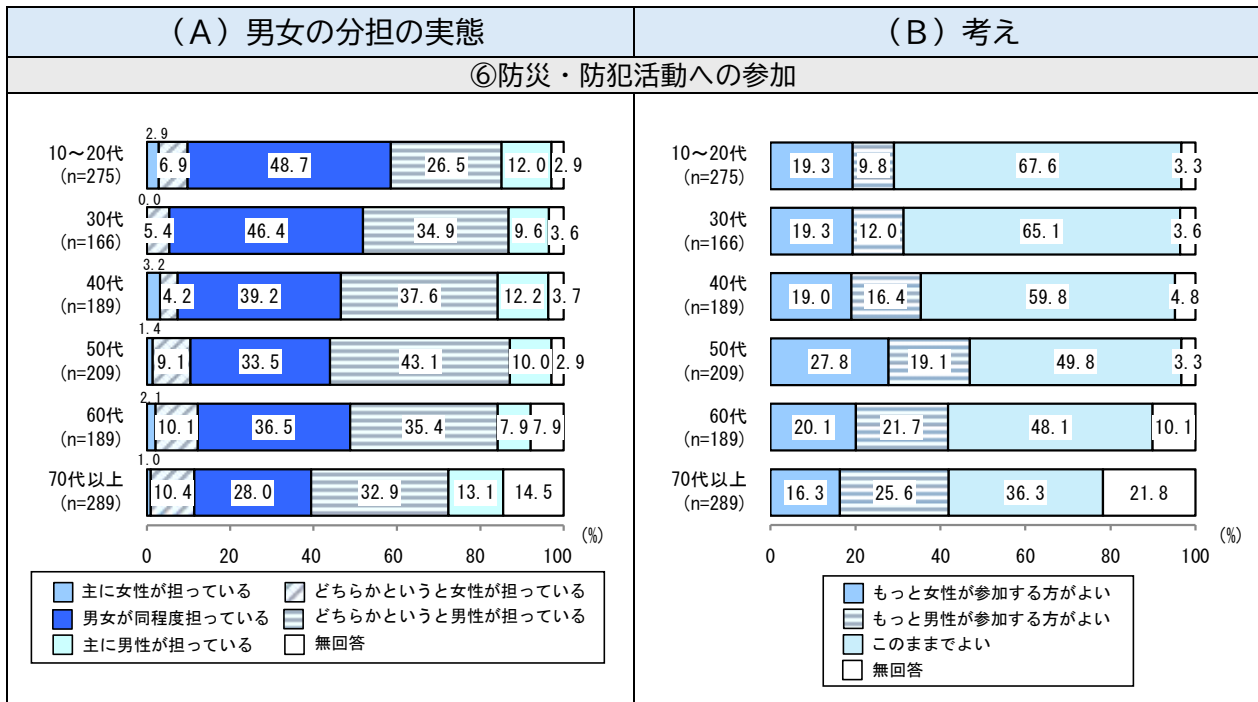




- ・男女の分担の実態について年代別でみると、『女性』の割合は“①地域活動の企画立案”、“②行事の準備や片付け”、“④地域活動への参加”では50代が最も高くなっています。一方、『男性』の割合は“①地域活動の企画立案”、“④地域活動への参加”では60代が最も高くなっています。
- ・それについての考えについて年代別でみると、「もっと女性が参加する方がよい」の割合は、“①地域活動の企画立案”、“②行事の準備や片付け”、“④地域活動への参加”では60代が最も高くなっています。一方、「もっと男性が参加する方がよい」の割合は、“③話し合いの場での発言”、“⑤団体の長になる”、“⑥防災・防犯活動への参加”は70代以上で最も高くなっています。





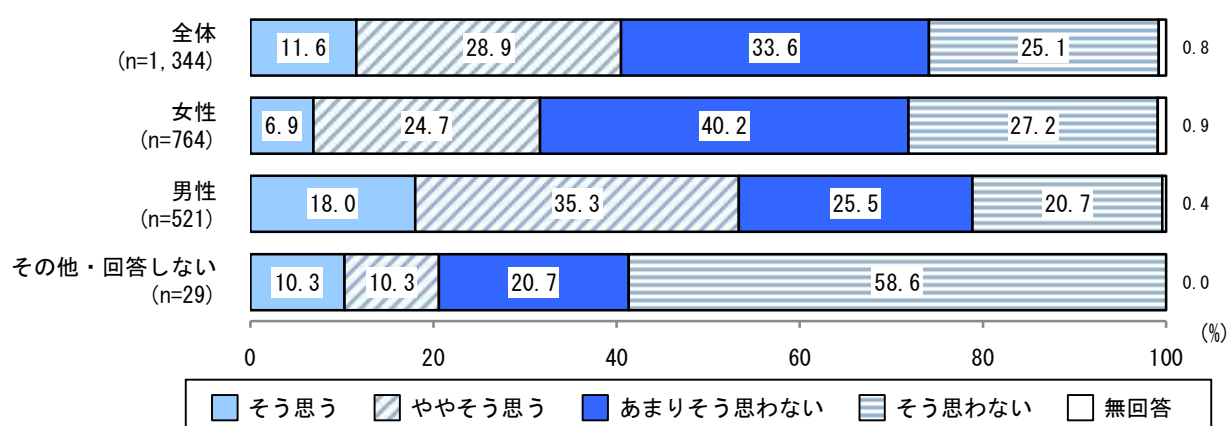


6. 子育てについて

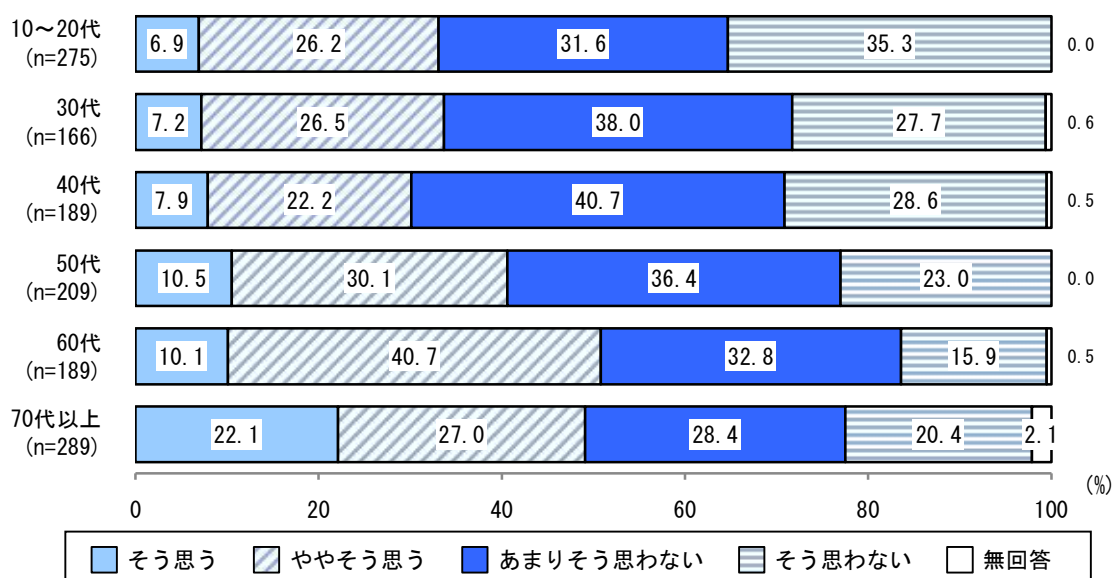
(1) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきという考え方

問9 子育てについて「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき」という考え方をどう思いますか。(1つに○)

- ・男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきという考え方については、「あまりそう思わない」が33.6%で最も多く、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた『そう思う』割合は40.5%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』割合は58.7%となっています。
- ・性別でみると、女性は『そう思わない』(67.4%)のほうが多いですが、男性は『そう思う』(53.3%)のほうが多くなっています。

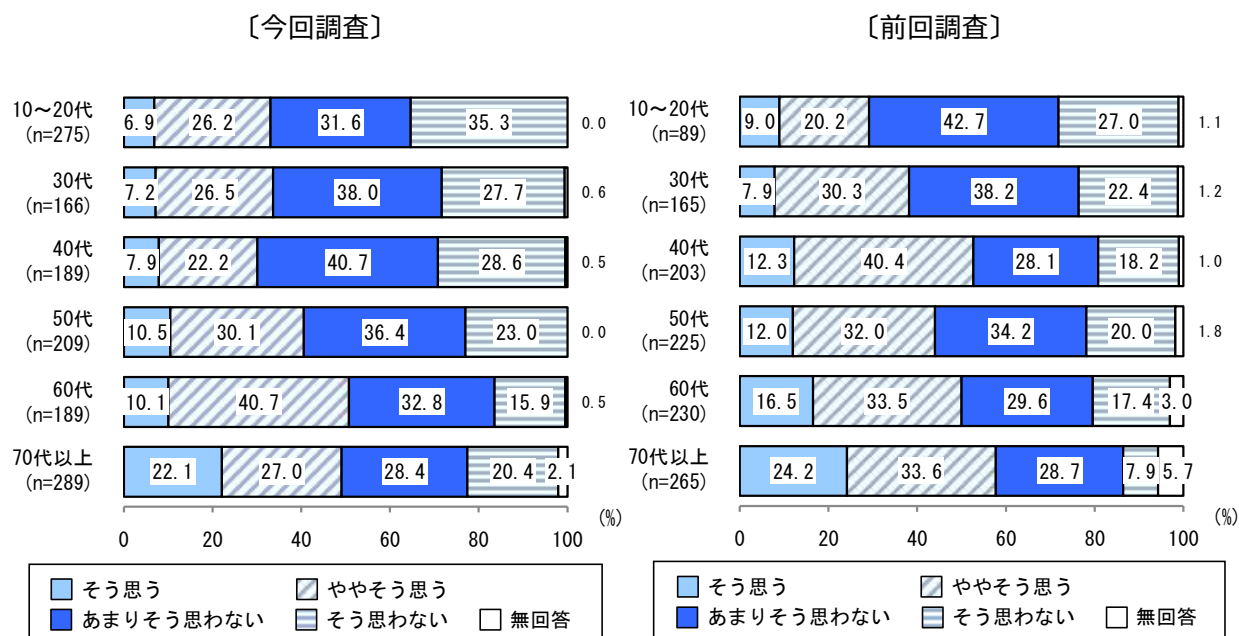


- ・年代別でみると、『そう思う』割合は60代が50.8%で最も高く、次いで70代以上が49.1%となっています。一方、『そう思わない』割合は40代が69.3%で最も高く、次いで10～20代が66.9%となっています。



【前回調査との比較（年代別）】

- ・ 前回調査と比較すると、40代では『そう思う』の割合（30.1％）は前回調査（52.7％）より22.6ポイント低く、『そう思わない』と感じる割合（69.3％）が前回調査（46.3％）より23.0ポイント高くなっています。また、70代以上では『そう思う』の割合（49.1％）は前回調査（57.8％）より8.7ポイント低くなっています。

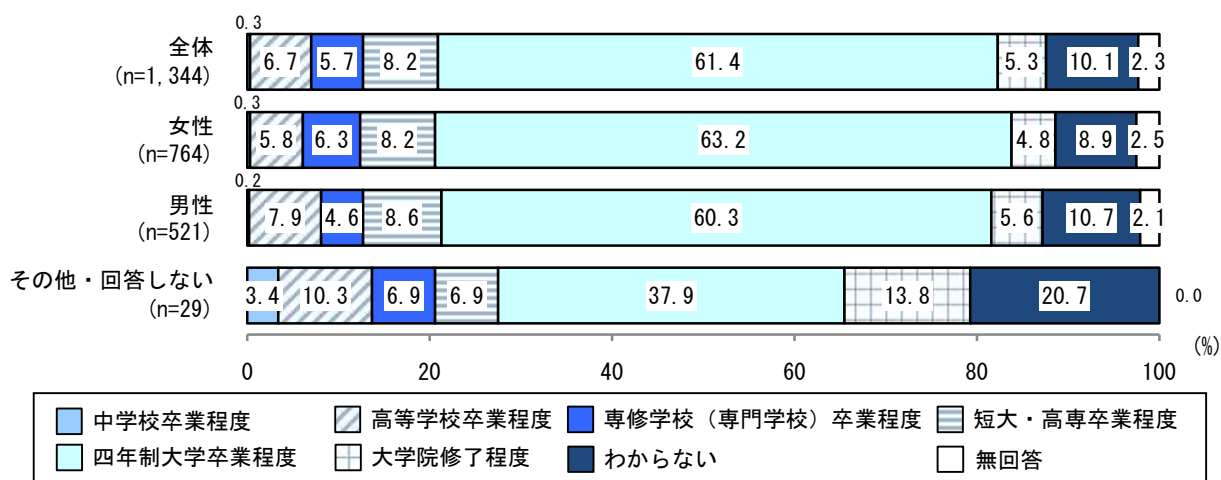


(2) 子どもに希望する学歴

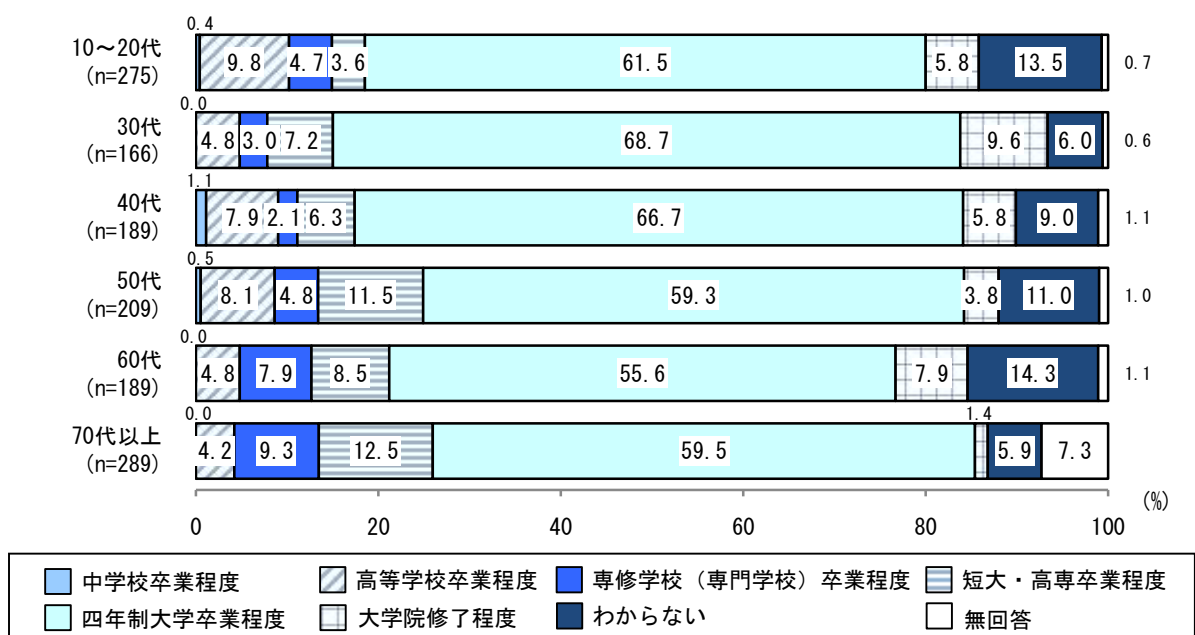
問10 子ども将来についてうかがいます。女の子、男の子、それぞれの場合について、お答えください。子どもには、どの程度まで教育を受けさせたい（受けさせたかった）ですか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

①女の子の場合

- ・子どもには、どの程度まで教育を受けさせたい（受けさせたかった）かについては、女の子の場合、「四年制大学卒業程度」が61.4%で最も多く、次いで「短大・高専卒業程度」が8.2%、「高等学校卒業程度」が6.7%となっています。
- ・性別でみると、「四年制大学卒業程度」の割合は男性（60.3%）より女性（63.2%）のほうが2.9ポイント高くなっています。

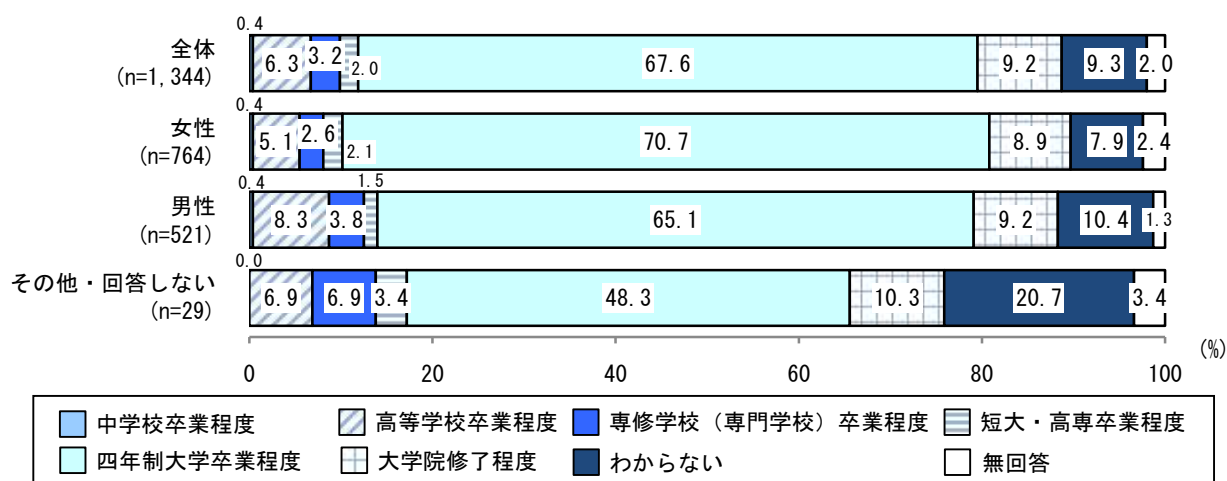


- ・年代別でみると、「四年制大学卒業程度」の割合は30代が68.7%で最も高く、次いで40代が66.7%となっています。「高等学校卒業程度」は10～20歳が9.8%で最も高く、「専修学校（専門学校）卒業程度」、「短大・高専卒業程度」は70代以上で最も高くなっています。

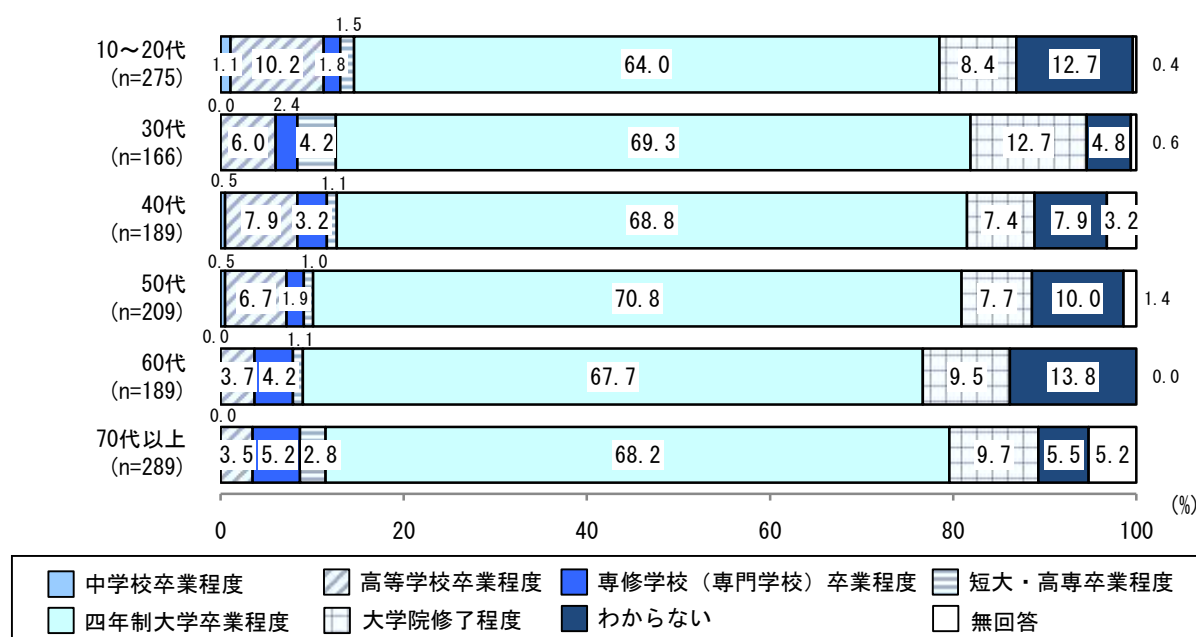


②男の子の場合

- ・子どもには、どの程度まで教育を受けさせたい（受けさせたかった）かについては、男の子の場合、「四年制大学卒業程度」が67.6%で最も多く、次いで「大学院修了程度」が9.2%、「高等学校卒業程度」が6.3%となっています。
- ・性別でみると、「四年制大学卒業程度」の割合は男性（65.1%）より女性（70.7%）のほうが5.6ポイント高くなっています。
- ・①の女の子の場合と比べると、男の子の場合の方が高学歴を望む人が多い結果となっています。



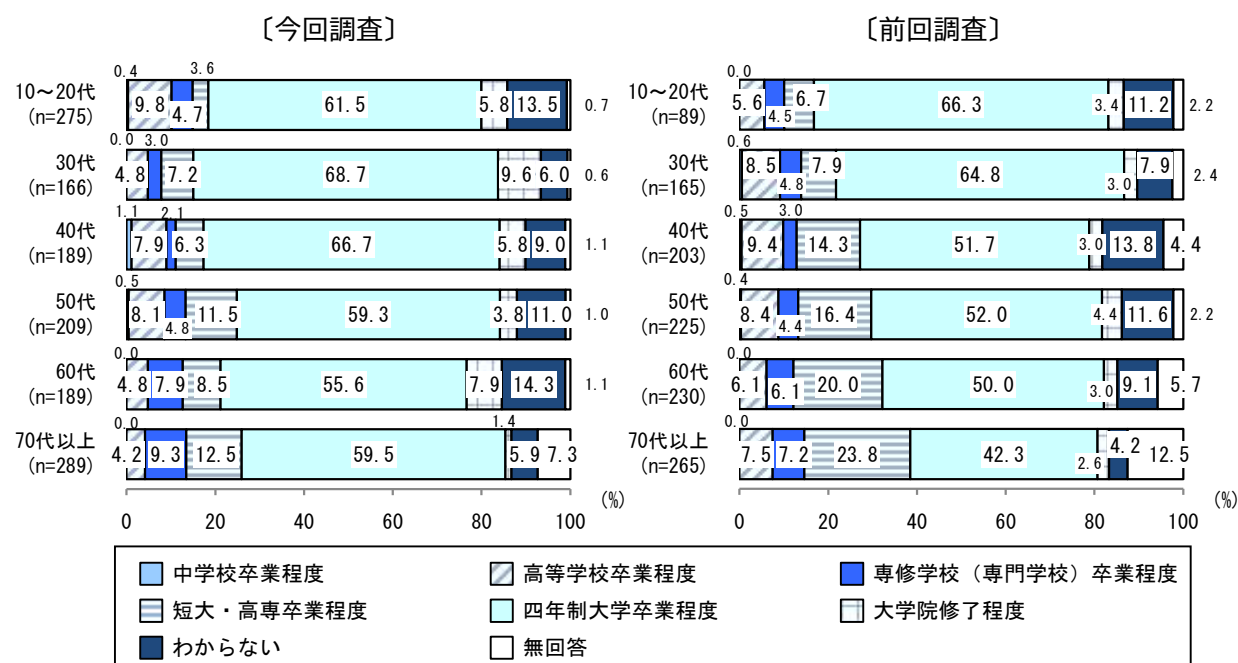
- ・年代別でみると、「四年制大学卒業程度」の割合は50代が70.8%で最も高く、次いで30代が69.3%となっています。「高等学校卒業程度」は10～20歳が10.2%で最も高く、「大学院修了程度」は30代が12.7%で最も高くなっています。



【前回調査との比較（年代別）】

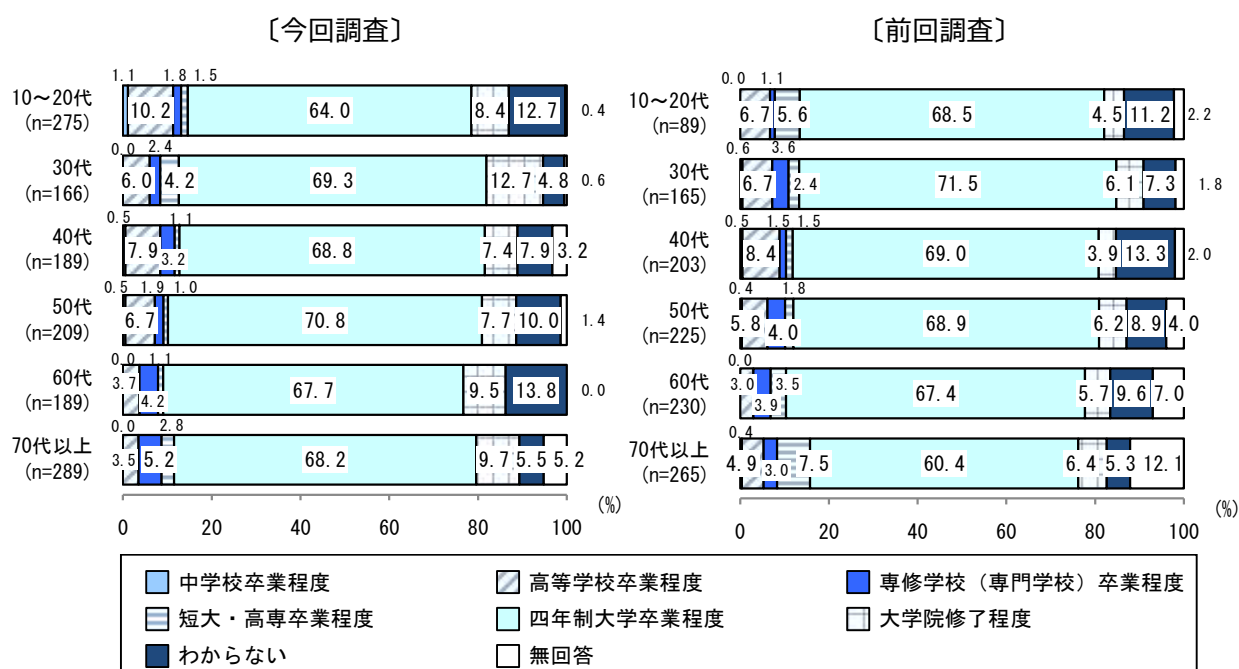
①女の子の場合

- ・前回調査と比較すると、「四年制大学卒業程度」の割合は10～20代（61.5％）では前回調査（66.3％）より4.8ポイント低くなっていますが、30代以上の年代はいずれも前回調査より高い割合となっています。



②男の子の場合

- ・前回調査と比較すると、「大学院修了程度」の割合はいずれの年代も前回調査より高くなっています。「四年制大学卒業程度」の割合は50代以上の年代で前回調査より高く、70代以上では7.8ポイント高くなっています。



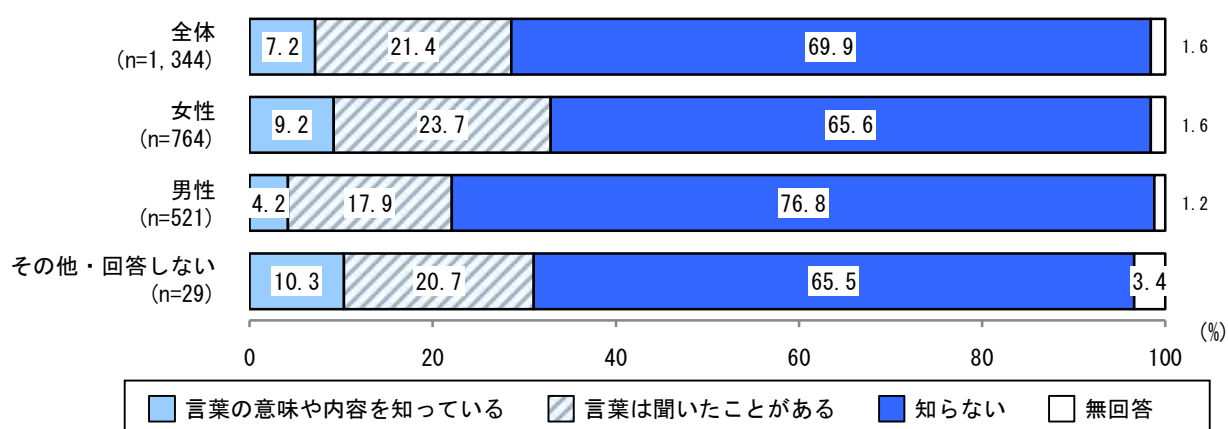
7. 男女共同参画施策等について

(1) 男女共同参画施策等の認知度

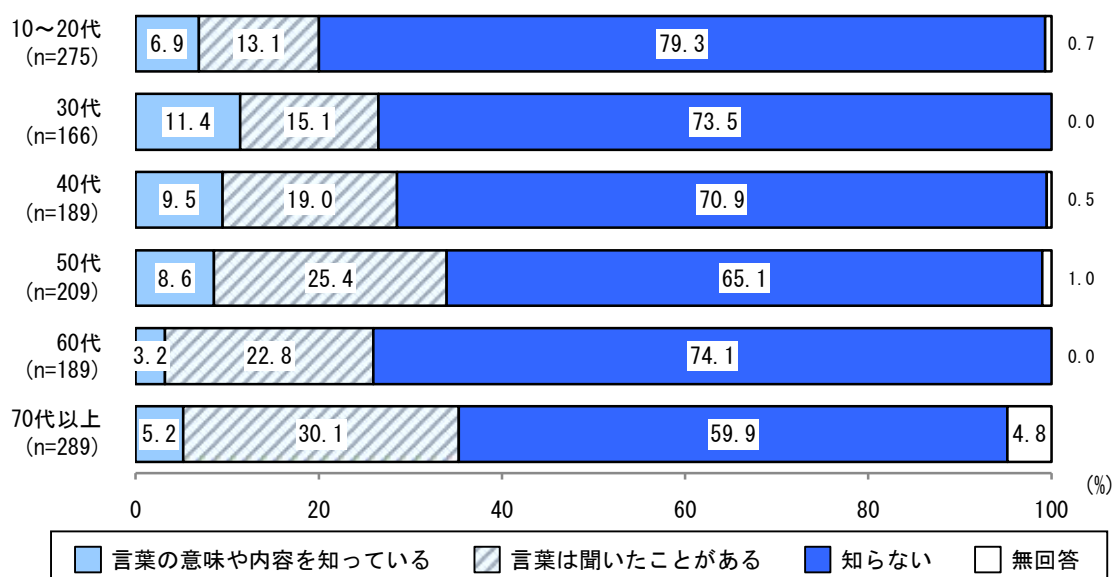
問11 次の①～④のことについて、どの程度知っていますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①尼崎市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

- ・尼崎市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の認知度については、「知らない」が69.9%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が21.4%、「言葉の意味や内容を知っている」が7.2%となっています。
- ・性別でみると、「知らない」の割合は女性（65.6%）より男性（76.8%）のほうが11.2ポイント高くなっています。

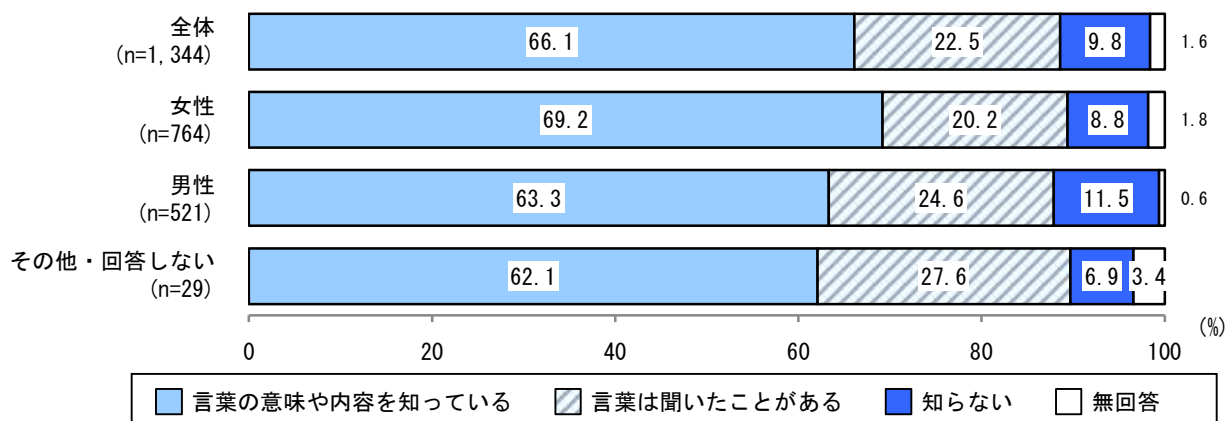


- ・年代別でみると、「知らない」の割合は10～20代が79.3%で最も高く、次いで60代が74.1%となっています。

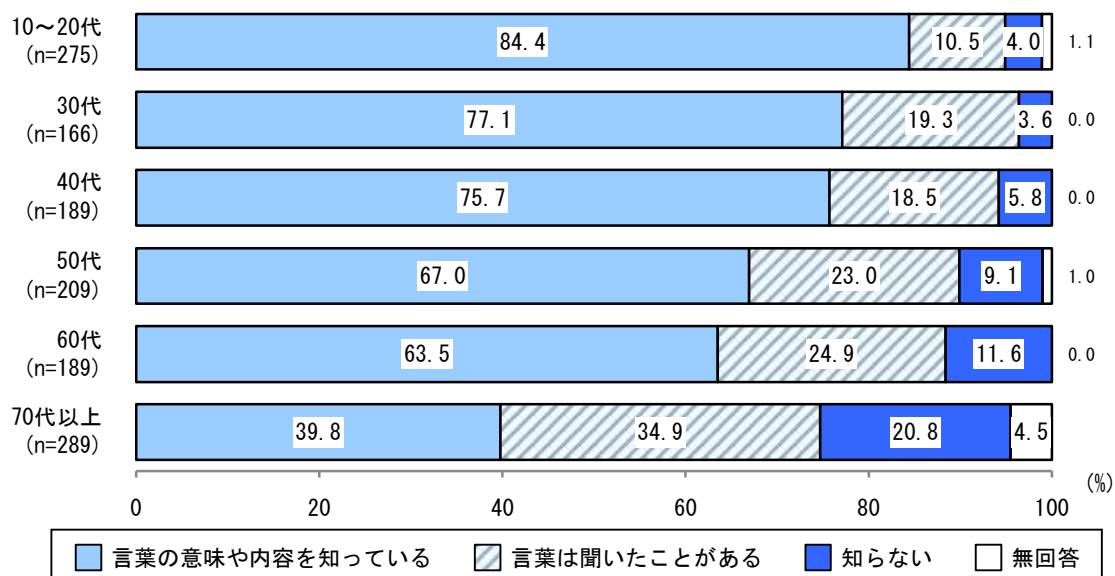


②ジェンダー

- ・ジェンダーの認知度については、「言葉の意味や内容を知っている」が66.1%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が22.5%、「知らない」が9.8%となっています。
- ・性別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は男性(63.3%)より女性(69.2%)のほうが5.9ポイント高くなっています。

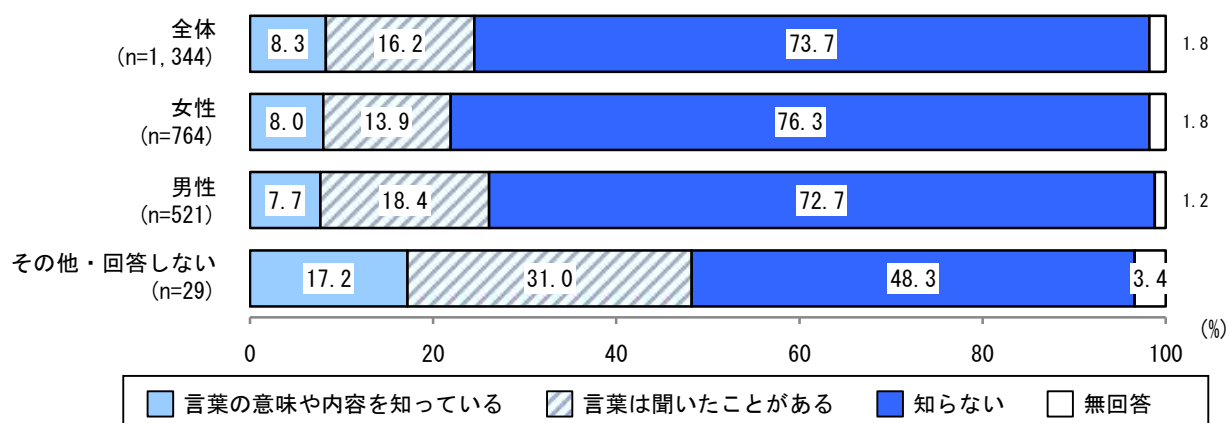


- ・年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は10～20代が84.4%で最も高く、高齢になるほど割合が低くなっています。

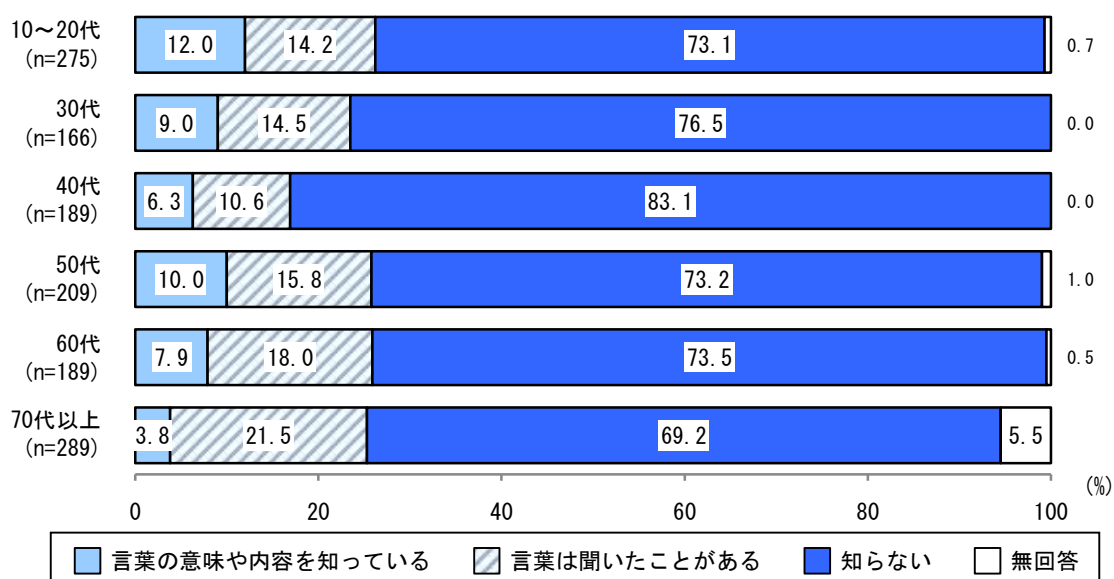


③SOGI

- ・SOGIの認知度については、「知らない」が73.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が16.2%、「言葉の意味や内容を知っている」が8.3%となっています。
- ・性別でみると、「知らない」の割合は男性（72.7%）より女性（76.3%）のほうが3.6ポイント高くなっています。

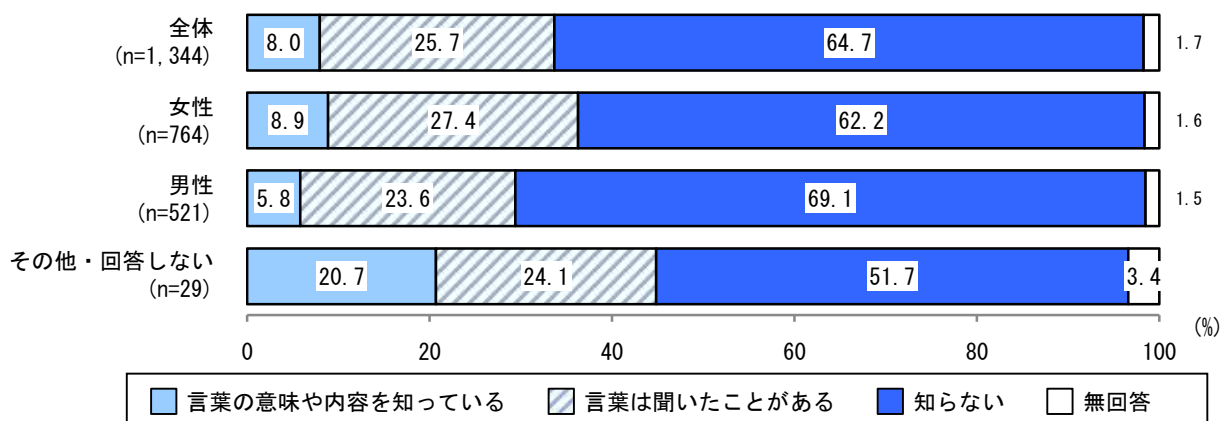


- ・年代別でみると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は10～20代が12.0%で最も高く、「知らない」の割合は40代が83.1%で最も高くなっています。

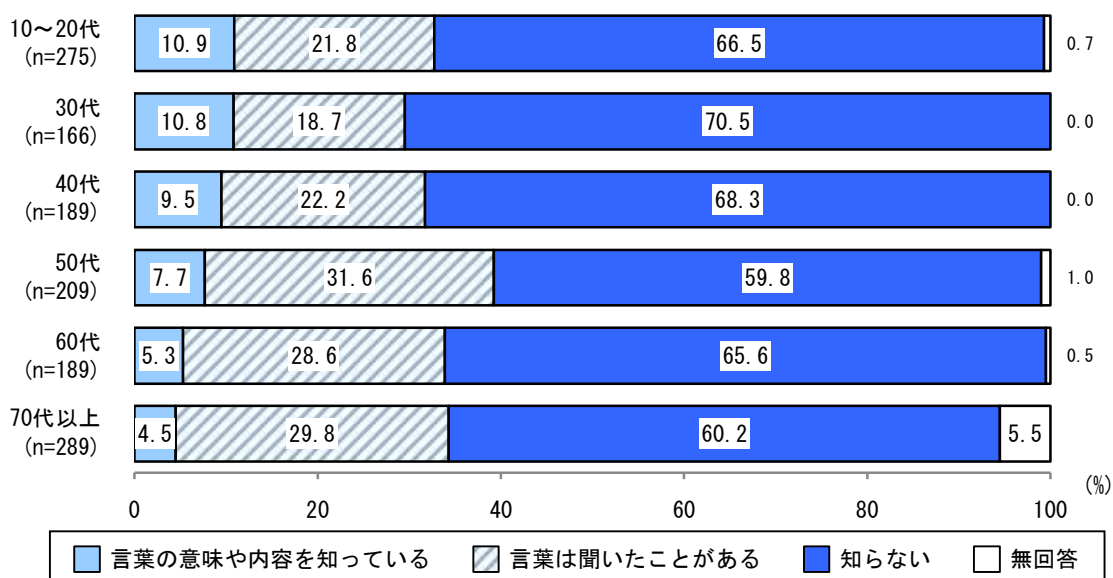


④困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

- ・ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の認知度については、「知らない」が64.7%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が25.7%、「言葉の意味や内容を知っている」が8.0%となっています。
- ・ 性別でみると、「知らない」の割合は女性（62.2%）より男性（69.1%）のほうが6.9ポイント高くなっています。



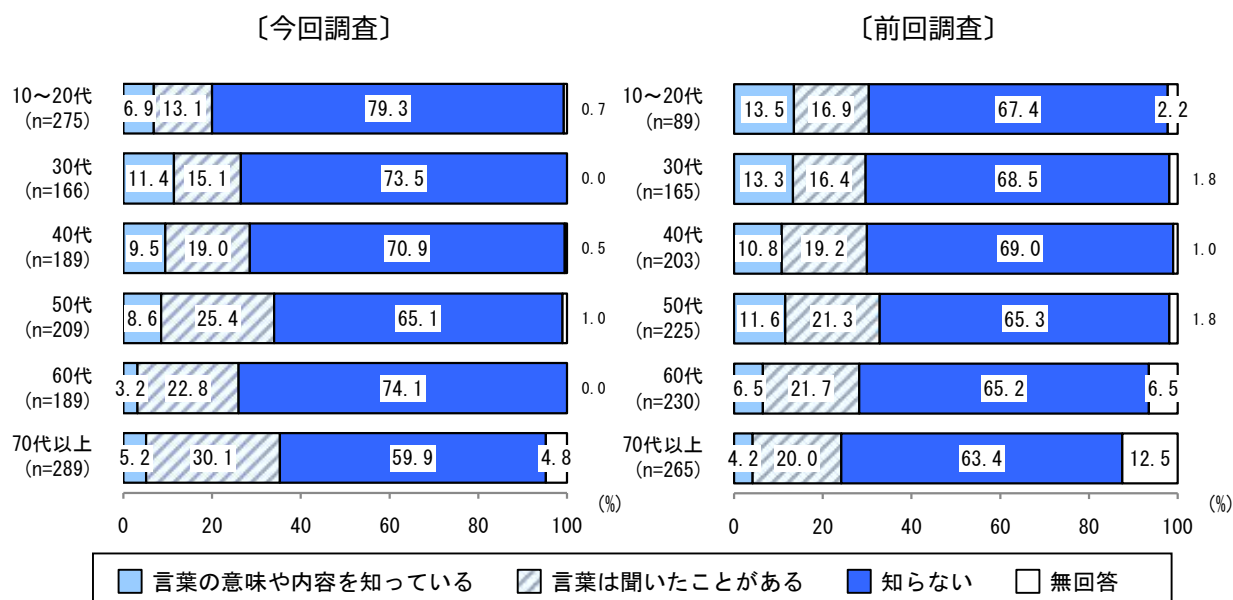
- ・ 年代別でみると、「知らない」の割合は30代が70.5%で最も高く、次いで40代が68.3%となっています。



【前回調査との比較（年代別）】

①尼崎市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

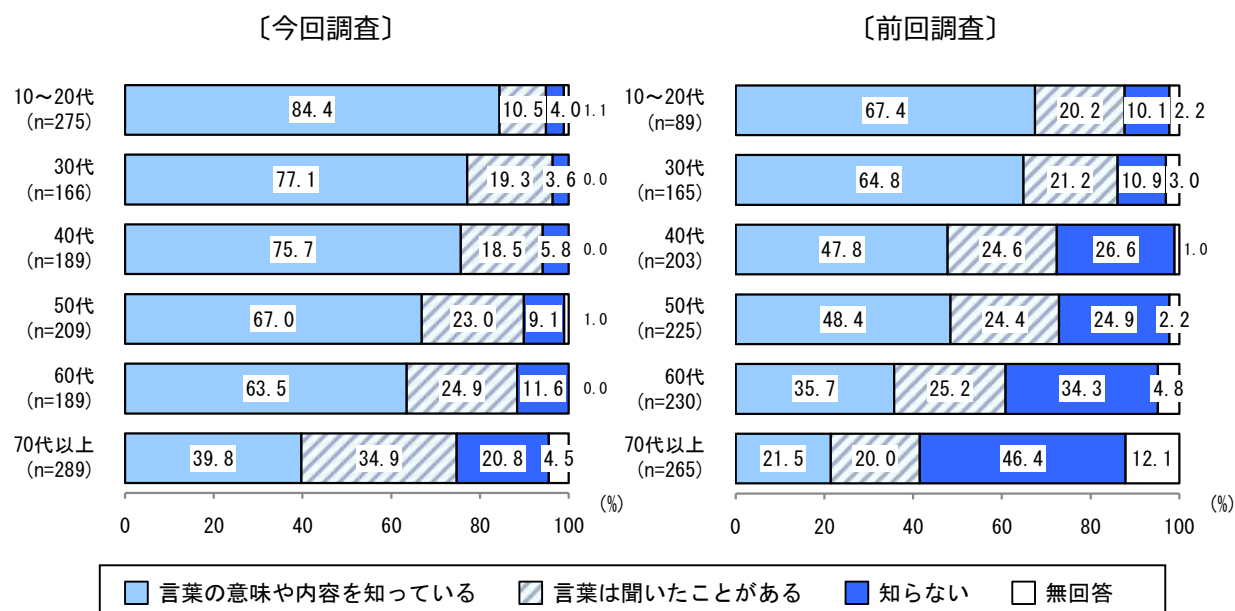
・前回調査と比較すると、「知らない」の割合は10～20代（79.3％）では前回調査（67.4％）より11.9ポイント、30代（73.5％）では前回調査（68.5％）より5.0ポイント、60代（74.1％）では前回調査（65.2％）より8.9ポイント、それぞれ高くなっています。



※前回調査と比較すると、「知らない」の割合が高くなっている理由として、令和7年(2025年)6月より、制度内容を拡充したことで、制度名称が“パートナーシップ宣誓制度”から“パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”に変更になったことが要因の一つとして考えられる。

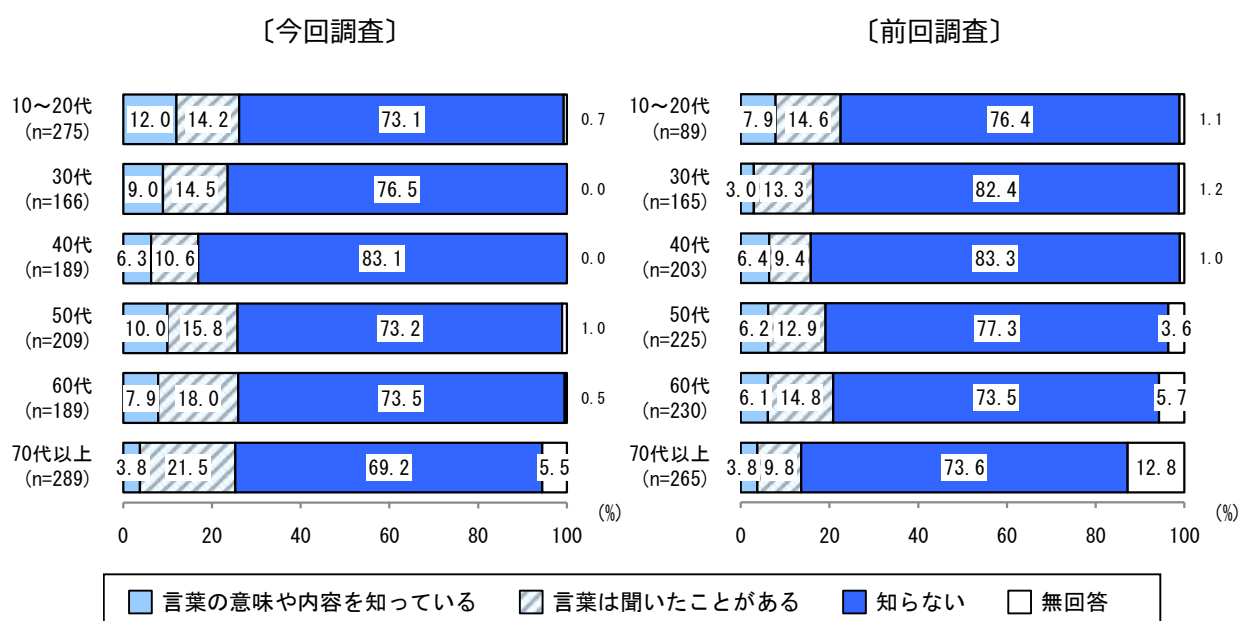
②ジェンダー

- ・前回調査と比較すると、「言葉の意味や内容を知っている」の割合はいずれの年代も前回調査より高く、なかでも40代（75.7%）では前回調査（47.8%）より27.9ポイント、60代（63.5%）では前回調査（35.7%）より27.8ポイント、それぞれ高くなっています。



③SOGI

- ・前回調査と比較すると、「知らない」の割合は60代を除く年代で前回調査より低くなっています。一方、「言葉の意味や内容を知っている」の割合は40代・70代を除く年代で前回調査より高く、30代（9.0%）では前回調査（3.0%）より6.0ポイント高くなっています。

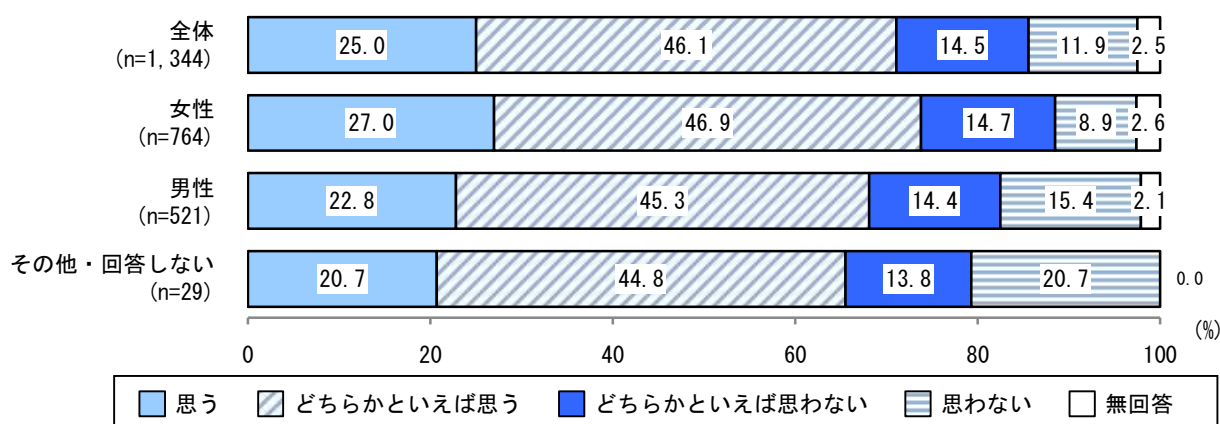


8. 性の多様性について

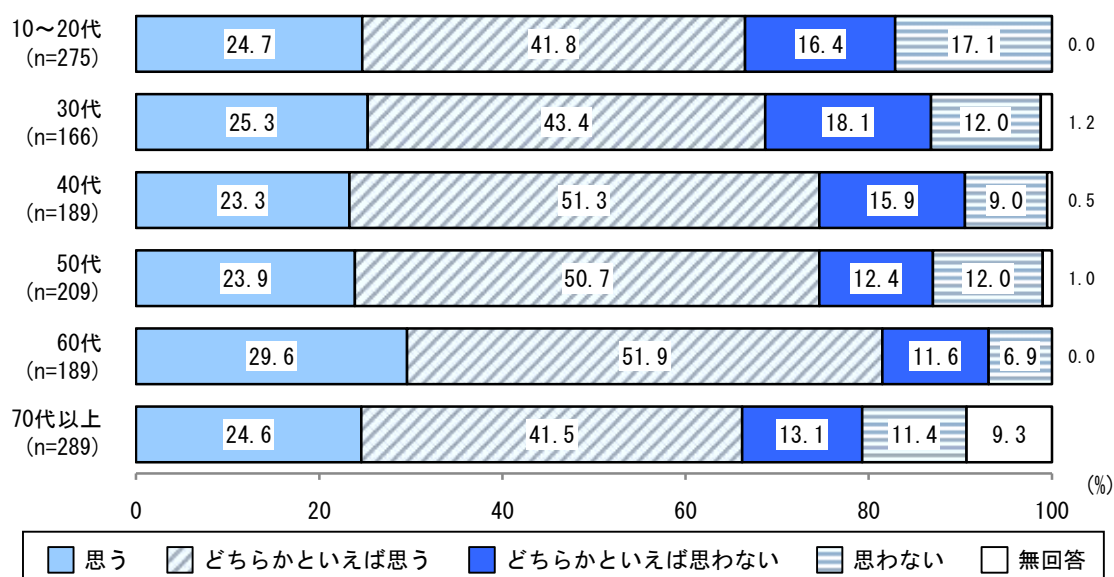
(1) 性的マイノリティの人の生きづらさ

問12 性的マイノリティの方々にとって、今の社会は生きづらいと思いますか。
あなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

- ・今の社会は性的マイノリティの人には生きづらいと思うかについては、「どちらかといえば思う」が46.1%で最も多く、次いで「思う」が25.0%、「どちらかといえば思わない」が14.5%となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた『生きづらいと思う』割合は、71.1%となっています。
- ・性別でみると、『生きづらいと思う』の割合は男性（68.1%）より女性（73.9%）のほうが5.8ポイント高くなっています。



- ・年代別でみると、『生きづらいと思う』の割合は60代が81.5%で最も高く、次いで40代と50代がともに74.6%となっています。



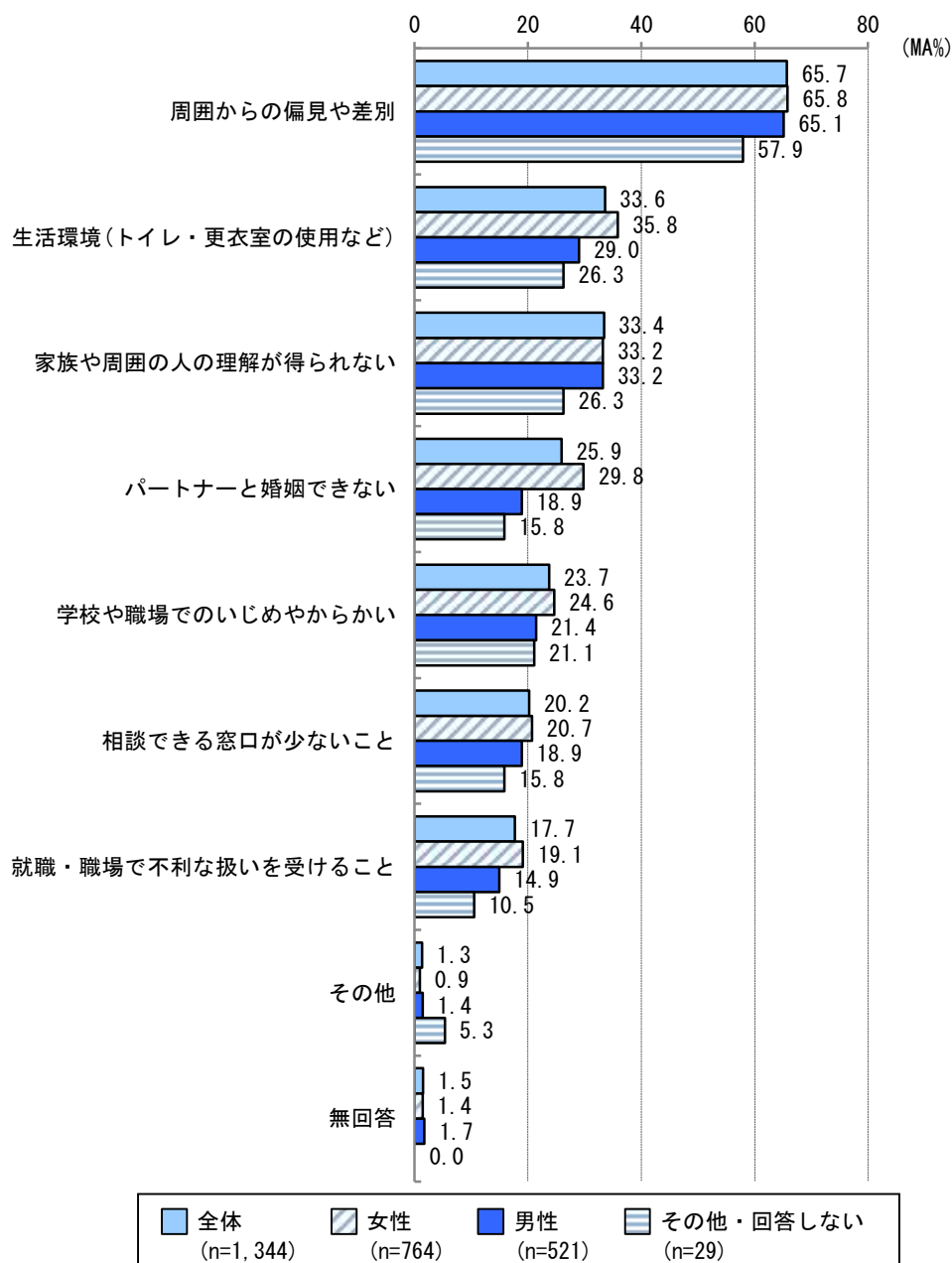
(2) 性的マイノリティの人の生きづらい理由

問12で「思う」「どちらかといえば思う」に○をつけた方にうかがいます。

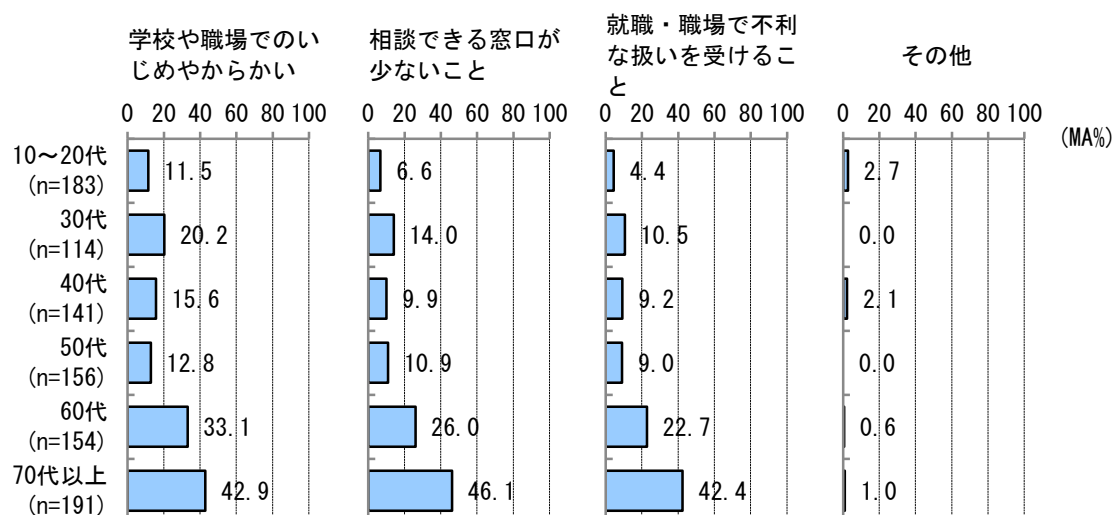
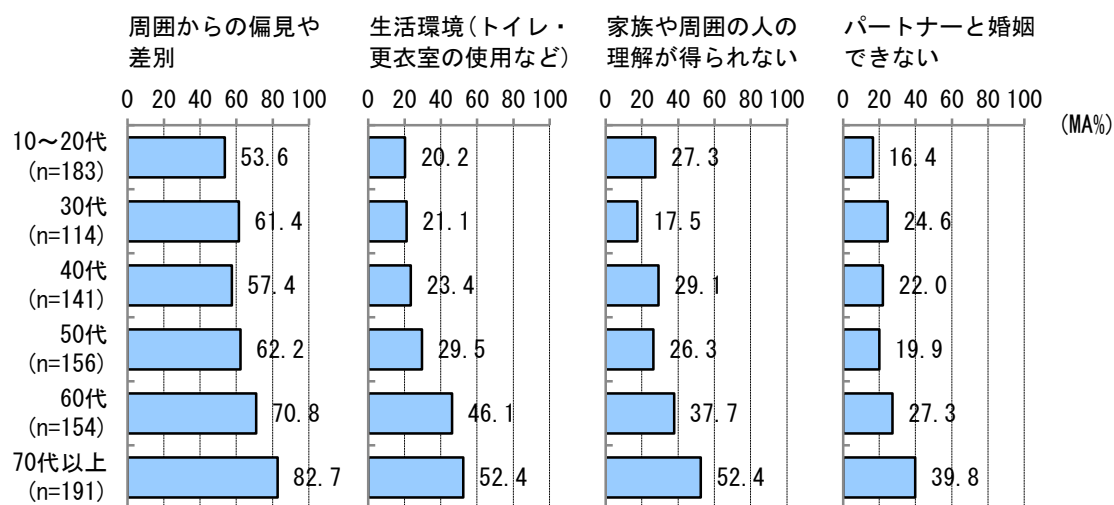
問13 性的マイノリティの方々は、こういった理由で生きづらいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- ・性的マイノリティの人が生きづらいと思うと回答した人に、その理由をたずねると、「周囲からの偏見や差別」が65.7%で最も多く、次いで「生活環境(トイレ・更衣室の使用など)」が33.6%、「家族や周囲の人の理解が得られない」が33.4%となっています。
- ・性別でみると、「パートナーと婚姻できない」が男性(18.9%)より女性(29.8%)のほうが10.9ポイント、「生活環境(トイレ・更衣室の使用など)」が男性(29.0%)より女性(35.8%)のほうが6.8ポイント、それぞれ高くなっています。



- ・年代別でみると、いずれの項目も70代以上が最も高く、概ね高齢になるほど割合が高くなる傾向にあります。

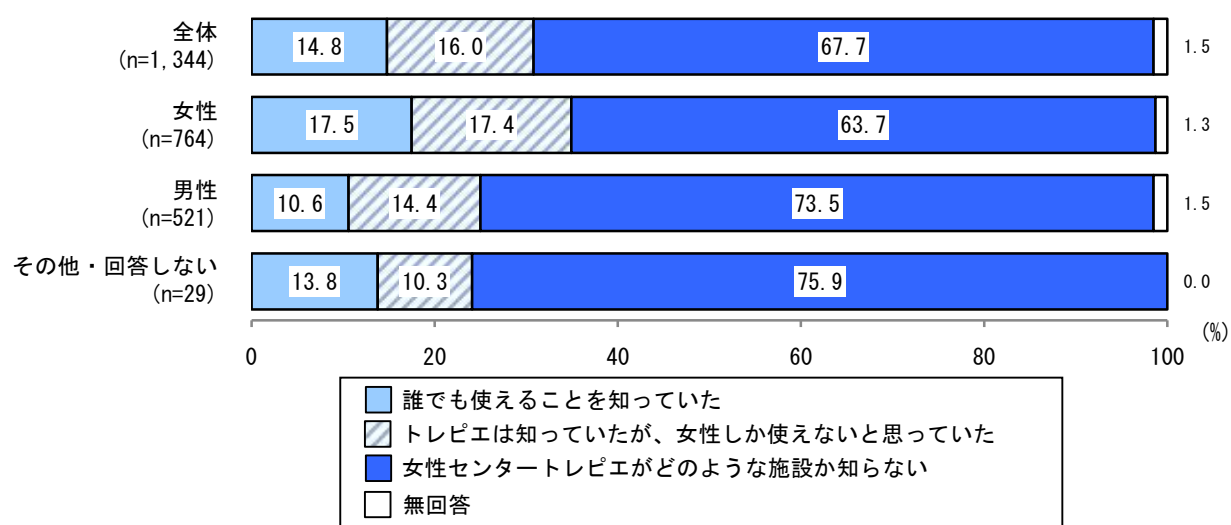


9. 尼崎市女性センタートレピエについて

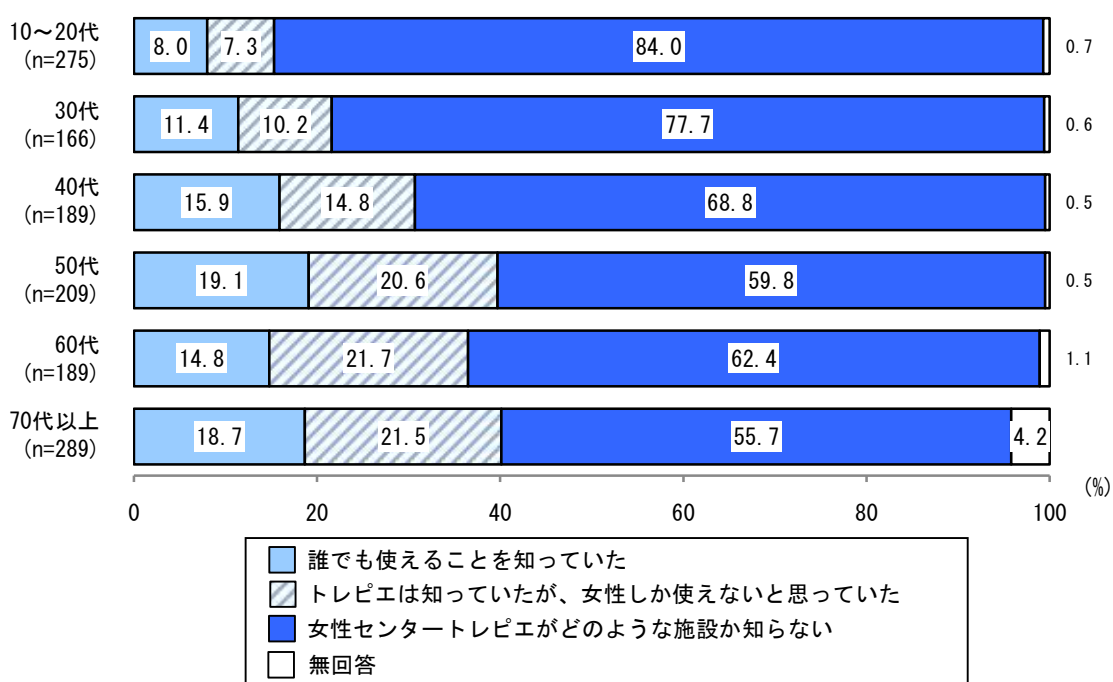
(1) 女性センタートレピエの認知度

問14 女性センタートレピエは、誰でも使える施設であることを知っていますか。
(1つに○)

- ・女性センタートレピエは誰でも使えることの認知度については、「女性センタートレピエがどのような施設か知らない」が67.7%で最も多く、次いで「トレピエは知っていたが、女性しか使えないと思っていた」が16.0%、「誰でも使えることを知っていた」が14.8%となっています。
- ・性別でみると、「女性センタートレピエがどのような施設か知らない」の割合は女性（63.7%）より男性（73.5%）のほうが9.8ポイント高くなっています。



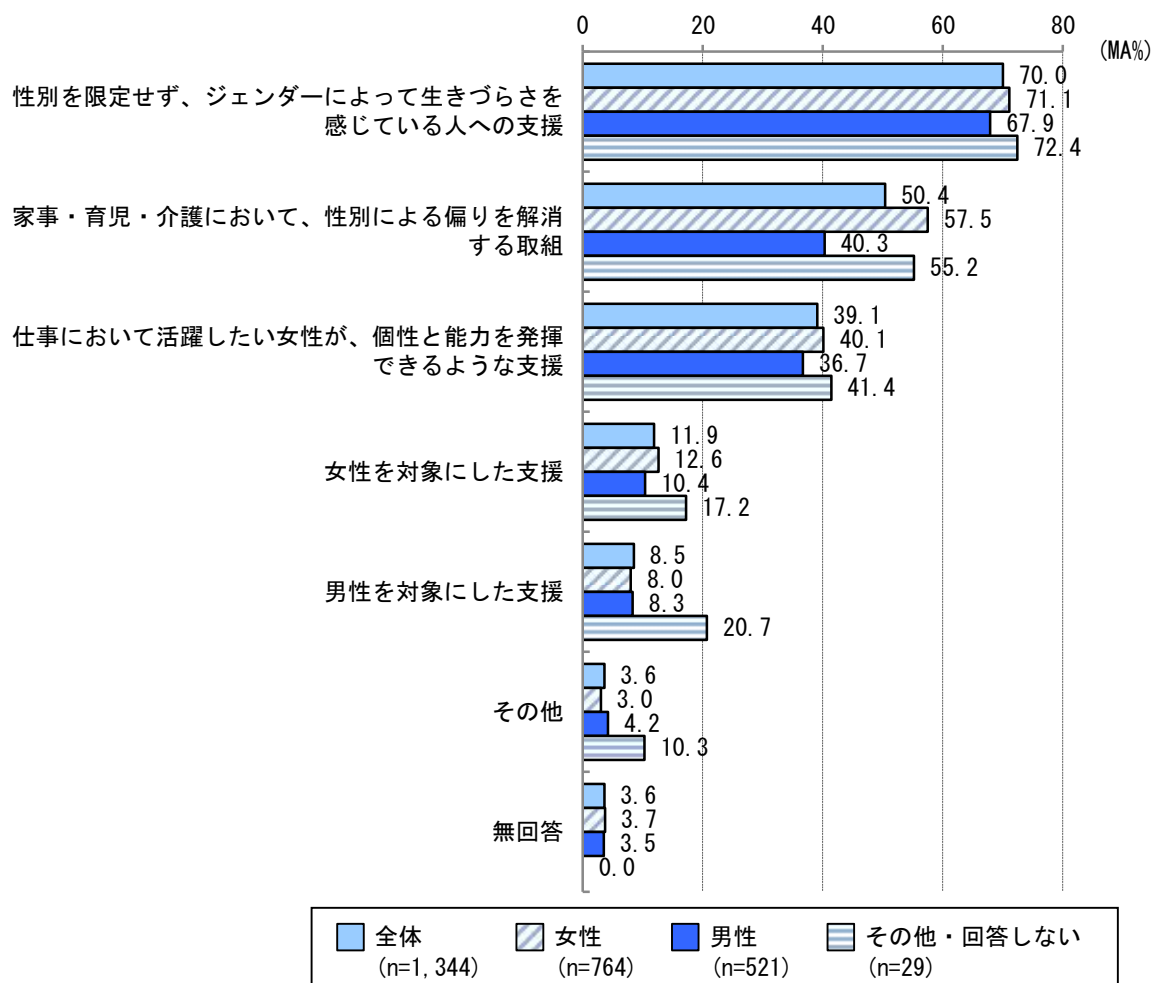
- ・年代別でみると、「女性センタートレピエがどのような施設か知らない」は10～20代が84.0%で最も高く、70代以上が55.7%で最も低くなっています。



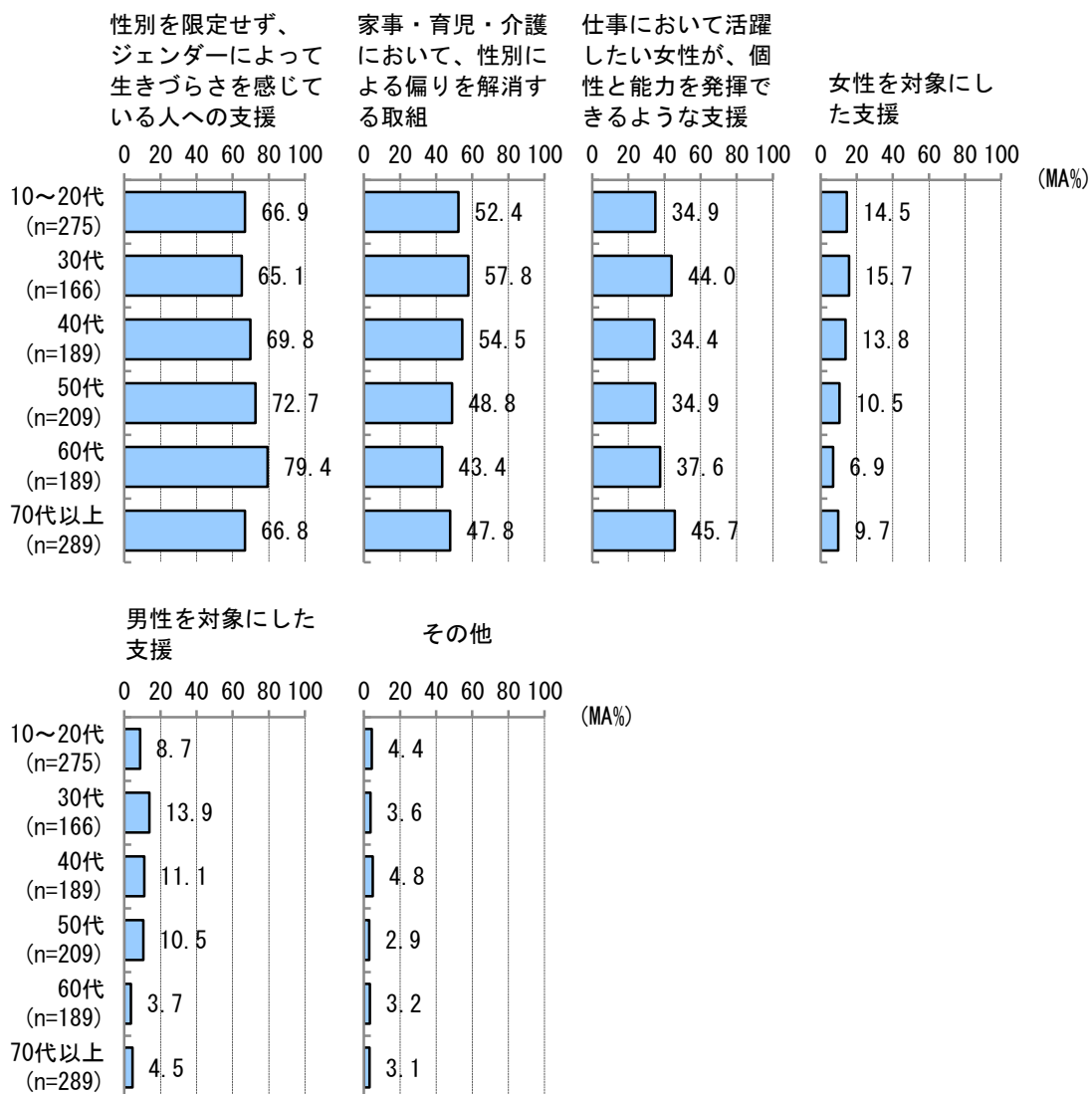
(2) 男女共同参画に向けて必要な取組

問15 男女共同参画（ジェンダー平等ともいいます）に向けて、どのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- ・男女共同参画に必要な取組については、「性別を限定せず、ジェンダーによって生きづらさを感じている人への支援」が70.0%で最も多く、次いで「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」が50.4%、「仕事において活躍したい女性が、個性と能力を発揮できるような支援」が39.1%となっています。
- ・性別でみると、「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」の割合は男性（40.3%）より女性（57.5%）のほうが17.2ポイント高くなっています。



- ・年代別でみると、「性別を限定せず、ジェンダーによって生きづらさを感じている人への支援」は60代が79.4%で最も高く、「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」、「女性を対象にした支援」、「男性を対象にした支援」は30代が最も高くなっています。



10. 配偶者やパートナー、恋人からの暴力について

(1) 配偶者やパートナー、恋人からの暴力行為に対する考えや経験

問16-1 次の①～⑩にあげる配偶者・パートナー、恋人などからの行為に関して、

(A) あなたの考えを教えてください

(B) あなたはそのような行為をした、もしくはされた経験はありますか

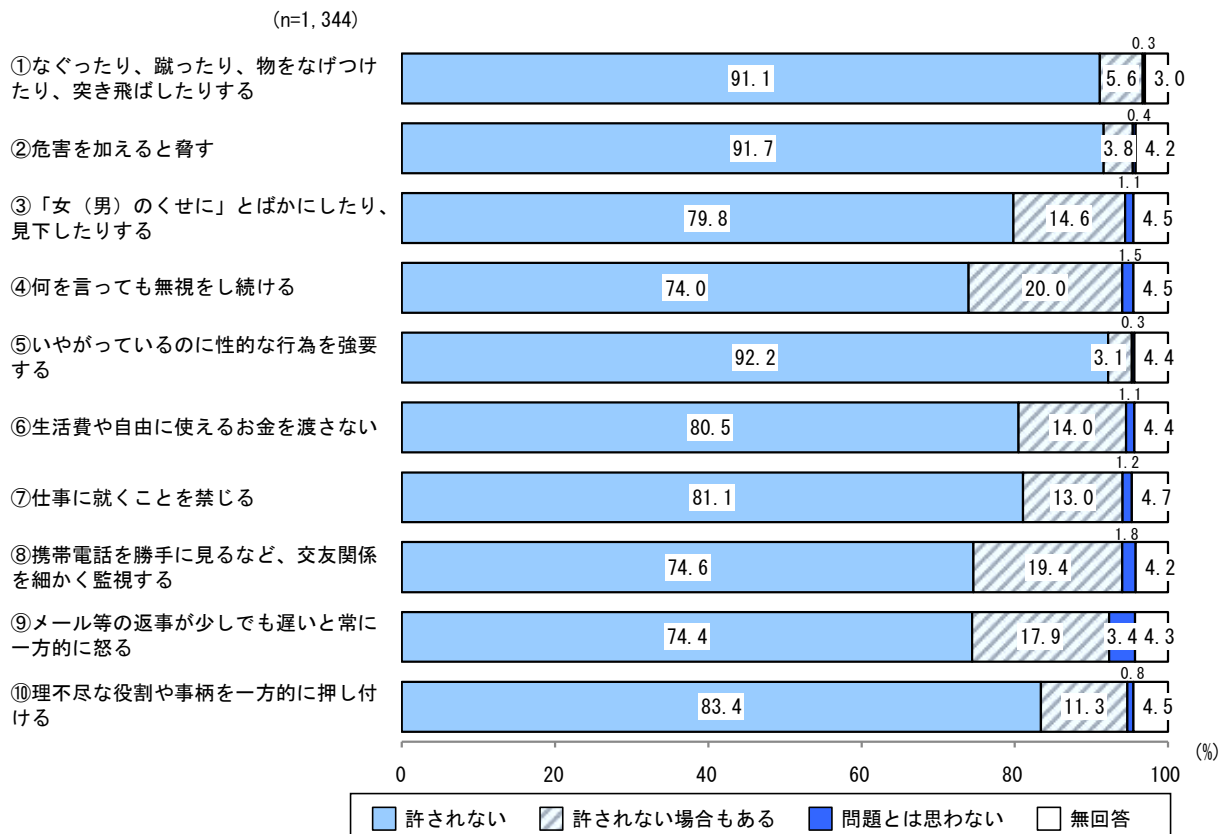
(C) そのような行為を子ども時代に目撃した経験はありますか

(A・Cはそれぞれ、あてはまるもの1つに○、Bはあてはまるものすべてに○)。

(A) 考え

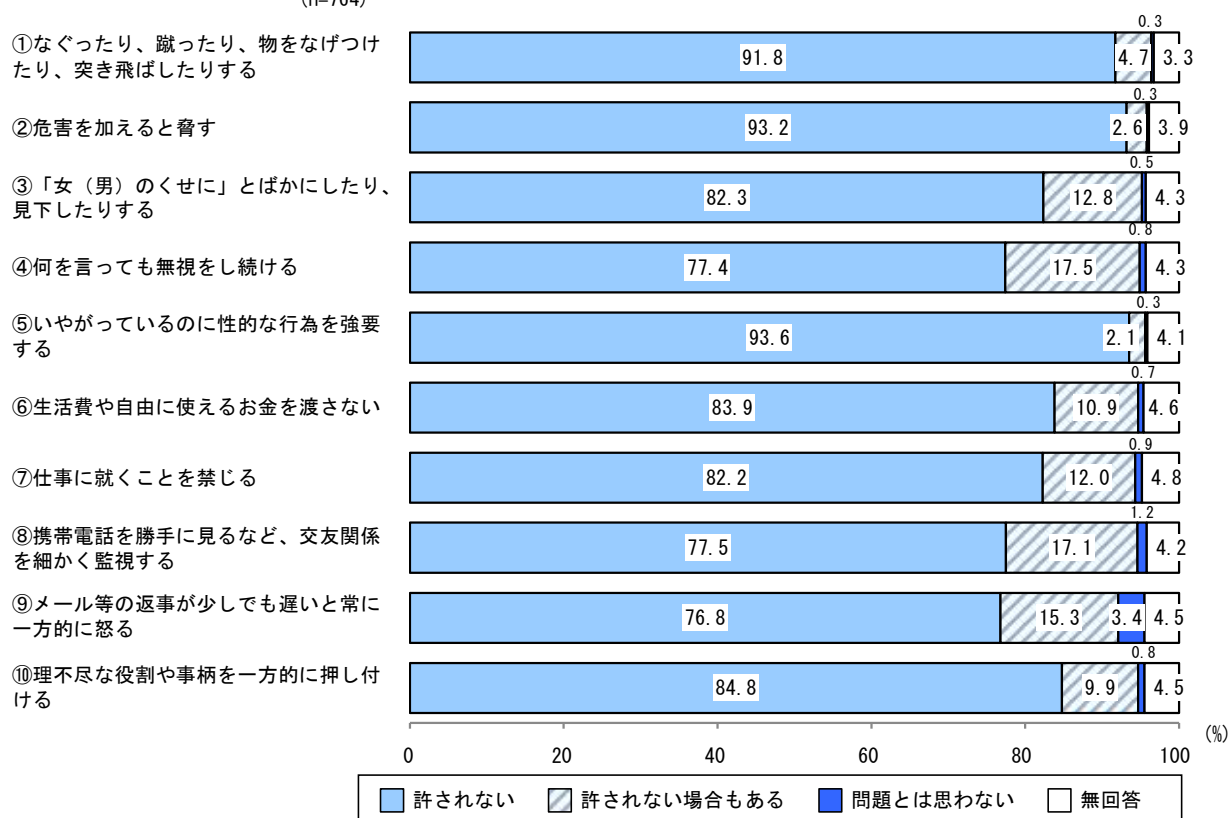
- ・配偶者やパートナー、恋人からの暴力に対する考えについては、「許されない」の割合が“⑤いやがっているのに性的な行為を強要する”が92.2%で最も高く、次いで“②危害を加えると脅す”が91.7%、“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が91.1%となっています。「許されない場合もある」の割合は“④何を言っても無視をし続ける”が20.0%で最も高くなっています。
- ・性別でみると、女性では「許されない」の割合が“⑤いやがっているのに性的な行為を強要する”が93.6%で最も高く、次いで“②危害を加えると脅す”が93.2%となっています。男性では「許されない」の割合が“⑤いやがっているのに性的な行為を強要する”が92.5%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が92.3%となっています。
- ・「許されない場合もある」の割合は、いずれの項目も男性のほうが高くなっています。

〔全体〕



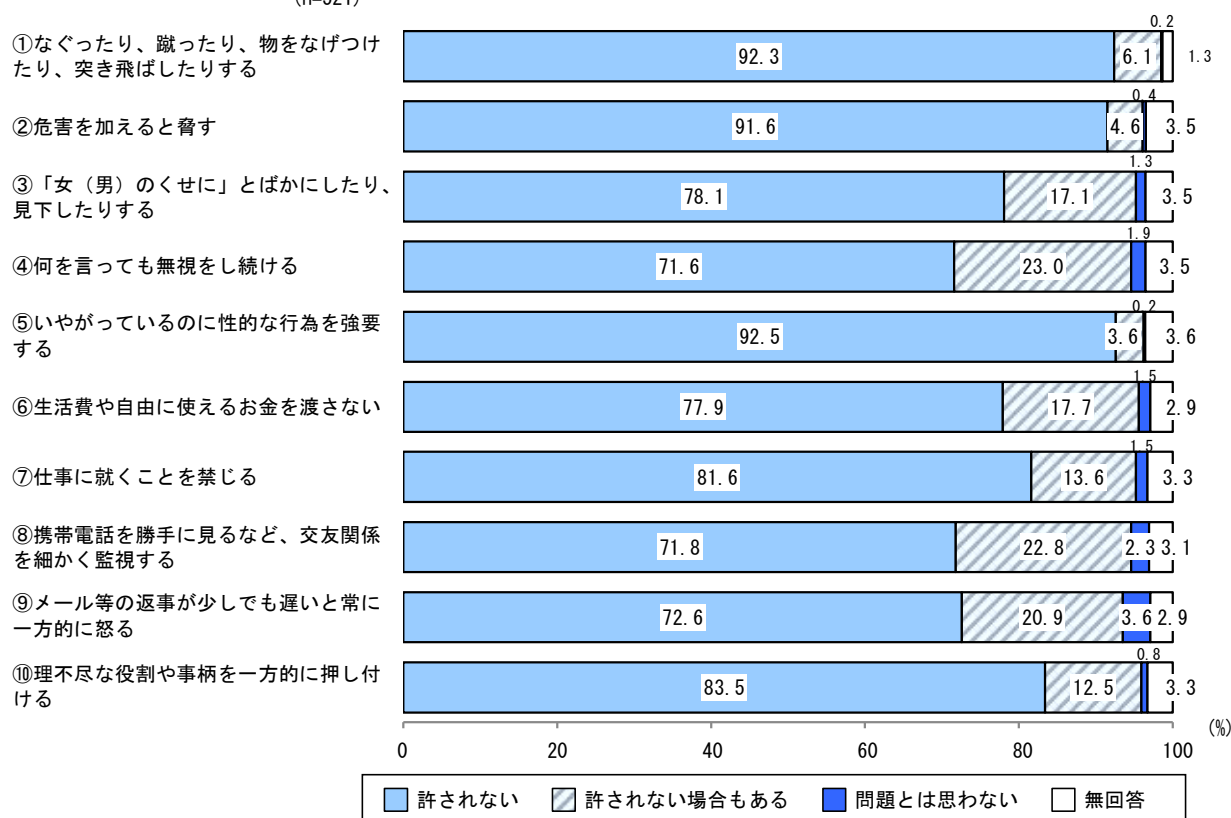
〔女性〕

(n=764)



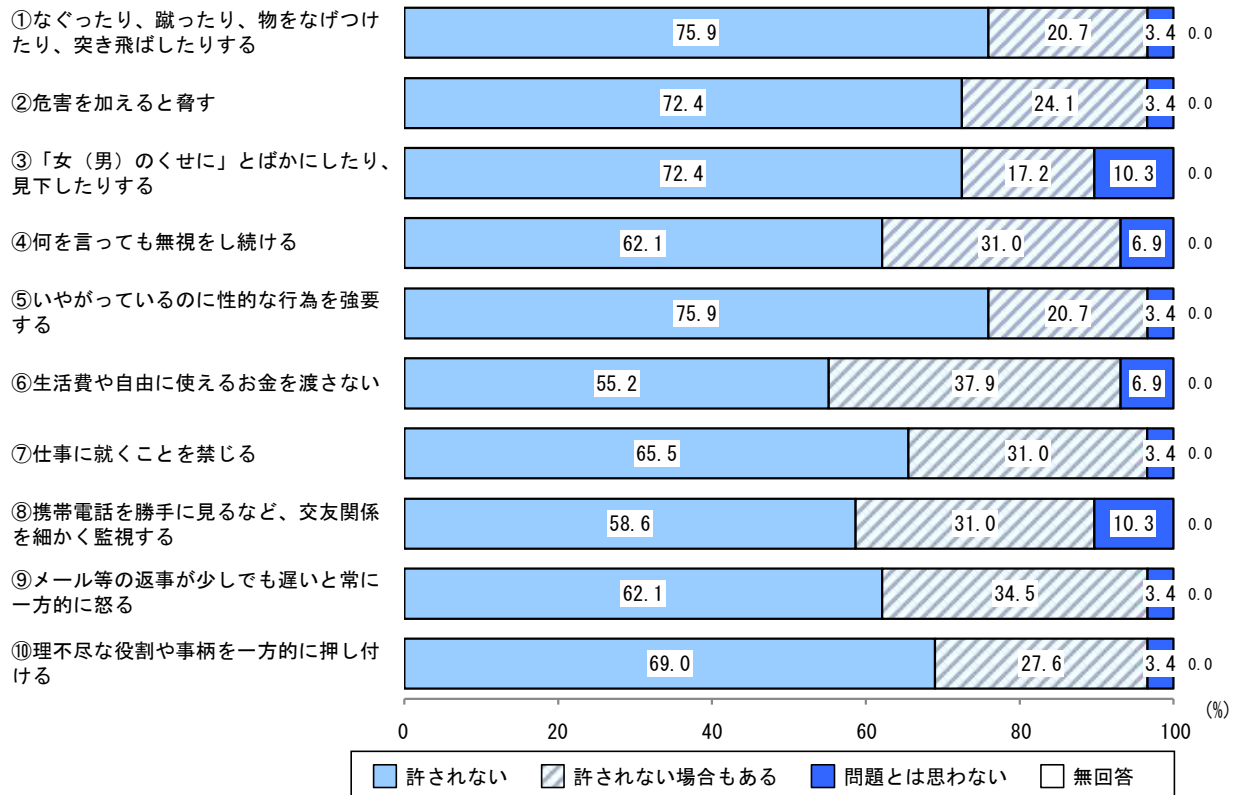
〔男性〕

(n=521)



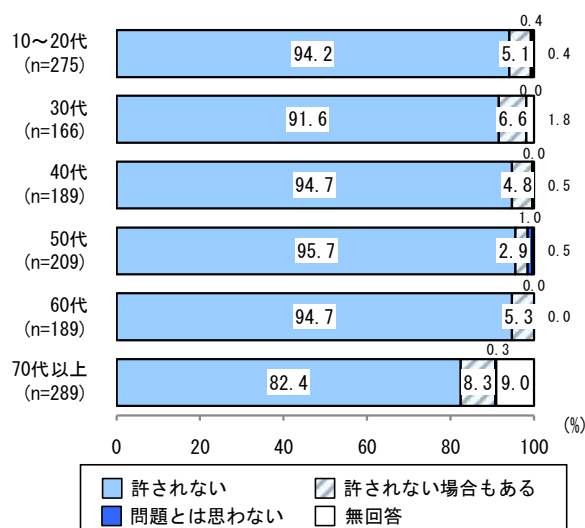
〔その他・回答しない〕

(n=29)

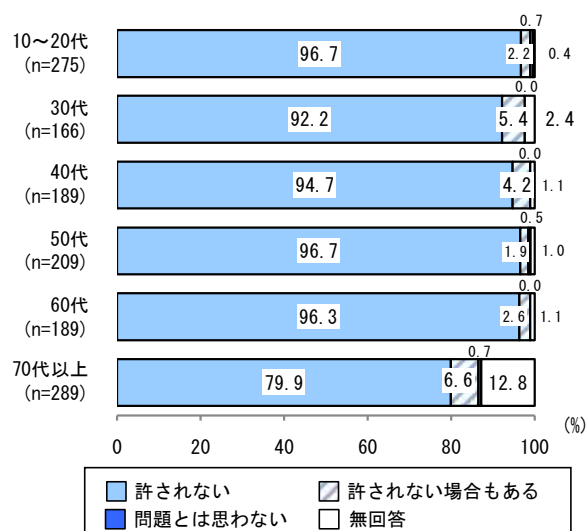


・年代別でみると、「許されない」の割合は“⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する”では10～20代（66.9%）が最も低いですが、それ以外のいずれの項目も70代以上が最も低くなっています。

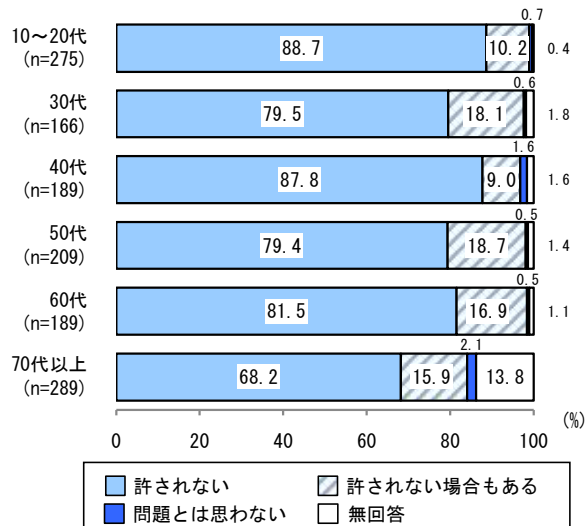
①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする



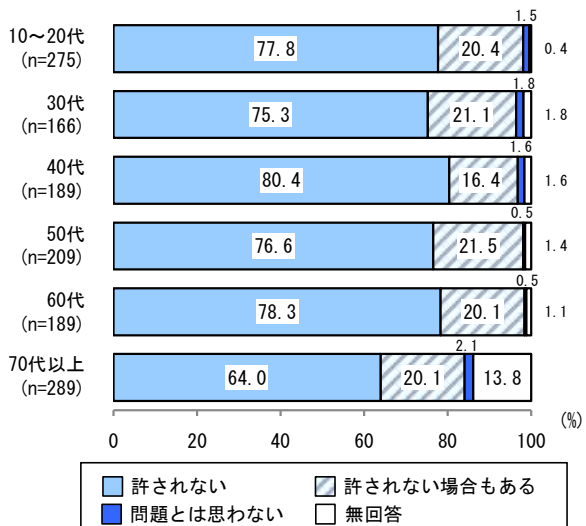
②危害を加えると脅す



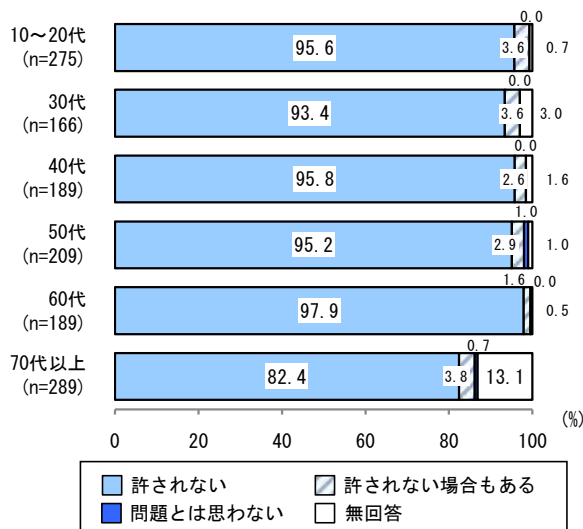
③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする



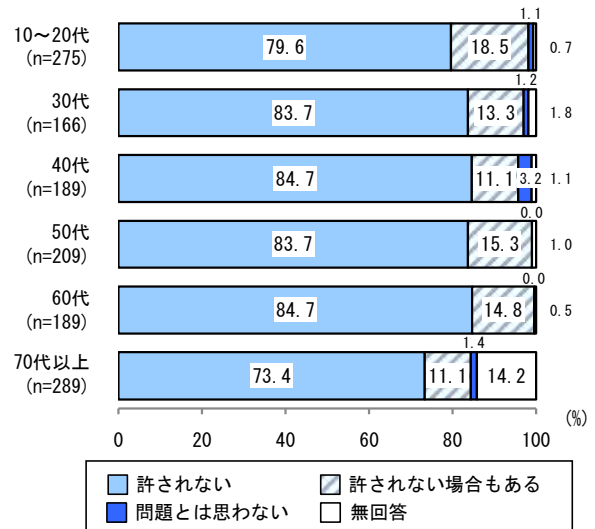
④何を言っても無視をし続ける



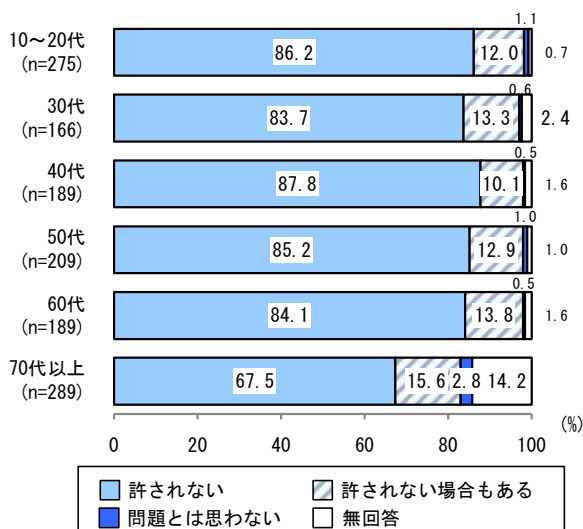
⑤いやがっているのに性的な行為を強要する



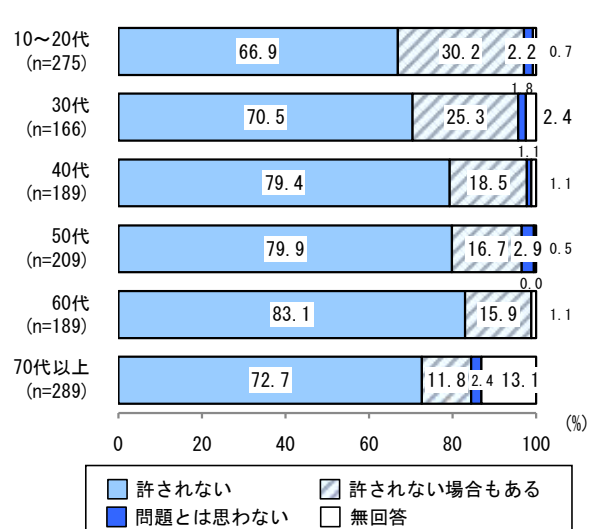
⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない



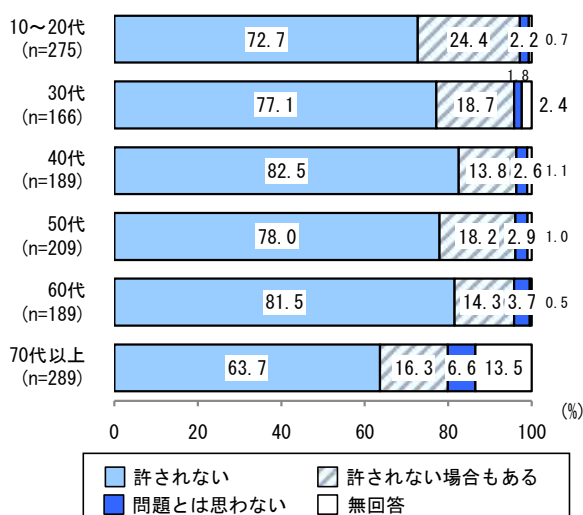
⑦仕事に就くことを禁じる



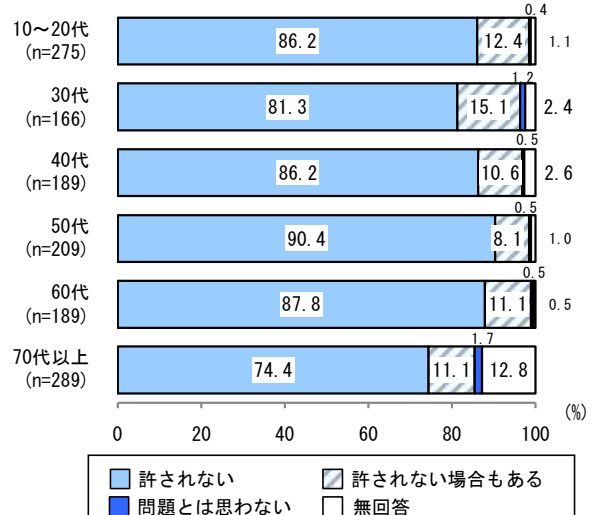
⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する



⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る



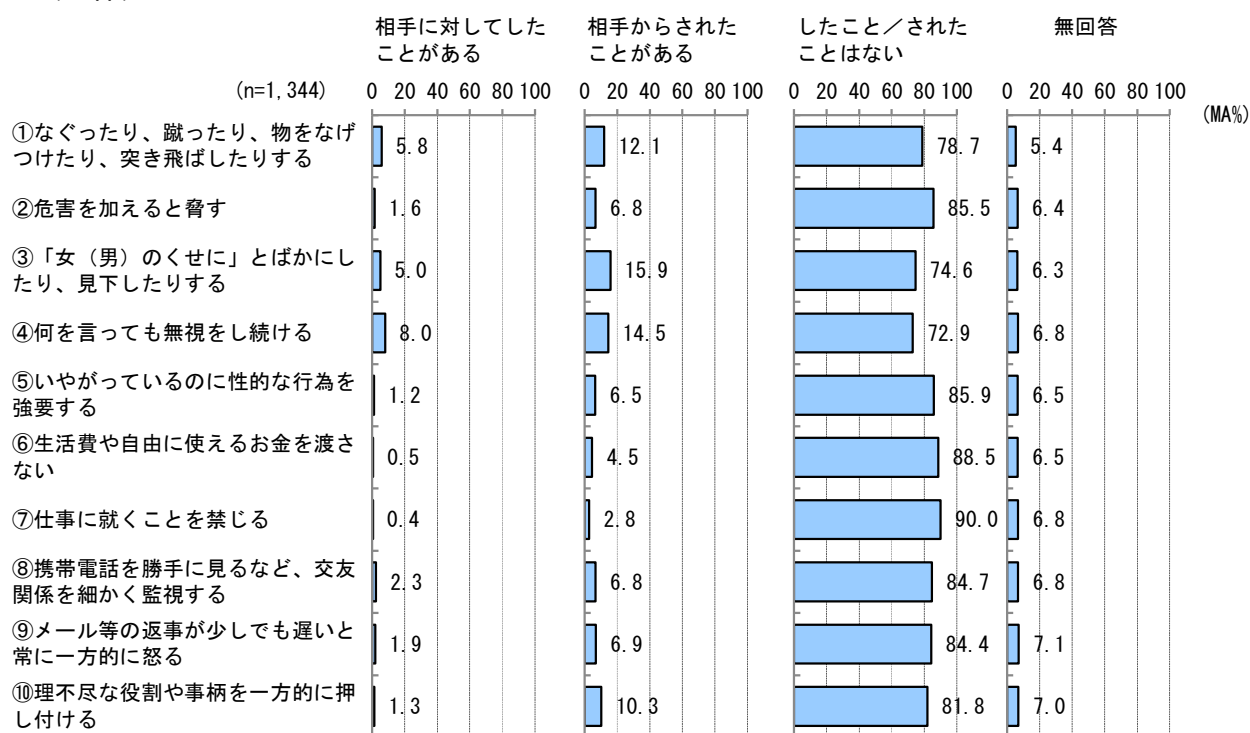
⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける



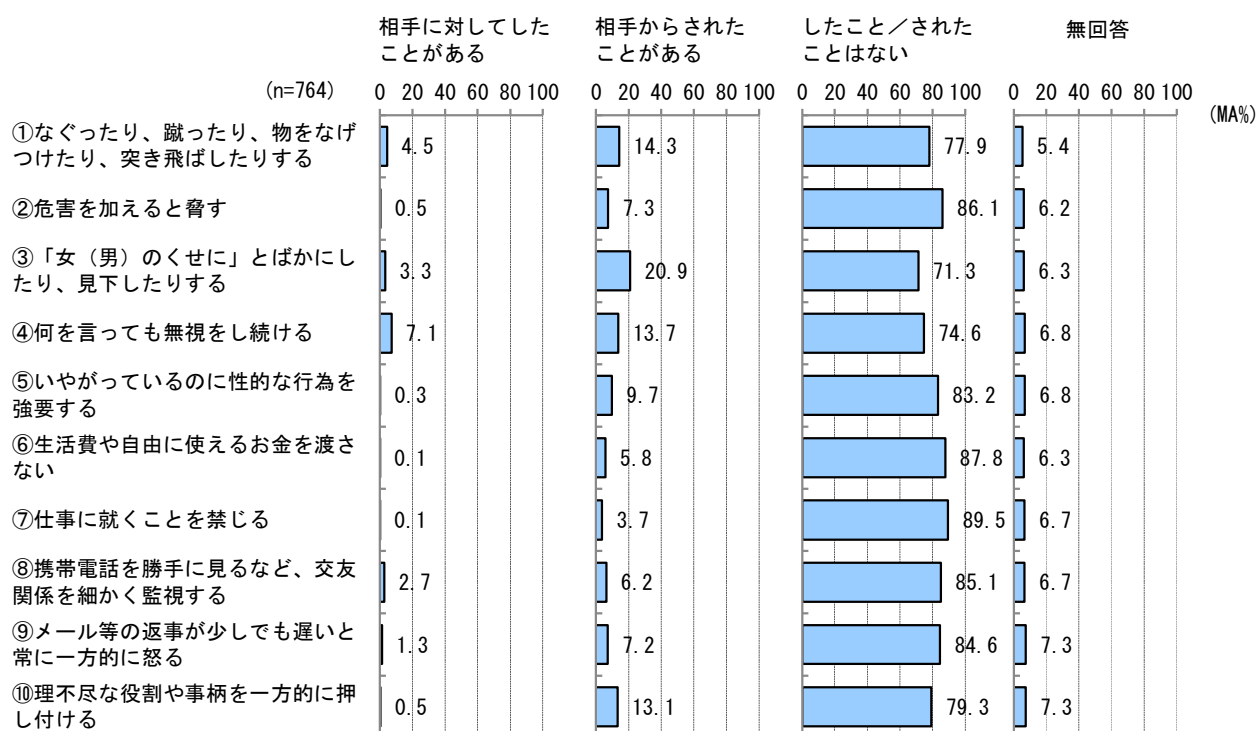
(B) 経験

- ・配偶者やパートナー、恋人からの暴力に関する経験については、「相手に対してしたことがある」の割合は“④何を言っても無視をし続ける”が8.0%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が5.8%となっています。
「相手からされたことがある」の割合は“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が15.9%で最も高く、次いで“④何を言っても無視をし続ける”が14.5%、
“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が12.1%となっています。
- ・性別でみると、女性では、「相手に対してしたことがある」の割合は“④何を言っても無視をし続ける”が7.1%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が4.5%となっています。「相手からされたことがある」の割合は“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が20.9%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が14.3%となっています。
- ・男性では、「相手に対してしたことがある」の割合は“④何を言っても無視をし続ける”が9.6%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする”が8.1%となっています。「相手からされたことがある」の割合は“④何を言っても無視をし続ける”が15.0%で最も高く、次いで“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が8.8%となっています。
- ・「相手に対してしたことがある」の割合は“⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する”を除いたすべての項目で男性のほうが高くなっています。

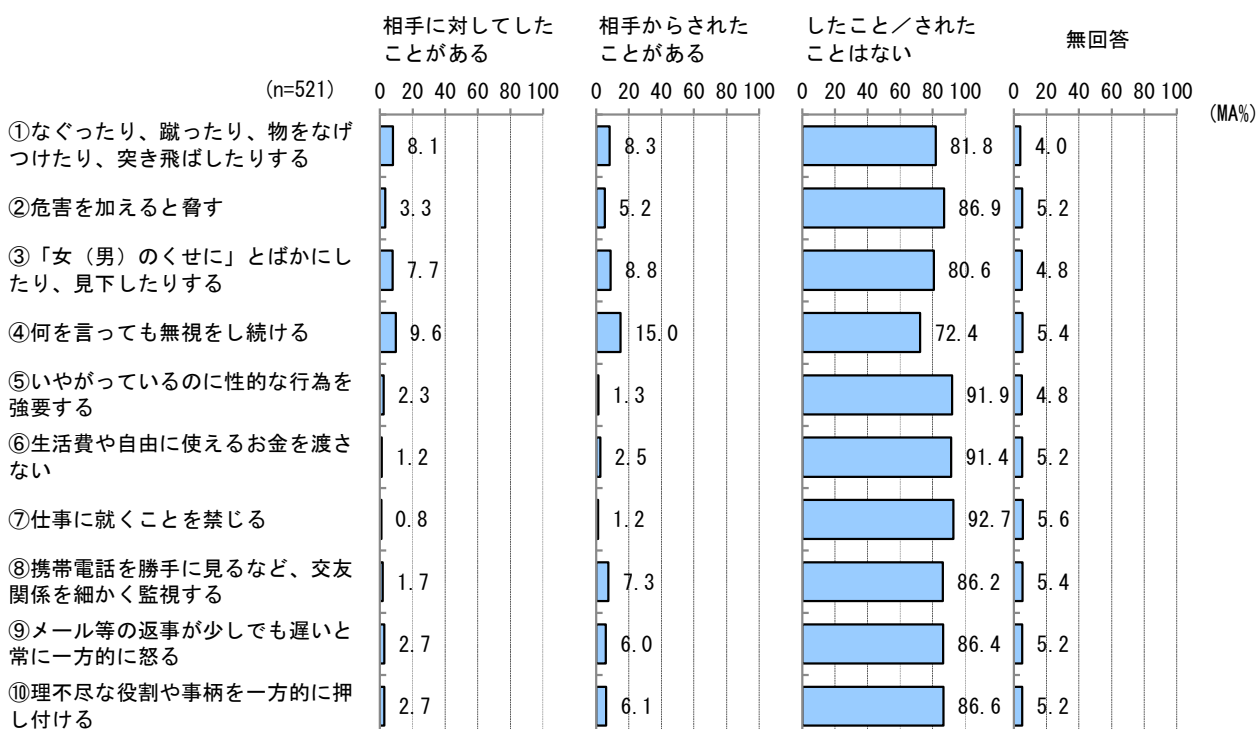
〔全体〕



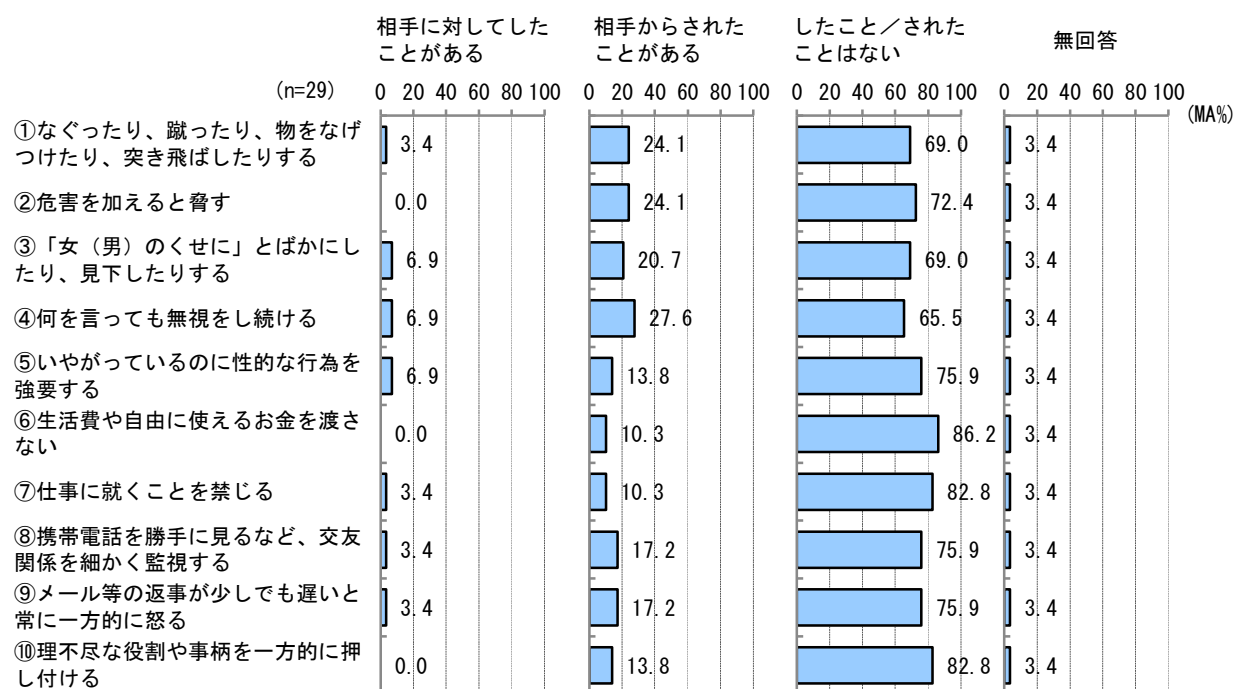
〔女性〕



〔男性〕



〔その他・回答しない〕



・年代別でみると、「相手からされたことがある」の割合は“⑤いやがっているのに性的な行為を強要する”と“⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する”、“⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る”では30代が最も高いですが、それ以外の項目は、いずれも50代で最も高くなっています。

①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする

(MA%)					
	n	が相手に対してしたこと	ある相手からされたことが	はしたこと／されたこと	無回答
10～20代	275	5.5	8.0	88.7	0.7
30代	166	3.6	12.7	83.7	2.4
40代	189	8.5	13.8	79.9	0.5
50代	209	4.8	15.8	78.5	2.4
60代	189	7.4	13.2	80.4	1.1
70代以上	289	5.5	11.4	66.8	17.0

②危害を加えると脅す

(MA%)					
	n	が相手に対してしたこと	ある相手からされたことが	はしたこと／されたこと	無回答
10～20代	275	1.8	5.5	92.4	0.7
30代	166	-	8.4	88.6	3.0
40代	189	2.1	6.3	91.0	1.1
50代	209	1.9	11.5	84.2	2.9
60代	189	1.6	4.2	92.1	2.1
70代以上	289	1.7	5.9	73.0	19.7

③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする

(MA%)					
	n	が相手に対してしたこと	ある相手からされたことが	はしたこと／されたこと	無回答
10～20代	275	3.3	9.1	88.7	0.7
30代	166	3.6	15.7	80.1	2.4
40代	189	5.8	20.1	75.1	1.6
50代	209	6.2	27.8	66.0	3.3
60代	189	8.5	13.8	77.2	2.1
70代以上	289	4.2	13.5	63.7	19.0

④何を言っても無視をし続ける

(MA%)					
	n	が相手に対してしたこと	ある相手からされたことが	はしたこと／されたこと	無回答
10～20代	275	4.7	7.3	88.7	0.7
30代	166	9.0	18.1	75.3	2.4
40代	189	9.5	17.5	75.7	1.6
50代	209	11.5	21.5	68.9	2.4
60代	189	11.1	16.4	70.9	1.6
70代以上	289	5.2	11.1	61.6	22.5

⑤いやがっているのに性的な行為を強要する

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	1.5	3.3	94.5	1.1
30代	166	0.6	11.4	84.9	3.0
40代	189	0.5	6.3	91.5	1.6
50代	209	1.9	10.0	86.1	2.4
60代	189	1.6	3.7	93.7	1.1
70代以上	289	1.0	5.9	72.0	21.1

⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	0.7	1.8	97.1	0.7
30代	166	—	5.4	91.6	3.0
40代	189	0.5	4.2	93.7	1.6
50代	209	0.5	7.2	90.0	2.4
60代	189	1.1	5.8	92.1	1.1
70代以上	289	0.3	4.2	74.7	20.8

⑦仕事に就くことを禁じる

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	0.7	1.1	97.8	0.7
30代	166	0.6	3.0	93.4	3.0
40代	189	—	2.1	96.3	1.6
50代	209	0.5	4.3	92.8	2.4
60代	189	0.5	3.7	93.7	2.1
70代以上	289	0.3	3.1	74.7	21.8

⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	4.0	9.5	86.5	0.7
30代	166	1.8	10.8	84.9	3.0
40代	189	3.7	9.0	88.4	1.6
50代	209	2.4	8.6	86.1	2.9
60代	189	2.1	2.6	94.2	1.1
70代以上	289	0.3	2.1	75.8	21.8

⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	3.3	8.7	87.6	0.7
30代	166	1.2	9.6	86.1	3.6
40代	189	1.6	7.9	88.9	2.1
50代	209	1.4	9.1	87.1	2.9
60代	189	2.1	3.2	92.6	2.1
70代以上	289	1.4	3.8	73.0	21.8

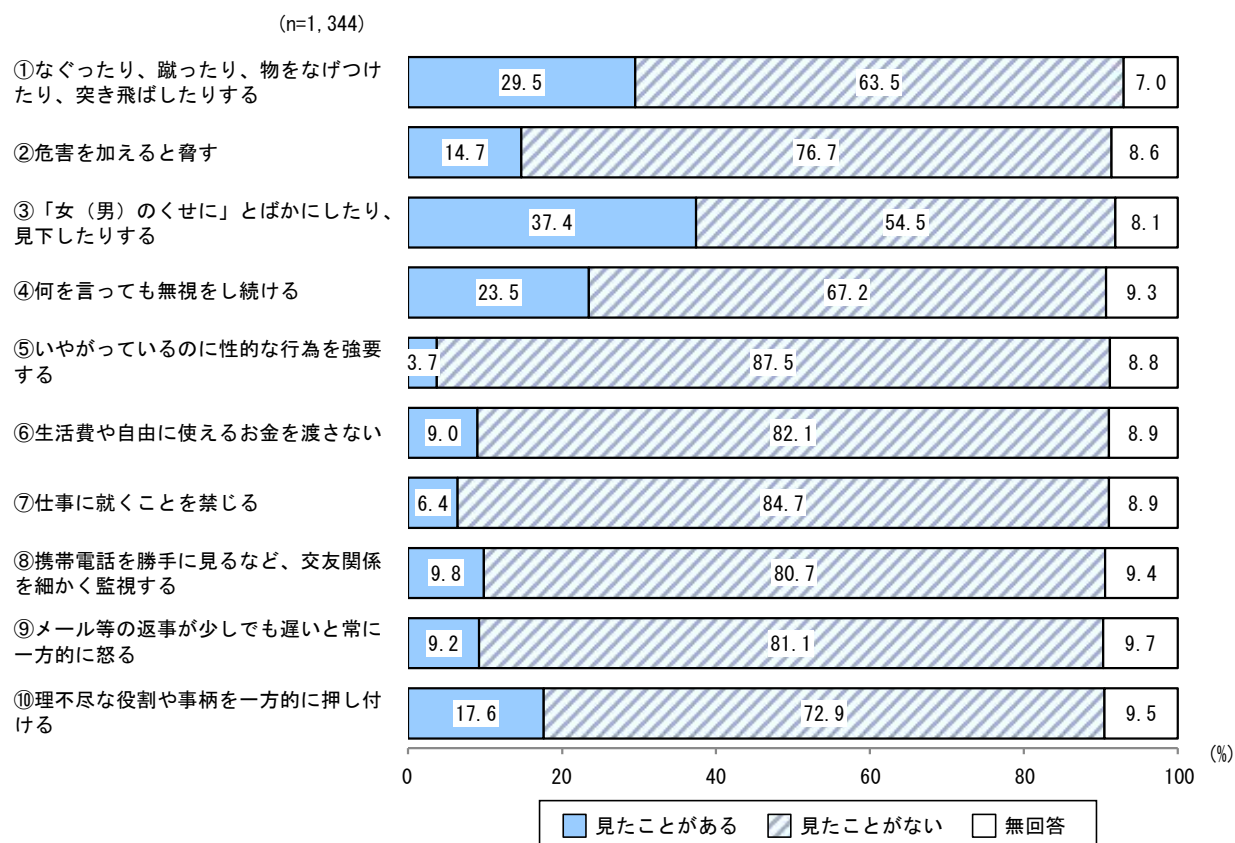
⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける

	n	が相手に 対してした こと	ある 相手から された ことが	はした こと／ された こと	(MA%) 無 回 答
10～20代	275	0.7	5.5	93.1	1.1
30代	166	1.2	9.6	85.5	3.6
40代	189	1.6	12.7	84.7	1.6
50代	209	2.9	16.7	78.9	2.9
60代	189	1.6	12.7	83.6	2.1
70代以上	289	0.7	7.6	69.9	21.8

(C) 子ども時代の目撃経験

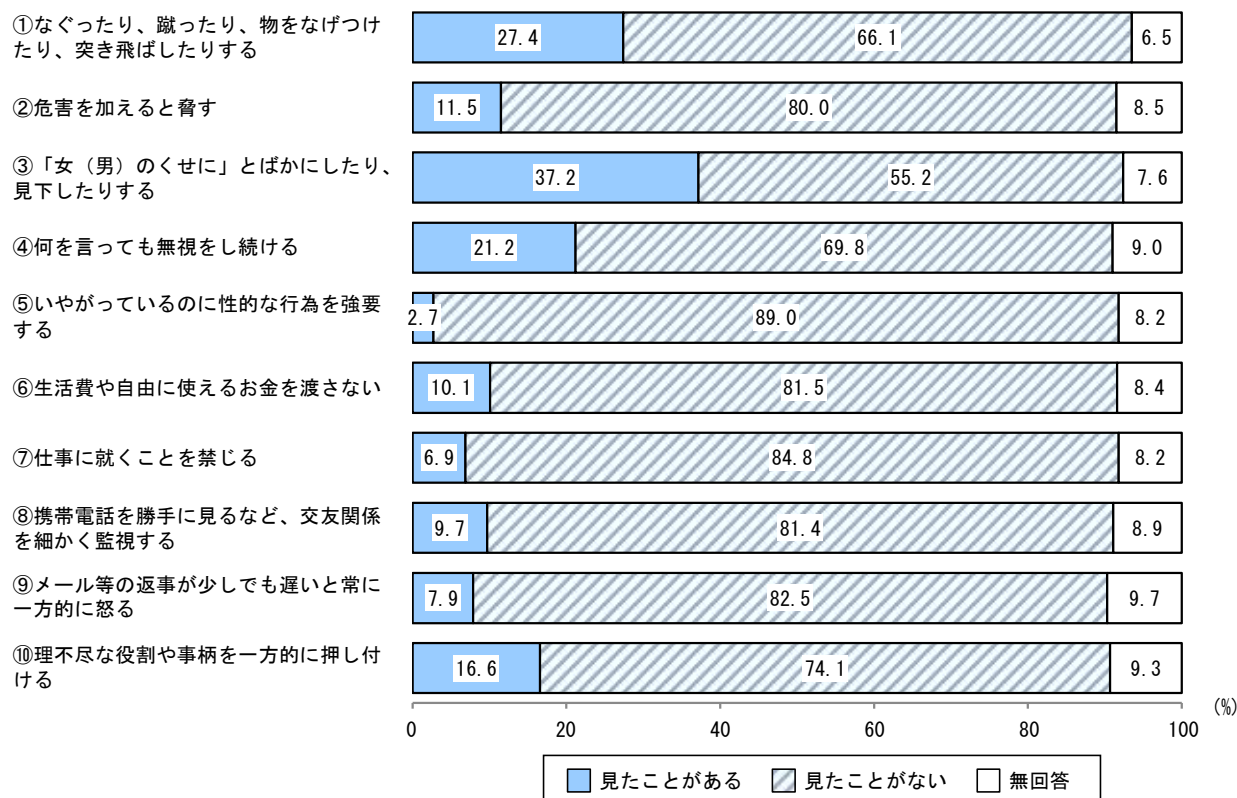
- ・子ども時代の目撃経験については、「見たことがある」の割合は、“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が37.4%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする”が29.5%、“④何を言っても無視をし続ける”が23.5%となっています。
- ・性別でみると、女性では「見たことがある」の割合は、“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が37.2%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする”が27.4%となっています。男性でも“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”が39.3%で最も高く、次いで“①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする”が33.4%となっています。
- ・「見たことがある」の割合は、“②危害を加えると脅す”は男性（19.2%）のほうが7.7ポイント、“①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする”は男性（33.4%）のほうが6.0ポイント、それぞれ高くなっています。

〔全体〕



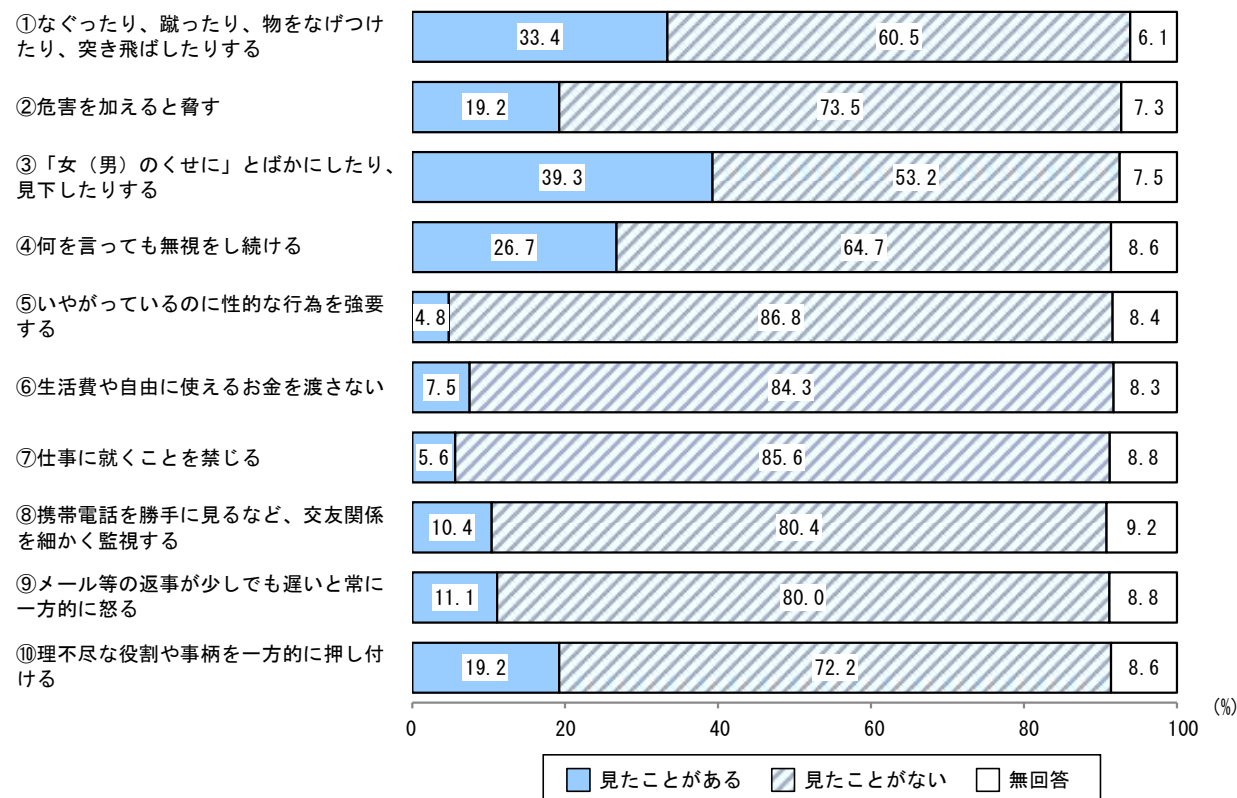
〔女性〕

(n=764)



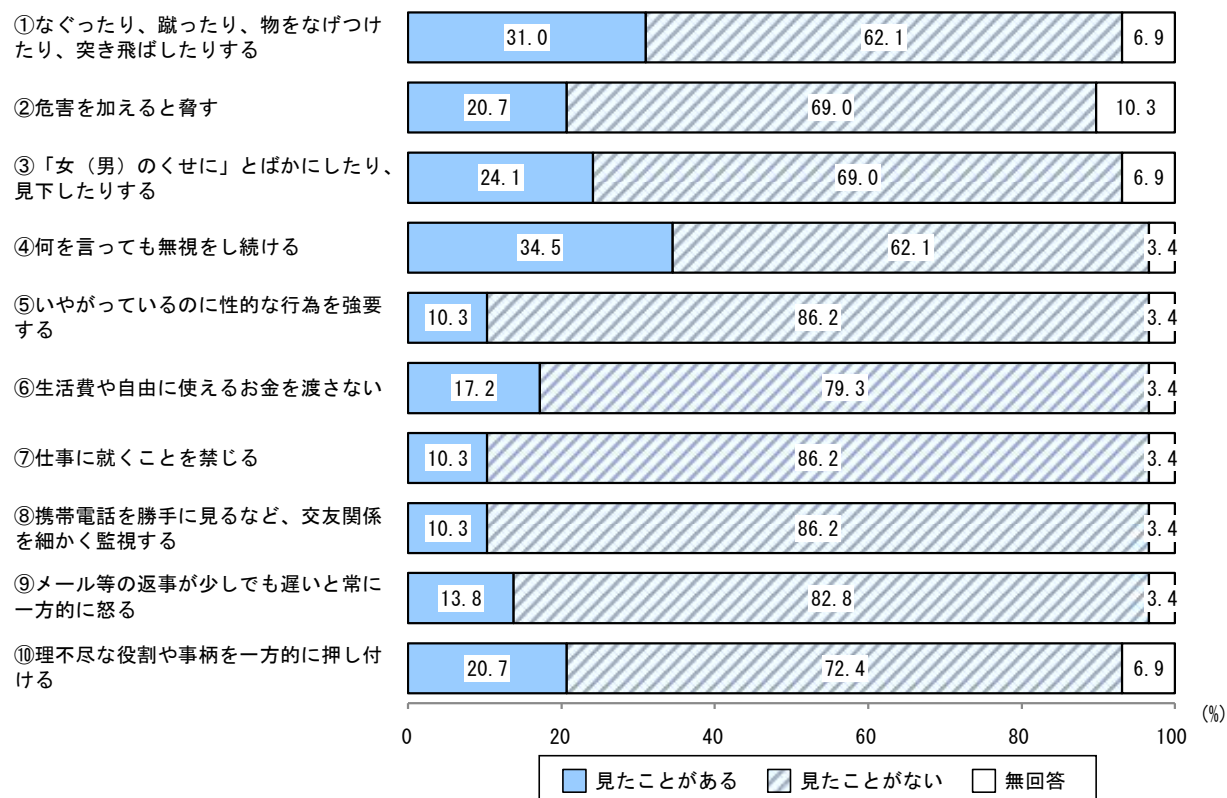
〔男性〕

(n=521)



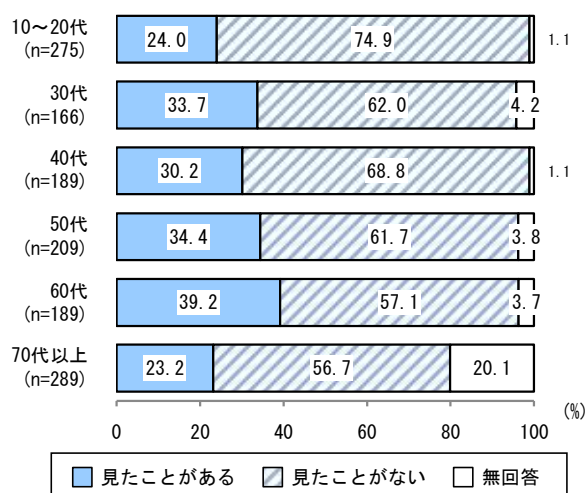
〔その他・回答しない〕

(n=29)

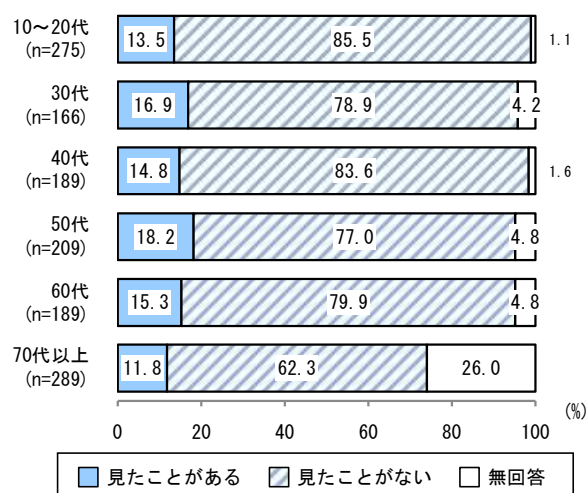


・年代別でみると、「見たことがある」の割合は、“①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする”、“③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする”、“⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない”では60代で最も高く、“②危害を加えると脅す”、“④何を言っても無視をし続ける”、“⑦仕事に就くことを禁じる”では50代が、“⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する”、“⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る”、“⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける”では30代が最も高くなっています。

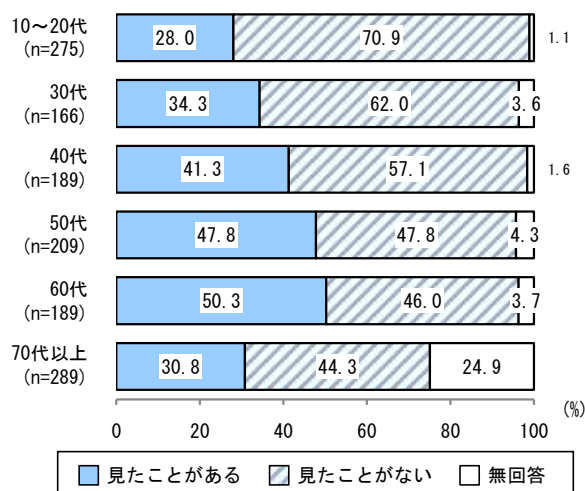
①なぐったり、蹴ったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりする



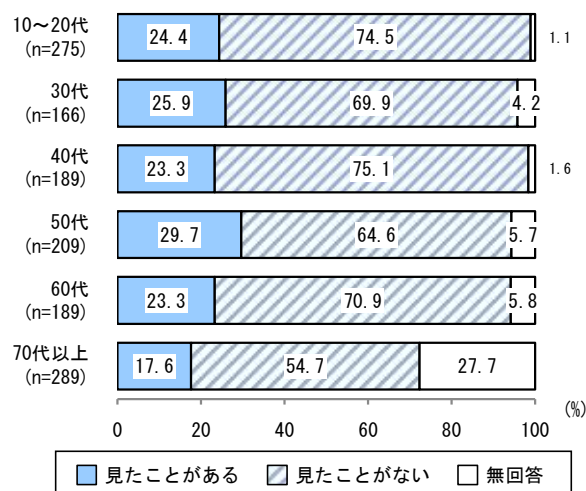
②危害を加えると脅す



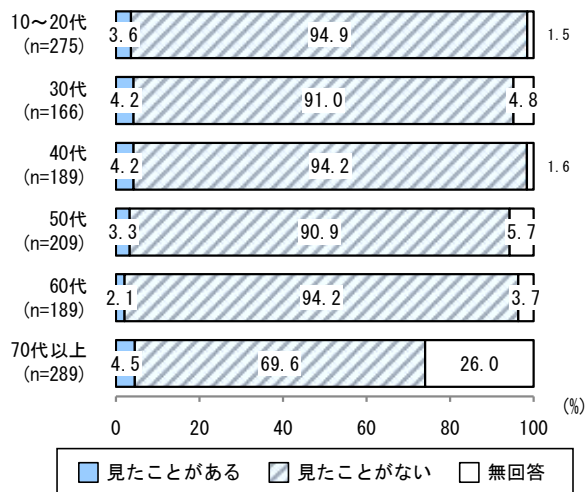
③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする



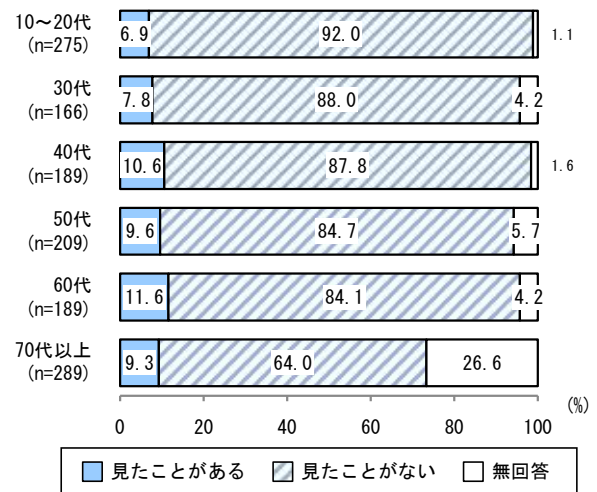
④何を言っても無視をし続ける



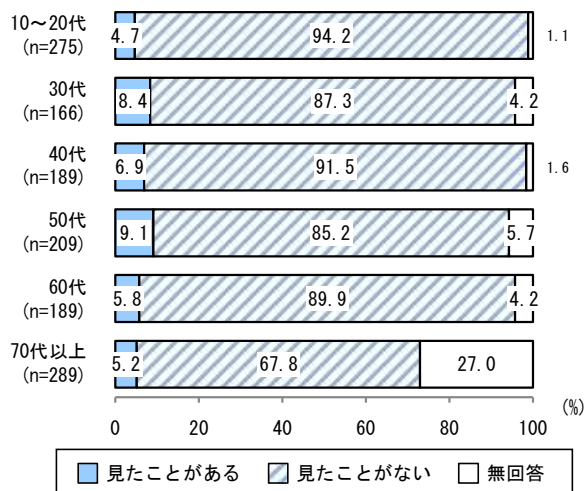
⑤いやがっているのに性的な行為を強要する



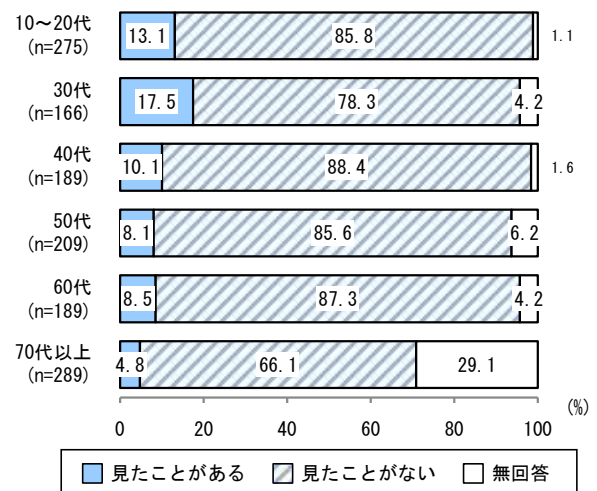
⑥生活費や自由に使えるお金を渡さない



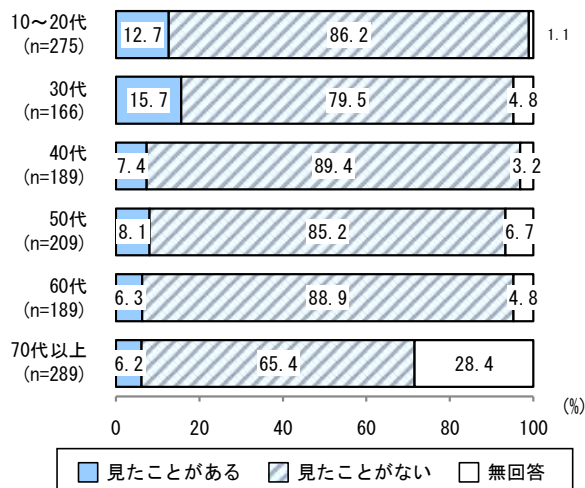
⑦仕事に就くことを禁じる



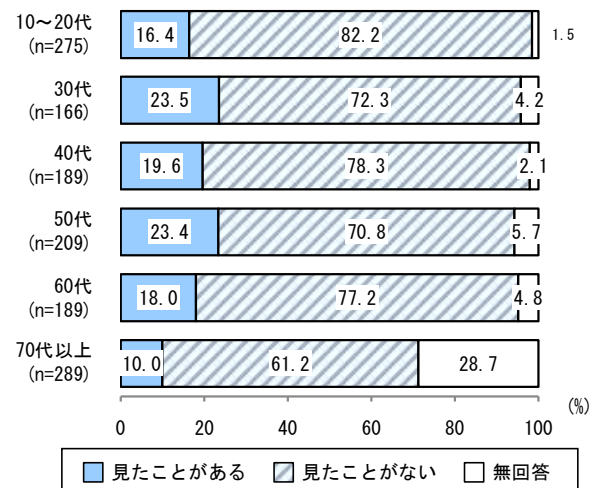
⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する



⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る



⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける

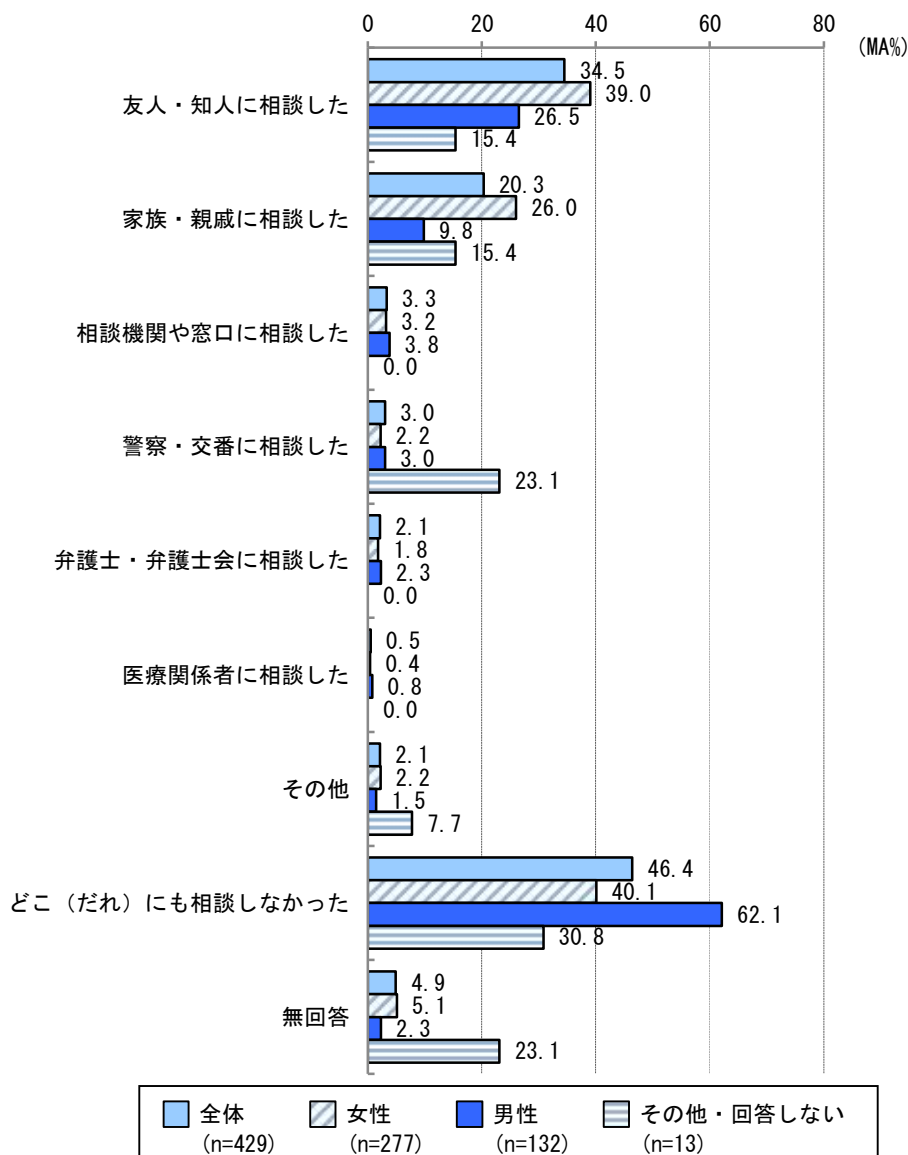


(2) 配偶者やパートナー、恋人から受けた行為についての相談状況

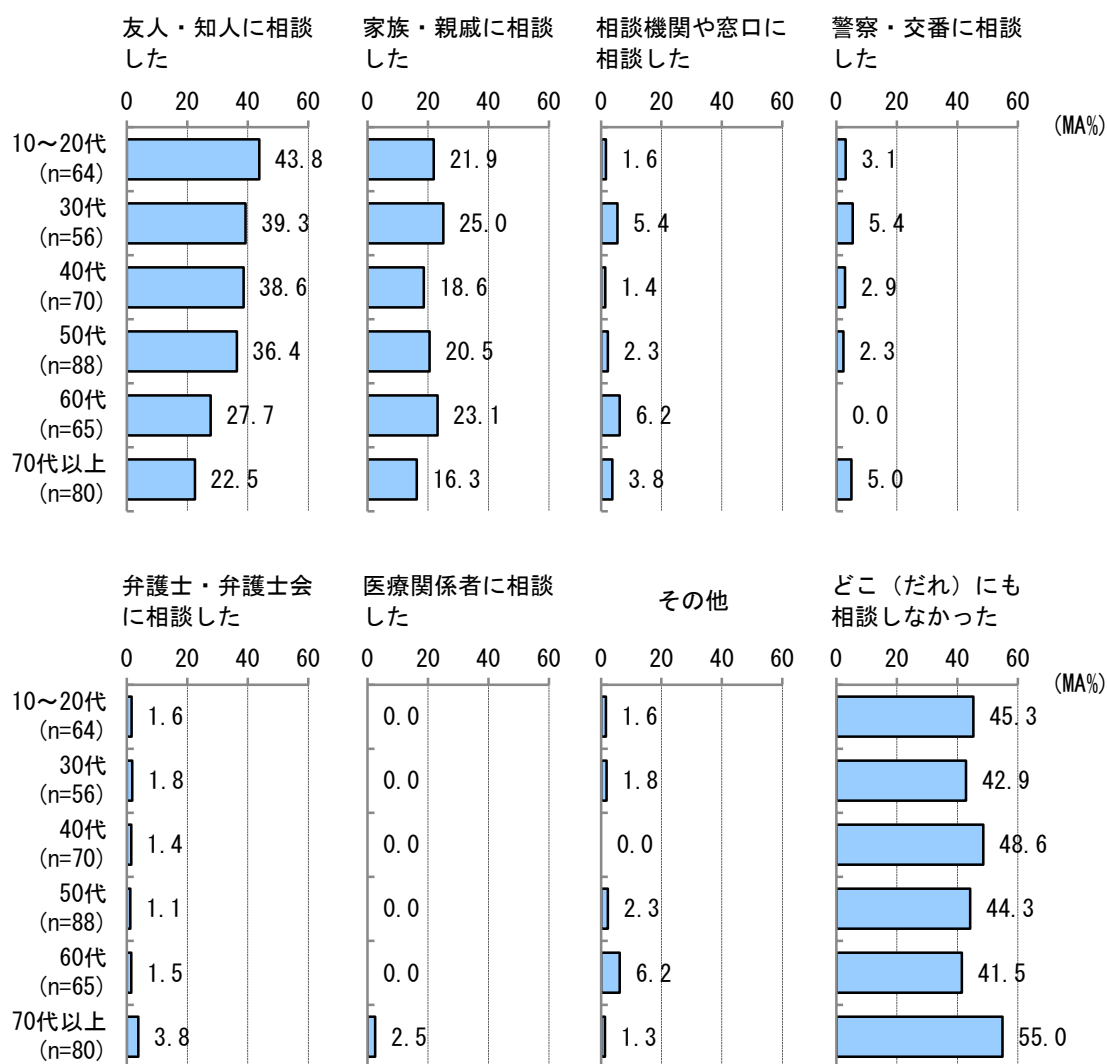
問16-1 (B) で、ひとつでも「2. 相手からされたことがある」に○をつけた方にうかがいます。

問16-2 配偶者やパートナー、恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- ・配偶者やパートナー、恋人からの暴力を相手からされたことがあると回答した人に、受けた行為について相談したかについては、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が46.4%で最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が34.5%、「家族・親戚に相談した」が20.3%となっており、家族や友人以外の相談機関への相談は1割未満となっています。
- ・性別でみると、「家族・親戚に相談した」の割合は男性（9.8%）より女性（26.0%）のほうが16.2ポイント、「友人・知人に相談した」の割合は男性（26.5%）より女性（39.0%）のほうが12.5ポイント、それぞれ高くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は女性（40.1%）より男性（62.1%）のほうが22.0ポイント高くなっています。

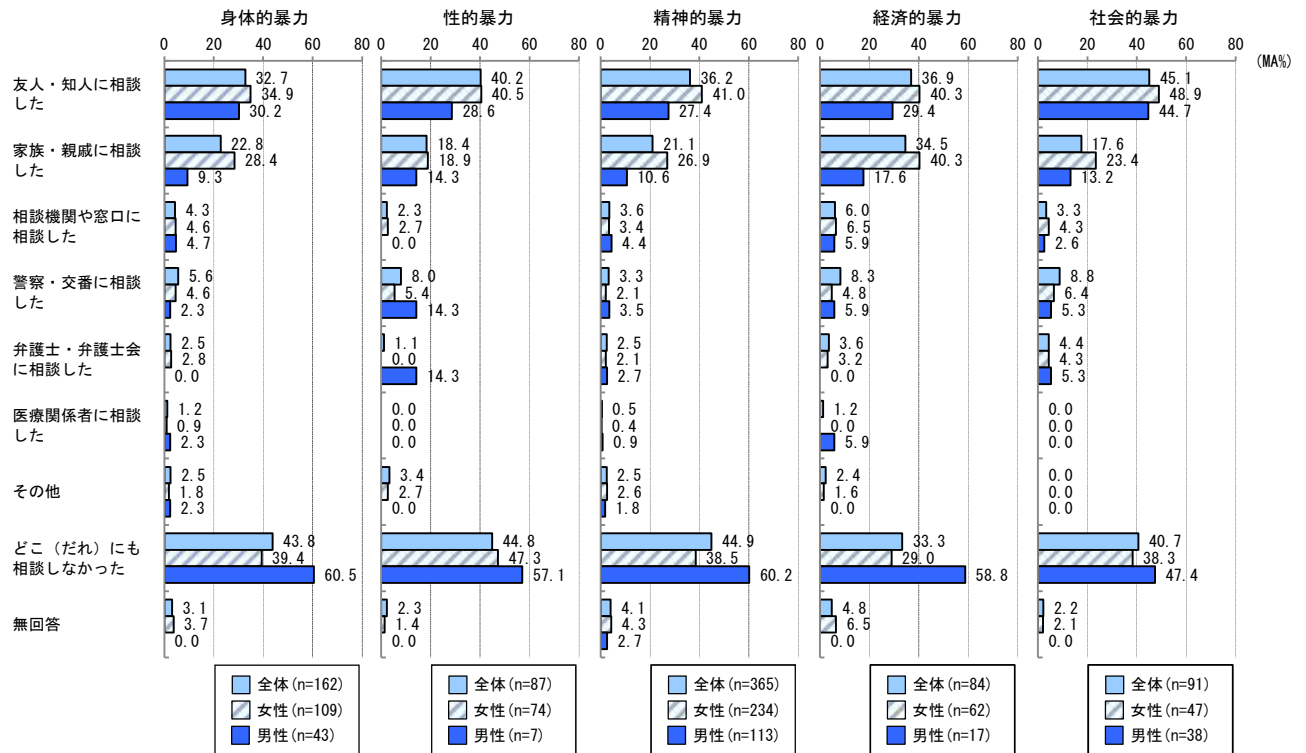


・年代別でみると、「友人・知人に相談した」の割合は10～20代が43.8%で最も高く、高齢になるほど割合が低くなっています。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は70代以上が55.0%で最も高くなっています。



・暴力の種類別にみると、「相談機関や窓口相談した」の割合は“経済的暴力”、「警察・交番に相談した」の割合は“性的暴力”や“経済的暴力”、“社会的暴力”、「弁護士・弁護士会に相談した」の割合は“経済的暴力”や“社会的暴力”で、それぞれその他の暴力種別に比べてやや高くなっています。

・「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合は、女性は“性的暴力”、男性は“身体的暴力”と“精神的暴力”で高くなっています。



【前回調査との比較（年代別）】

・前回調査と比較すると、「友人・知人に相談した」の割合は30代以上の年代で前回調査より高くなっており、30代（39.3％）が前回調査（22.6％）より16.7ポイント高くなっています。

（単位：MA%）

		n	友人・知人に相談した	家族・親戚に相談した	相談機関や窓口 に相談した	警察・交番に相談した	弁護士・弁護士会に相談した	医療関係者に相談した	その他の人・機関に相談した	その他	しどこへだれにも相談しなかった	無回答
今回調査	10～20代	64	43.8	21.9	1.6	3.1	1.6	－		1.6	45.3	1.6
	30代	56	39.3	25.0	5.4	5.4	1.8	－		1.8	42.9	3.6
	40代	70	38.6	18.6	1.4	2.9	1.4	－		－	48.6	2.9
	50代	88	36.4	20.5	2.3	2.3	1.1	－		2.3	44.3	3.4
	60代	65	27.7	23.1	6.2	－	1.5	－		6.2	41.5	10.8
	70代以上	80	22.5	16.3	3.8	5.0	3.8	2.5		1.3	55.0	7.5
前回調査	10～20代	33	45.5	33.3	3.0	3.0	3.0	－	－	3.0	42.4	3.0
	30代	53	22.6	26.4	9.4	1.9	－	－	1.9	－	47.2	7.5
	40代	78	33.3	23.1	6.4	6.4	6.4	1.3	－	2.6	48.7	3.8
	50代	92	27.2	16.3	4.3	3.3	5.4	2.2	2.2	－	55.4	1.1
	60代	72	26.4	26.4	5.6	6.9	5.6	2.8	4.2	1.4	52.8	1.4
	70代以上	63	11.1	12.7	1.6	7.9	3.2	1.6	1.6	－	57.1	17.5

※前回調査の「その他の人・機関に相談した」は、今回調査では設けていません。

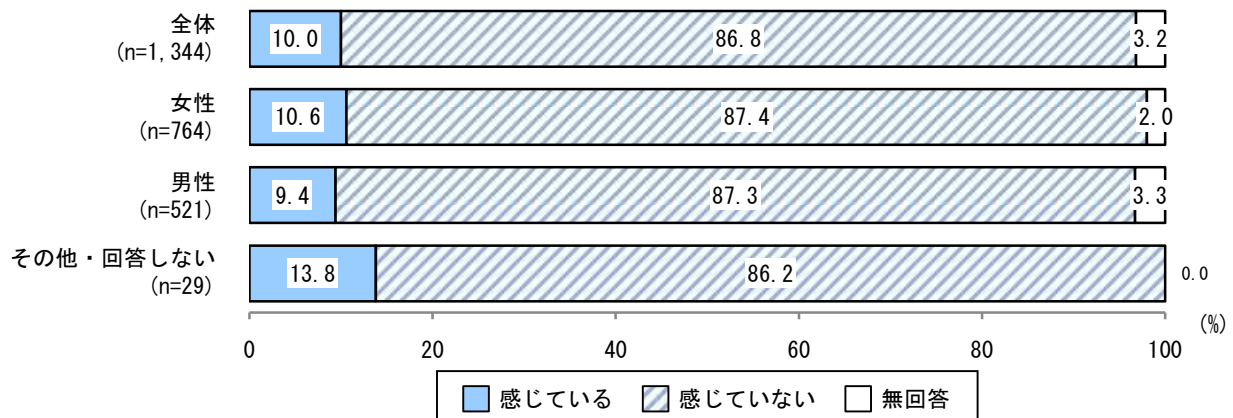
※今回調査では、DVとして捉える範囲を拡大し、暴力の内容に「⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける」を追加している。

11. 抱えている困難な問題について

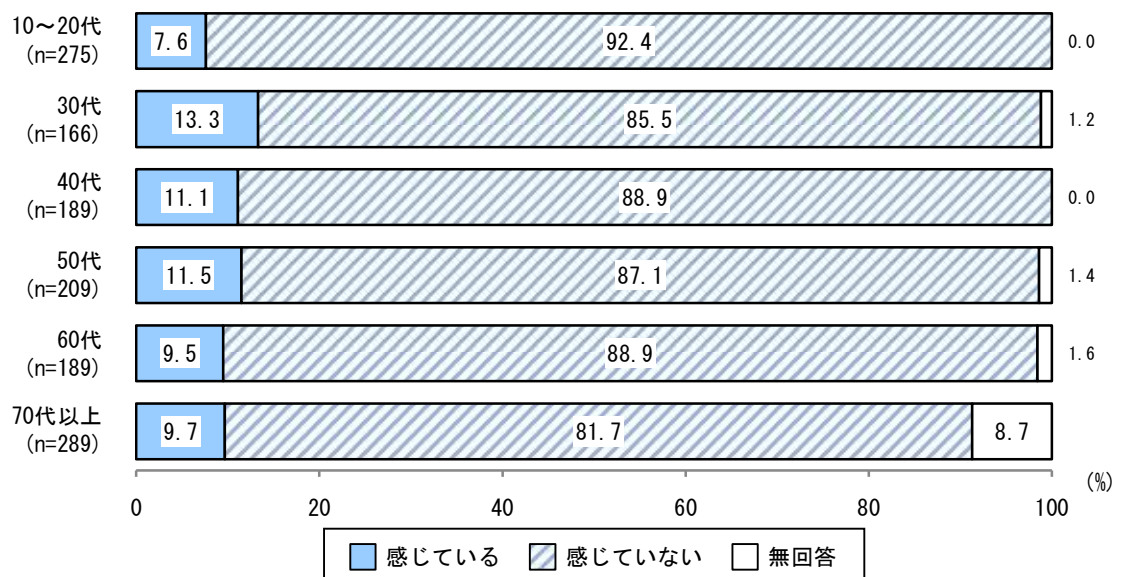
(1) 生活の中で感じている困難さ

問17 貧困、家庭での暴力、性被害など生活の中で困難さを感じていますか。(1つに○)

- ・生活の中で感じている困難さについては、「感じている」が10.0%、「感じていない」が86.8%となっています。
- ・性別による大きな差はみられません。



- ・年代別でみると、「感じている」の割合は30代が13.3%で最も高く、次いで50代が11.5%となっています。

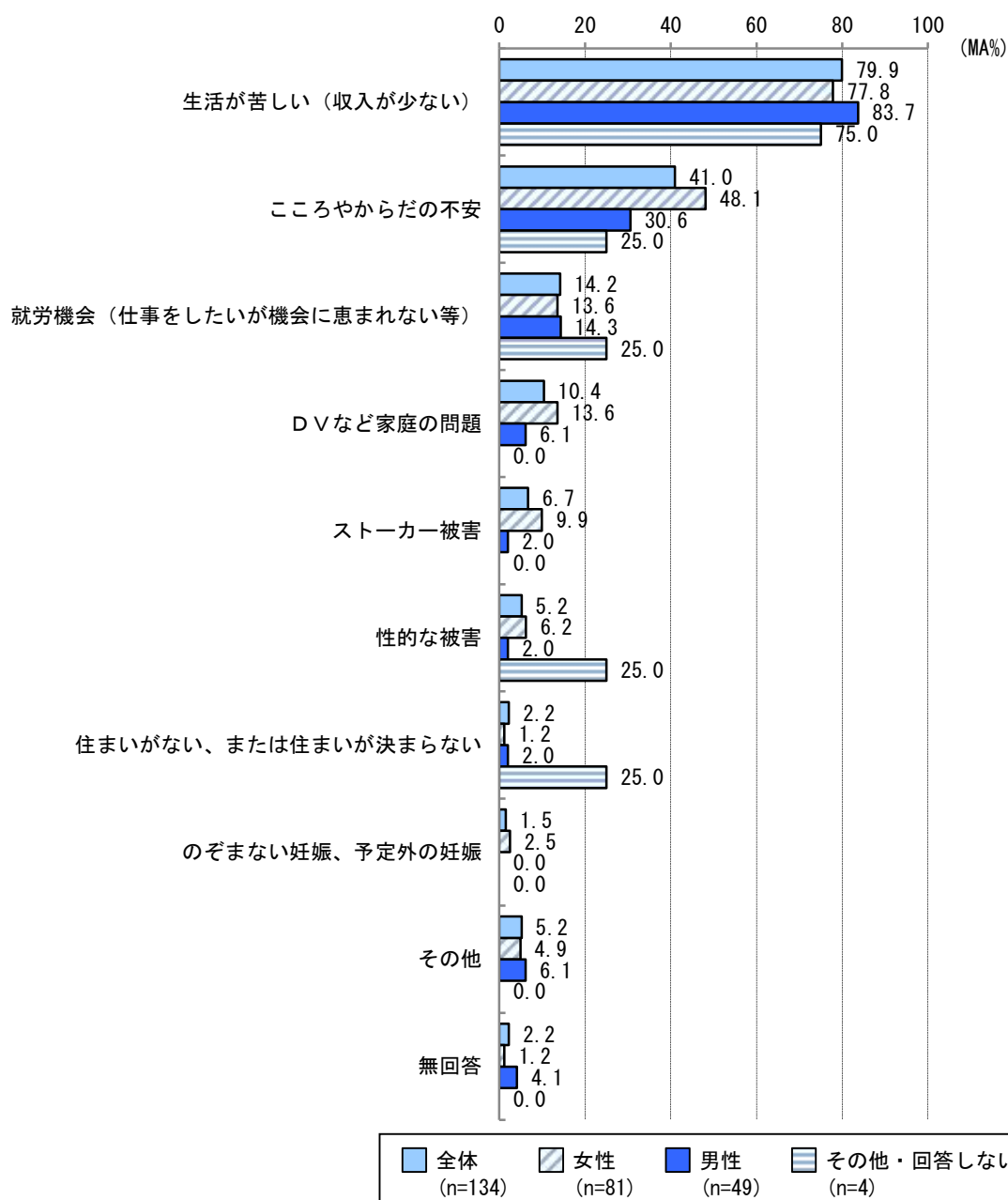


(2) 生活の中で感じている困難な内容

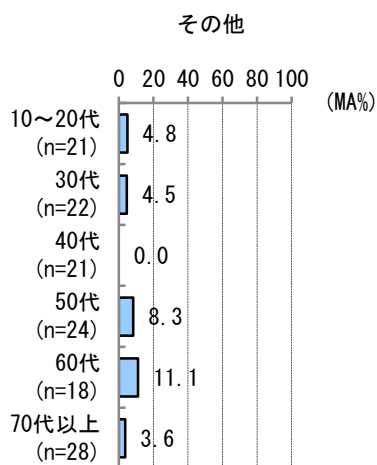
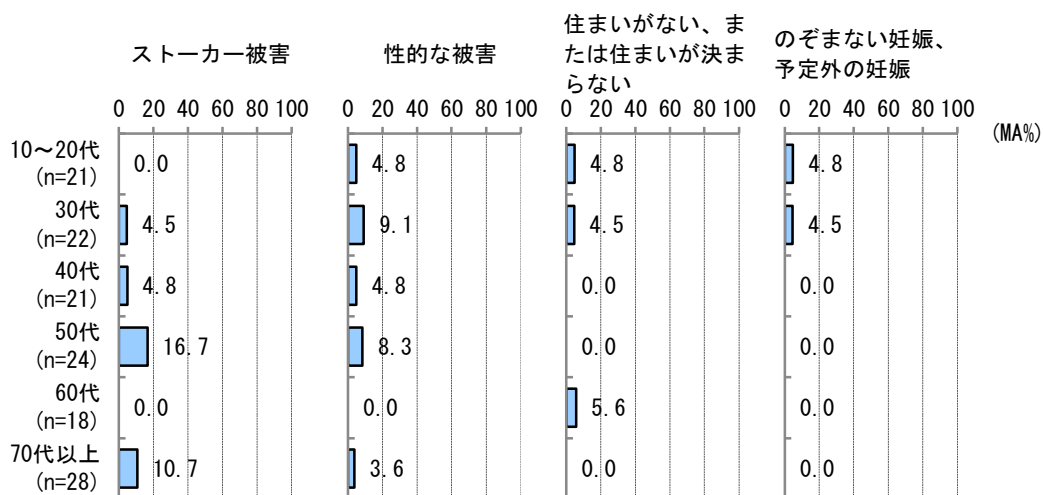
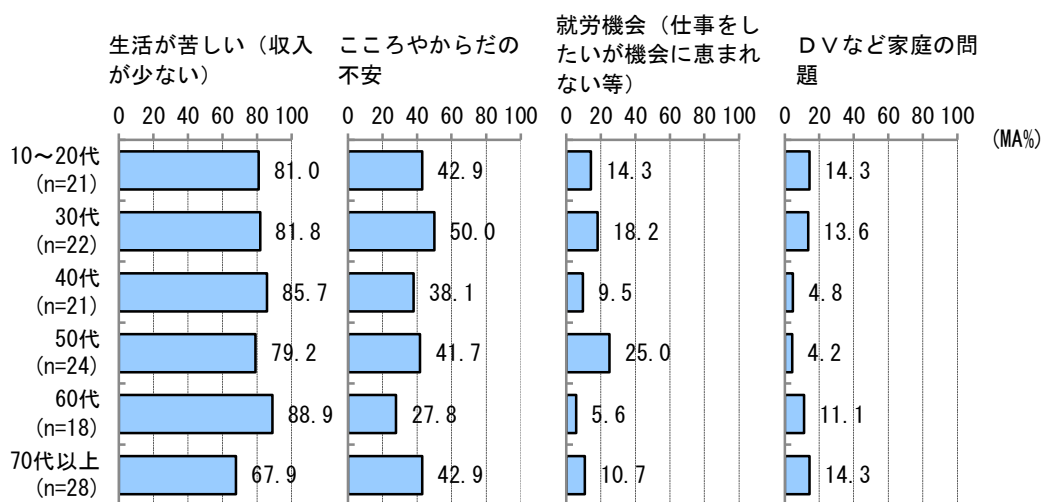
問17で「感じている」に○をつけた方にうかがいます。

問18 それは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

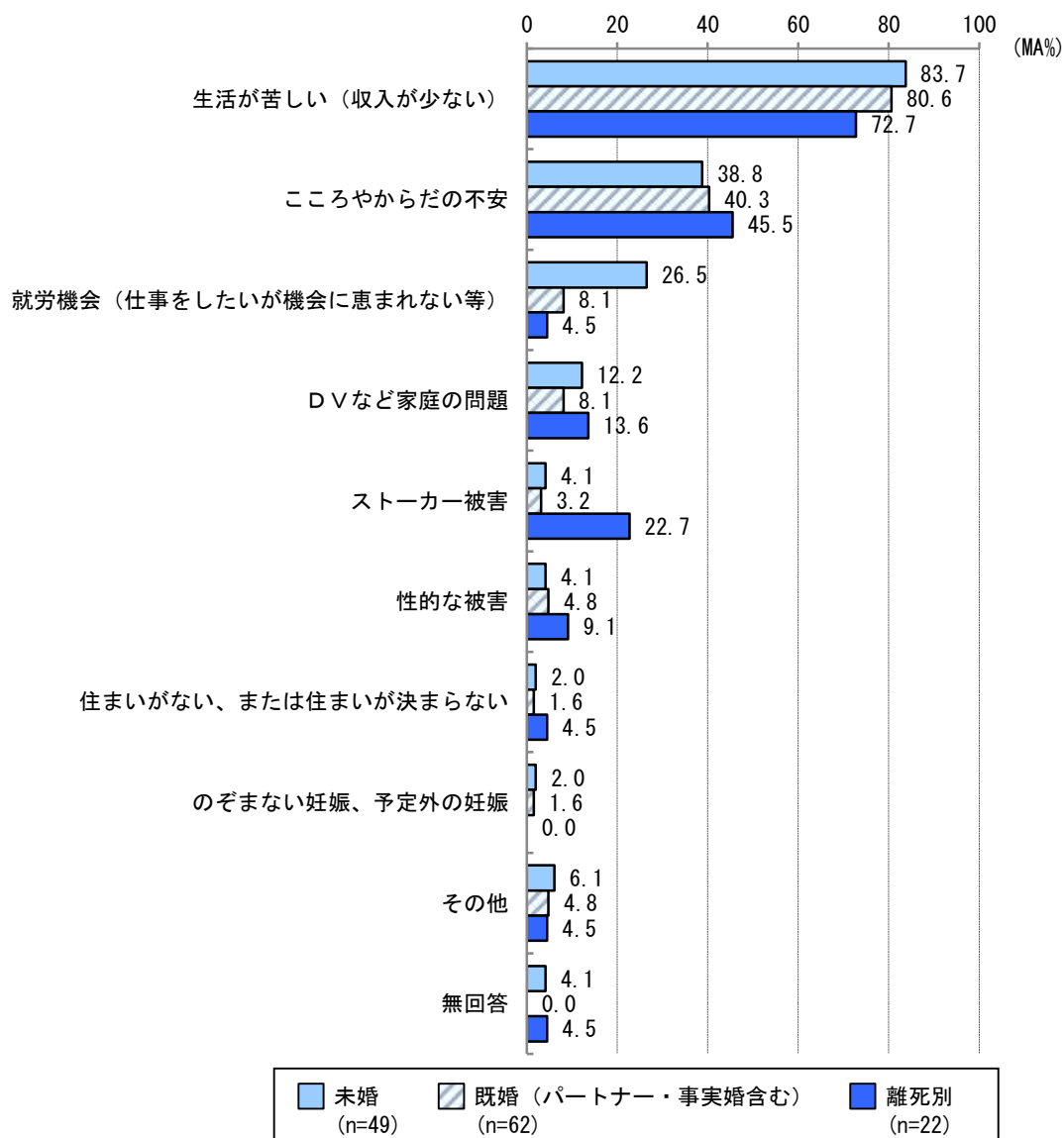
- ・生活の中で困難さを感じていると回答した人に、その困難な内容をたずねると、「生活が苦しい(収入が少ない)」が79.9%で最も多く、次いで「こころやからだの不安」が41.0%、「就労機会(仕事をしたいが機会に恵まれない等)」が14.2%となっています。
- ・性別でみると、「こころやからだの不安」の割合は男性(30.6%)より女性(48.1%)のほうが17.5ポイント、「ストーカー被害」の割合は男性(2.0%)より女性(9.9%)のほうが7.9ポイント、「DVなど家庭の問題」の割合は男性(6.1%)より女性(13.6%)のほうが7.5ポイント、それぞれ高くなっています。



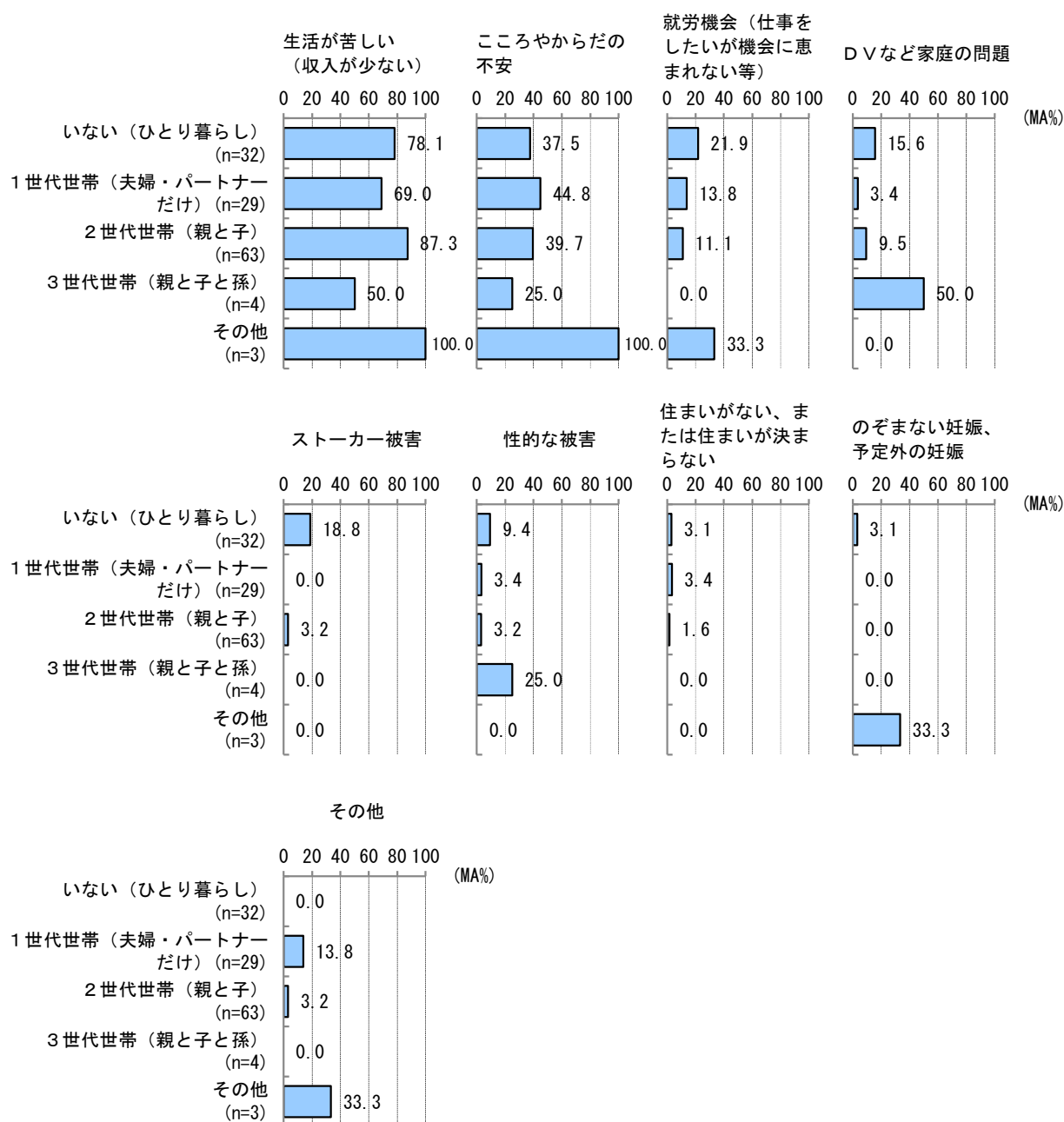
・年代別でみると、母数が少ないため一概にはいえないが、「生活が苦しい(収入が少ない)」の割合は60代が88.9%で最も高く、「こころやからだの不安」の割合は30代が50.0%で最も高くなっています。



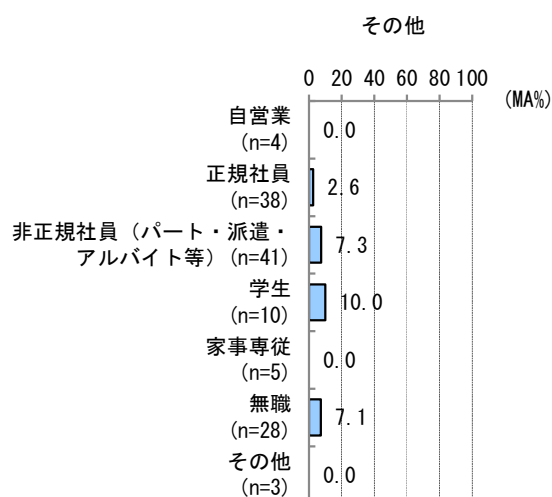
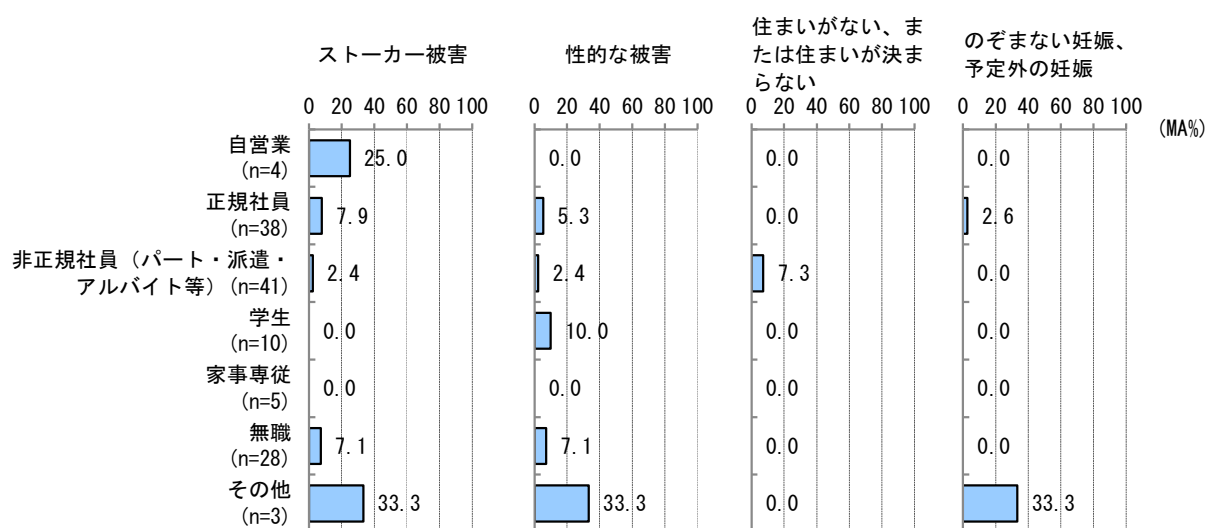
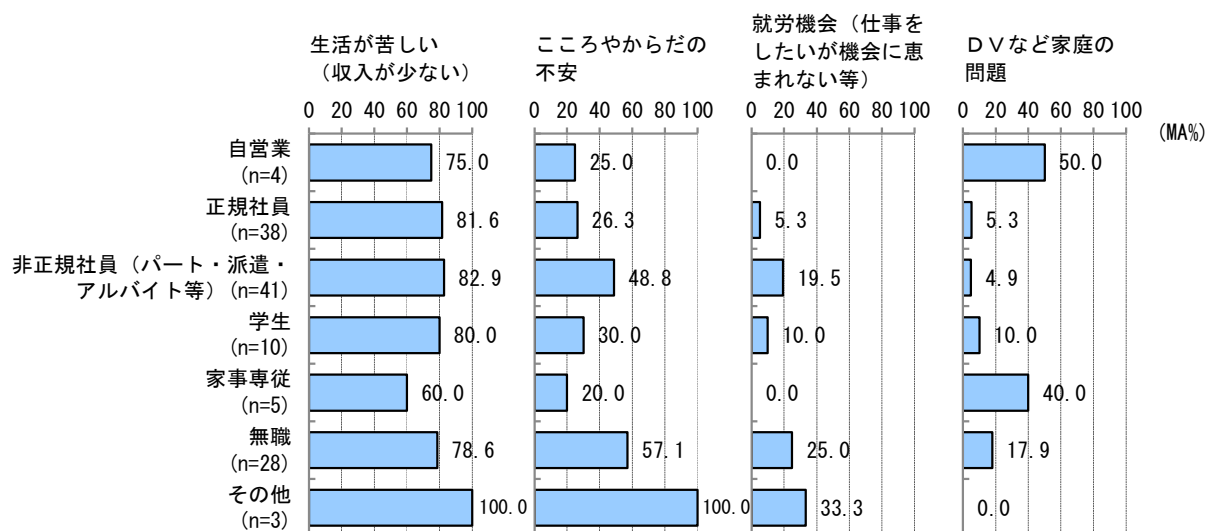
- ・結婚状況別でみると、「生活が苦しい（収入が少ない）」、「就労機会（仕事をしたいが機会に恵まれない等）」の割合は未婚が最も高く、離死別が最も低くなっています。



- ・同居家族別でみると、母数が少ないため一概にはいえないが、いずれの世帯も「生活が苦しい（収入が少ない）」の割合が最も高く、なかでも2世代世帯（親と子）が87.3%で最も高くなっています。



- ・回答者自身の主な仕事別でみると、母数が少ないため一概にはいえないが、いずれも「生活が苦しい（収入が少ない）」の割合が最も高く、過半数を占めています。
- ・「こころやからだの不安」を感じていると回答した方は、他の仕事と比較して、無職と非正規社員に多くみられます。



IV. スコア分析

1. 男女共同参画施策等の認知度に関するスコア分析

【スコアの算出方法】

問11の設問内容は下記のとおりとなっています。

- ①尼崎市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度
- ②ジェンダー
- ③SOGI
- ④困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

上記の4項目について、「言葉の意味や内容を知っている」に3点、「言葉は聞いたことがある」に2点、「知らない」に1点と、認知度が高いほどスコアが高くなるように点数を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出しました。

さらに、問14の女性センタートレピエの認知度について「誰でも使えることを知っていた」に3点、「トレピエは知っていたが、女性しか使えないと思っていた」に2点、「女性センタートレピエがどのような施設か知らない」に1点と、認知度が高いほどスコアが高くなるように点数を与え、回答者一人ひとりについて合計点を算出しました。

上記5項目全て無回答のものは対象外としたため、各回答者は理論値で最小1点から最大15点のスコアを得ることになります。このスコアを「認知度スコア」と規定しました。

表 男女共同参画施策等の認知度のスコア別回答者数

スコア	カテゴリー	
1～5点	117 (8.7%)	認知度「低群」
6～10点	1,049 (78.1%)	認知度「中間群」
11～15点	171 (12.7%)	認知度「高群」
無回答	7 (0.5%)	-
合計	1,344	-

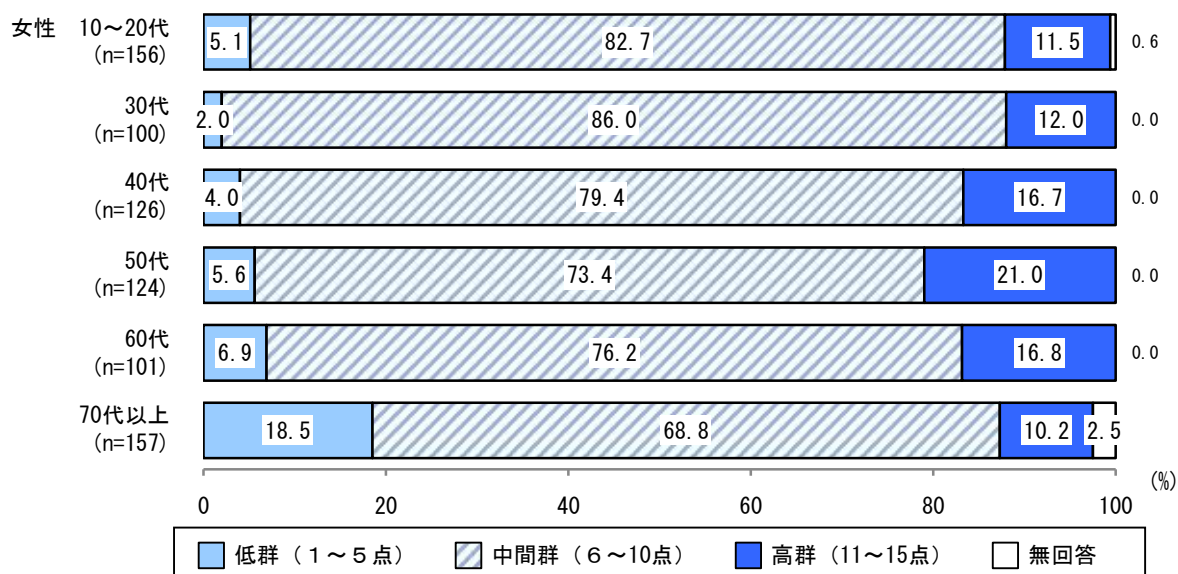
全回答者が得たスコア別の回答者数は上記のとおりです。クロス集計を行うため、5点以下を認知度「低群」、6点以上10点以下を認知度「中間群」、11点以上を認知度「高群」の3グループに分けました。

回答者の分布は「低群」が8.7%、「中間群」が78.1%、「高群」が12.7%となっています。

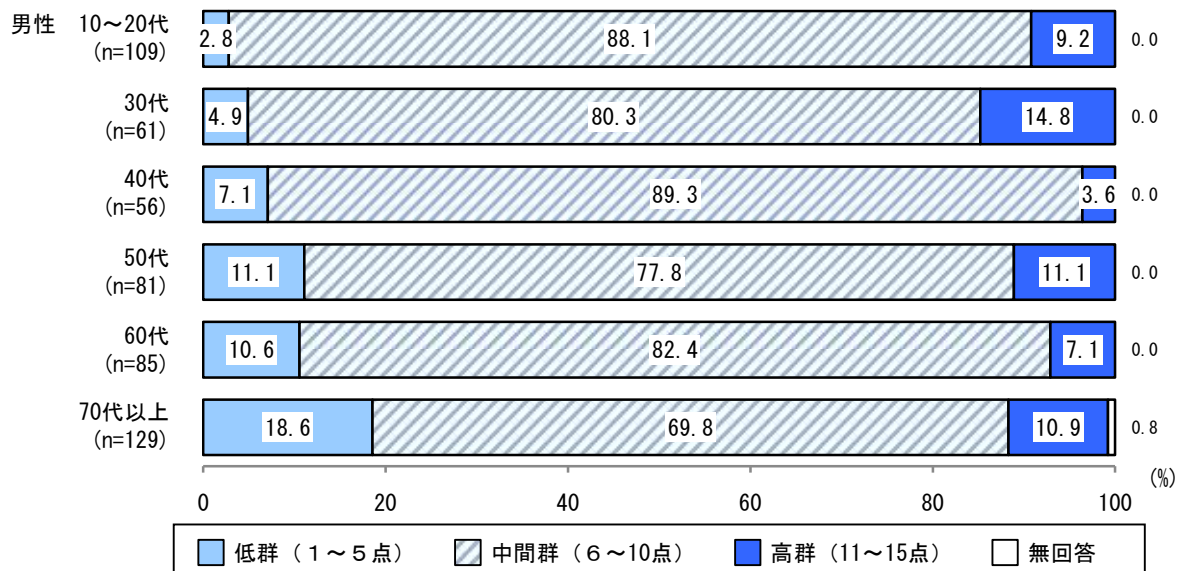
【性年代別でのクロス集計】

- ・性年代別でみると、70代以上の男女で認知度「低群」が高く、女性18.5%、男性18.6%となっています。
- ・また、認知度「高群」の割合は女性は50代が21.0%で最も高く、男性では30代が14.8%で最も高くなっています。

【女性（n=764）】

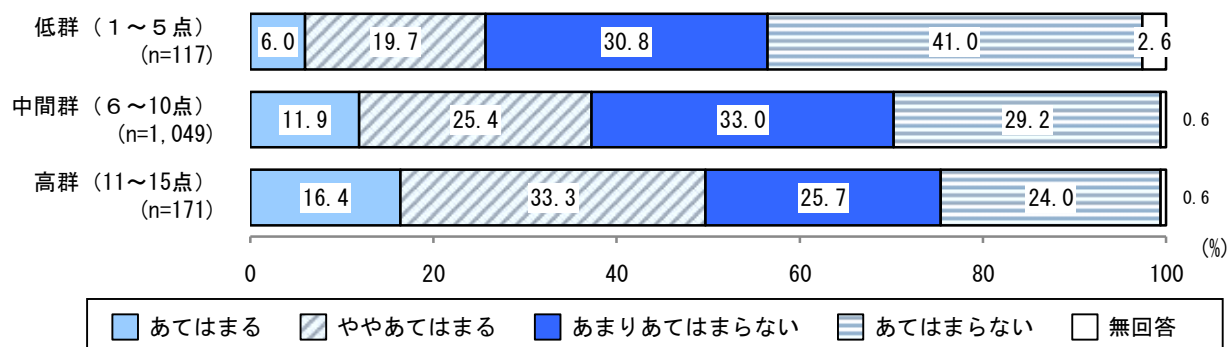


【男性（n=521）】



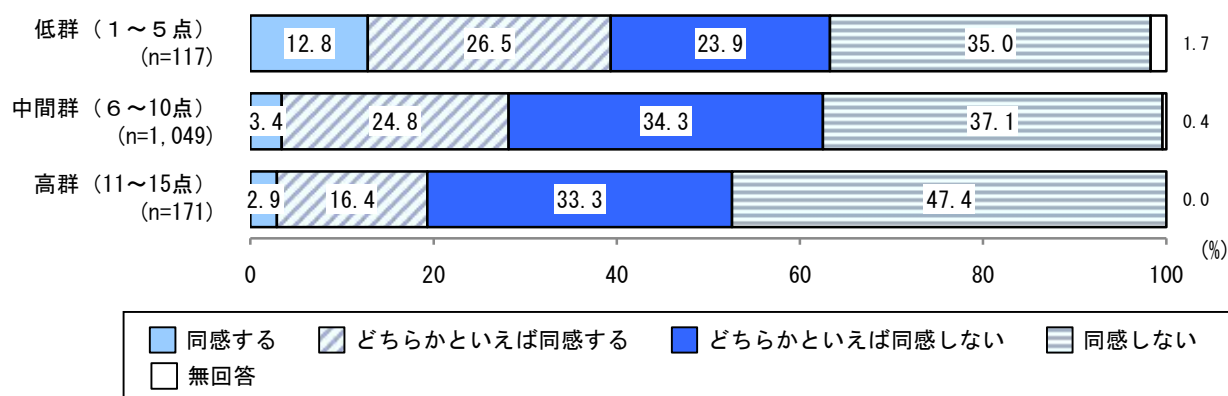
【問2 女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことの有無とのクロス集計】

・女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことの有無については、『感じたことがある』（「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた割合）の割合は認知度が高くなるほど高くなり、認知度「高群」が49.7%となっています。



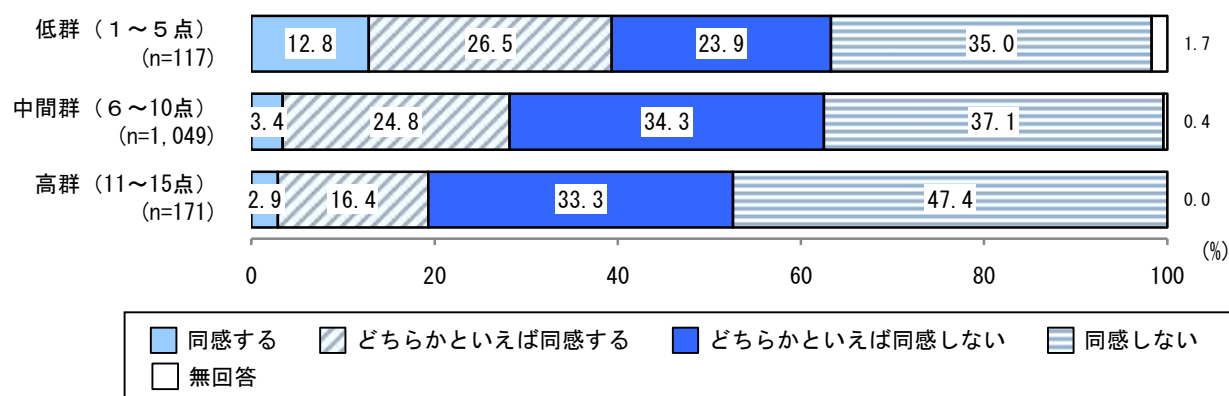
【問4 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方とのクロス集計】

・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、『同意』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」をあわせた割合）の割合は認知度が高くなるほど低くなり、『不同意』（「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」をあわせた割合）の割合が高くなっています。



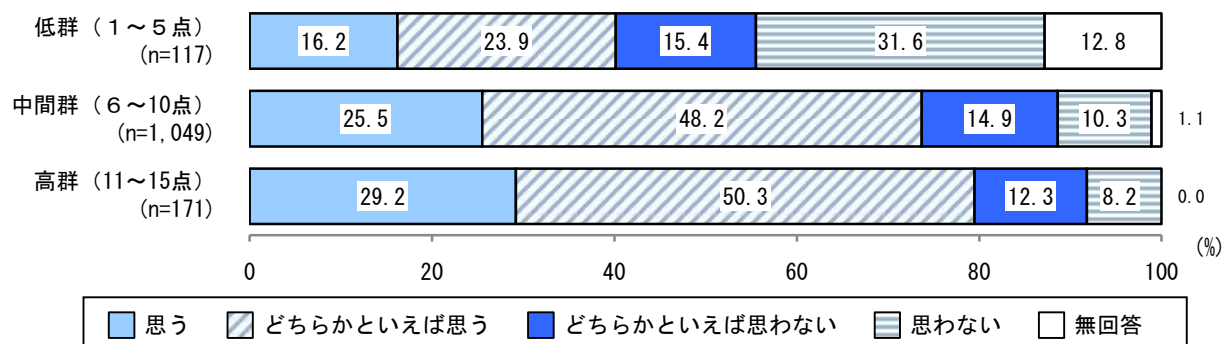
【問9 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきという考え方とのクロス集計】

・男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきという考え方については、『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合）の割合は認知度が高くなるほど低くなり、『そう思わない』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた割合）の割合が高くなっています。



【問12 性的マイノリティの人の生きづらさとのクロス集計】

・性的マイノリティの人の生きづらさについては、『生きづらいと思う』（「思う」と「どちらかといえば思う」をあわせた割合）の割合は認知度が高くなるほど高くなり、認知度「高群」では79.5%を占めています。



V. 資料編（調査票）

男女共同参画に関する市民意識調査 調査票

◎この調査はパソコン・スマートフォンからも回答することができます。

右記二次元コードまたは下記 URL よりご回答ください。

URL 》 <https://src.webcas.net/form/pub/src2/282022dj>



◇ID

ama20001

※上記の ID は、二重回答を防ぐためのものです。この番号から個人を特定することはできません。

※最後までご回答いただいた方へは、**あま咲きコイン 300 ポイント**を差し上げます。
詳細はP. 8にてご確認ください。

**調査回答にかかる所要時間は10分～15分程度です
ご協力をお願いします**

男女の平等感についてうかがいます。

問1 次の①～⑦の各分野における男女の平等感について、（A）現在の状況と、（B）理想の状況について教えてください。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

	（A）現在の状況					（B）理想の状況		
	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	男性が女性よりも優遇されるべき	平等であるべき	女性が男性よりも優遇されるべき
① 家庭では	1	2	3	4	5	1	2	3
② 地域では	1	2	3	4	5	1	2	3
③ 学校（教育の場）では	1	2	3	4	5	1	2	3
④ 職場では	1	2	3	4	5	1	2	3
⑤ 政治では	1	2	3	4	5	1	2	3
⑥ 法律や制度	1	2	3	4	5	1	2	3
⑦ 社会全体では	1	2	3	4	5	1	2	3



問2 直近5年の間に、女性だから男性だからという理由で生きづらさや理不尽さを感じたことがありますか。(1つに○)

1. あてはまる
2. ややあてはまる
3. あまりあてはまらない
4. あてはまらない

問2で「あてはまる」「ややあてはまる」に○をつけた方にうかがいます

問3 直近5年の間に、理不尽さや生きづらさを感じた考え方は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 親が病気や介護を必要とするとき、女性が面倒をみるべきだという考え方
2. 男性はむやみに弱音を吐くものではないという考え方
3. 妻は家族のために家事や育児をする責任を持つべきだという考え方
4. 子どもが病気などで苦しんでいるとき、それを我が事として感じとれるのは母親だという考え方
5. 力仕事は男性がすべきだという考え方
6. 夫は家族のために収入を得る責任を持つべきだという考え方
7. 物事を決定するのは男性であるという考え方
8. その他(具体的に:)

男女の役割分担などについてうかがいます。

問4 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

1. 同感する
2. どちらかといえば同感する
3. どちらかといえば同感しない
4. 同感しない



仕事についてうかがいます。

問5 あなたは、仕事についてどのようにお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 才能や能力、知識や技術を発揮できる | 2. 社会的な経験を積み、視野を広げられる |
| 3. 生きがいが得られる | 4. 人間関係が豊かになる |
| 5. 社会に居場所ができる | 6. 生活費を得るために必要である |
| 7. 家計を補うために必要である | 8. 将来の貯蓄を得るために必要である |
| 9. 自由裁量のお金が得られる | 10. 働くことは当然である |
| 11. 仕事はしたくない | 12. その他(具体的に:) |

問6 あなたは育児、介護などで時間に制約がありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. ある | 2. どちらかといえばある |
| 3. どちらかといえない | 4. ない |

問7 今後どのように働きたいですか。(問6で制約があると答えた方は、制約の要因がなくなったと想定してお答えください。)(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------|
| 1. 今よりもっと長い時間働きたい |
| 2. もっといろいろな仕事に挑戦してみたい |
| 3. 資格取得などのスキルアップに取り組みたい |
| 4. もっと責任ある仕事をしたい |
| 5. このままでよい |
| 6. その他(具体的に:) |

地域活動についてうかがいます。

問8 単位福祉協会(自治会)、ボランティアなどの地域活動に関する①～⑥の項目について、

(A) 男女の分担の実態と、(B) それについてのあなたの考えを教えてください。

(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	(A) 男女の分担の実態					(B) 考え		
	主に女性が担っている	どちらかという 女性が担っている	男女が同程度担っている	どちらかという 男性が担っている	主に男性が担っている	もっと女性が参加する方がよい	もっと男性が参加する方がよい	このままでよい
① 地域活動の企画立案	1	2	3	4	5	1	2	3
② 行事の準備や片付け	1	2	3	4	5	1	2	3
③ 話し合いの場での発言	1	2	3	4	5	1	2	3
④ 地域活動への参加	1	2	3	4	5	1	2	3
⑤ 団体の長になる	1	2	3	4	5	1	2	3
⑥ 防災・防犯活動への参加	1	2	3	4	5	1	2	3

子育てについてうかがいます。(子どもがおられない方は、もし子どもがいたらと想定してお答えください。)

問9 子育てについて「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき」という考え方をどう思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. そう思う | 2. ややそう思う |
| 3. あまりそう思わない | 4. そう思わない |

問10 子どもの将来についてうかがいます。女の子、男の子、それぞれの場合について、お答えください。子どもには、どの程度まで教育を受けさせたい(受けさせたかった)ですか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	中学校卒業程度	高等学校卒業程度	専修学校(専門学校)卒業程度	短大・高専卒業程度	四年制大学卒業程度	大学院修了程度	わからない
① 女の子の場合	1	2	3	4	5	6	7
② 男の子の場合	1	2	3	4	5	6	7

男女共同参画施策等についてうかがいます。

問11 次の①～④のことについて、どの程度知っていますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	言葉の意味や内容を知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
① 尼崎市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度	1	2	3
② ジェンダー	1	2	3
③ SOGI	1	2	3
④ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3



性の多様性についてうかがいます。

問12 性的マイノリティの方々にとって、今の社会は生きづらいと思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つに○)

※性的マイノリティとは、「性的少数者」という意味であり、性的指向（どのような性別の人を好きになるか）が異性愛のみでない人、または性自認（自分の性をどのように認識しているか）が戸籍上の性と異なる人たちなどの総称として用いられています。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う |
| 3. どちらかといえば思わない | 4. 思わない |

問12で「思う」「どちらかといえば思う」に○をつけた方にうかがいます。

問13 性的マイノリティの方々は、どういった理由で生きづらいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------|
| 1. 周囲からの偏見や差別 |
| 2. 学校や職場でのいじめやからかい |
| 3. 家族や周囲の人の理解が得られない |
| 4. 相談できる窓口が少ないこと |
| 5. 生活環境（トイレ・更衣室の使用など） |
| 6. パートナーと婚姻できない |
| 7. 就職・職場で不利な扱いを受けること |
| 8. その他（具体的に： _____） |

尼崎市女性センタートレピエについてうかがいます。

※女性センタートレピエは、男女共同参画を推進する市の拠点施設として、男女共同参画に関するセミナー、研修等啓発事業を行っています。

問14 女性センタートレピエは、誰でも使える施設であることを知っていますか。(1つに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 誰でも使えることを知っていた |
| 2. トレピエは知っていたが、女性しか使えないと思っていた |
| 3. 女性センタートレピエがどのような施設か知らない |

問15 男女共同参画（ジェンダー平等ともいいます）に向けて、どのような取組が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 女性を対象にした支援 |
| 2. 男性を対象にした支援 |
| 3. 性別を限定せず、ジェンダーによって生きづらさを感じている人への支援 |
| 4. 仕事において活躍したい女性が、個性と能力を発揮できるような支援 |
| 5. 家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組 |
| 6. その他（具体的に： _____） |

配偶者やパートナー※¹、恋人※²からの暴力についてうかがいます。

※1：パートナーとは同性カップルなど、一方又は双方がLGBT等の性的マイノリティである2人の関係の事です。

※2：婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含みます。

問 16-1 次の①～⑩にあげる配偶者・パートナー、恋人などからの行為に関して、

(A) あなたの考えを教えてください

(B) あなたはそのような行為をした、もしくはされた経験はありますか

(C) そのような行為を子ども時代に目撃した経験はありますか

(A・Cはそれぞれ、あてはまるもの1つに○、Bはあてはまるものすべてに○)。

	(A) 考え			(B) 経験			(C) 子ども時代の目撃経験	
	許されない	許されない場合もある	問題とは思わない	相手に対してしたことがある	相手からされたことがある	したことがない	見たことがある	見たことがない
① なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする	1	2	3	1	2	3	1	2
② 危害を加えると脅す	1	2	3	1	2	3	1	2
③ 「女(男)のくせに」とばかにしたり、見下したりする	1	2	3	1	2	3	1	2
④ 何を言っても無視をし続ける	1	2	3	1	2	3	1	2
⑤ いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	1	2	3	1	2
⑥ 生活費や自由に使えるお金を渡さない	1	2	3	1	2	3	1	2
⑦ 仕事に就くことを禁じる	1	2	3	1	2	3	1	2
⑧ 携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する	1	2	3	1	2	3	1	2
⑨ メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る	1	2	3	1	2	3	1	2
⑩ 理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける	1	2	3	1	2	3	1	2

問 16-1 (B) で、ひとつでも「2. 相手からされたことがある」に○をつけた方は問 16-2 にお進みください。それ以外の方は問 17へお進みください。

問 16-2 配偶者やパートナー、恋人などから受けた行為について、だれかに相談しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 相談機関や窓口相談した	2. 警察・交番に相談した
3. 弁護士・弁護士会に相談した	4. 医療関係者に相談した
5. 家族・親戚に相談した	6. 友人・知人に相談した
7. その他(具体的に：)	)
8. どこ(だれ)にも相談しなかった	

あなたが抱える困難な問題についてうかがいます。

問17 貧困、家庭での暴力、性被害など生活の中で困難さを感じていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 感じている | →問18へ |
| 2. 感じていない | →問18への回答は不要です |

問17で「感じている」に○をつけた方にうかがいます。

問18 それは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 生活が苦しい(収入が少ない) | 2. 住まいがない、または住まいが決まらない |
| 3. こころやからだの不安 | 4. ストーカー被害 |
| 5. 性的な被害 | 6. DVなど家庭の問題 |
| 7. のぞまない妊娠、予定外の妊娠 | 8. 就労機会(仕事をしたいが機会に恵まれない等) |
| 9. その他(具体的に: |) |

ご自身についてうかがいます。

F1 性別を教えてください。(1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|-----------|----------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他() | 4. 回答しない |
|-------|-------|-----------|----------|

F2 年代を教えてください。(1つに○)

- | | | | | |
|--------|----------|--------|--------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 | 5. 50代 |
| 6. 60代 | 7. 70代以上 | | | |

F3 結婚の状況を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|-------|--------------------|--------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚(パートナー・事実婚含む) | 3. 離死別 |
|-------|--------------------|--------|

F4 同居されているご家族を教えてください。(1つに○)

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. いない(ひとり暮らし) | 2. 1世代世帯(夫婦・パートナーだけ) |
| 3. 2世代世帯(親と子) | 4. 3世代世帯(親と子と孫) |
| 5. その他(具体的に: |) |

F5 あなたと配偶者・パートナーの現在の主な仕事について教えてください。

(最もあてはまると思うもの1つに○)

あなた	配偶者・パートナー
1. 自営業	1. 自営業
2. 正規社員	2. 正規社員
3. 非正規社員(パート・派遣・アルバイト等)	3. 非正規社員(パート・派遣・アルバイト等)
4. 学生	4. 学生
5. 家事専従	5. 家事専従
6. 無職	6. 無職
7. その他(具体的に:)	7. その他(具体的に:)
	8. 配偶者・パートナーはいない

F 6 家計の状況を教えてください。(1つに○)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 余裕がある | 2. やや余裕がある |
| 3. やや余裕がない | 4. 余裕がない |

男女共同参画に関してご意見がありましたら、ご自由にご記入ください。

あま咲きコインについて

- ・最後までご回答いただいた方へ、あま咲きコイン300ポイントを差し上げます。(※)
 - ・あま咲きコインの会員コードが誤っていた場合、ポイントの付与ができませんのでご注意ください。
- ※ポイントの付与は年内を予定しています。

◎枠内にあま咲きコインの会員コード(数字8桁)をご記入ください。

◇あま咲きコイン会員コード

--



最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の封筒に入れ、切手を貼らずに **10月27日(月)**までに返送してください。

※あま咲きコインをはじめて利用する方へ

右記の二次元コード(市ホームページ)をご覧ください。



尼崎市男女共同参画に関する市民意識調査
報 告 書

令和 8 年(2026年) 3 月

尼崎市役所 総合政策局 文化・人権担当 ダイバーシティ推進課

住 所：〒660-8501 尼崎市東七松町 1 丁目23番 1 号

電 話：06-6489-6658

FAX：06-6489-6661

メール：ama-danjo@city.amagasaki.hyogo.jp
